2020 年度卒業論文

東京圏における伝道者のリアリティー

環境情報学部４年学籍番号:71543814 氏名:小林恵菜 t15381kk@sfc.keio.ac.jp

要約

日本のキリスト教人口は 20 年以上１％から２％周辺をさまよっている。戦後は GHQ によってアメリカから宣教師がたくさん送り込まれて、日本での伝道活動は活発になったものの、最近はキリスト教徒の高齢化とともに、伝道者も少なくなっている。オウム真理教の事件以降は宗教に対するイメージも悪化して、キリスト教会も活発な伝道活動をしない場合が多い。そのような状況の中、現代の伝道者はどのようなリアリティーを持って伝道を続けているのだろうか。東京近辺における伝道者にナラティヴ・アプローチの視点からインタビューを行いトランスクリプトし、宗教が避けられる傾向にある現代において、伝道者たちがどんな困難に直面して、困難に直面してもなお伝道を続けるモチベーションはどのようなものなのか分析した。伝道者たちは、伝道のモチベーションは、義務的なものや達成感などではなく、愛や喜びであった。伝道者たちは、様々な困難を経験しているが、聖書を大きな物語として位置づけ、聖書の言葉と信仰によって乗り越えていた。

目次

1　序論
1.1　背景
1.2　研究の目的
1.3　研究対象
1.4　伝道者の類型・対象地域
1.5　先行研究
1.6　仮説
1.7　方法
1.8　質問事項
2　本論
2.1　伝道者 B 氏へのインタビュー
2.1.1 伝道者 B 氏について
2.1.2 伝道の場所と時代背景
2.1.3 インタビュー
2.1.4 使われた言語に関する解説
2.1.5 考察
2.2　伝道者 C 氏へのインタビュー
2.2.1 伝道者 C 氏について
2.2.2 伝道の時期・場所・対象
2.2.3 インタビュー
2.2.4 使われた言語に関する解説
2.2.5 考察
2.3　伝道者 D 氏へのインタビュー（参与観察を含む）
2.3.1 伝道者 D 氏の伝道グループについて
2.3.2 伝道者 D 氏について
2.3.3 インタビュー
2.3.4 S さんについて
2.3.5 参与観察
2.3.6 考察
2.4　伝道者 E 氏へのインタビュー
2.4.1 伝道者 E 氏について
2.4.2 伝道の時期・場所・対象
2.4.3 インタビュー
2.4.4 使われた言語に関する解説
2.4.5 考察
2.5　伝道者 D 氏のグループの伝道の参与観察
2.6　テキストマイニング による比較
3　結論
4　謝辞
5　参考文献

1　序論

1.1　背景

現在日本には、ミッションスクールや教会もたくさんあり、キリスト教式の結婚式もクリスマスなどの文化も定着しているし、戦後に GHQ は多くの伝道者を日本に送った事実もあるが、日本のキリスト教人口は 1,914,196 人 1 .1%(平成 28 年度 12 月 31 日現在)である。キリスト教は文化庁宗教年鑑によると、信者数における割合は、1994 年以降 1 %周辺であり、人口に占める割合は、2007 年以降 1%~2%である。増加した当時は、人々が宗教を必要とする理由として、社会が不安定であったり、貧しかったりするなどの要因があったが、現在はある程度社会も安定していて、宗教に関心を持つ人は減っている。世界のキリスト教人口は 32.9%　24.5 億人、中国でも 5.1%(2017 年)、韓国はプロテスタントが 19.7%である。長らく、なぜ日本ではキリスト教が広まらないのか議論が起こってきた。占い、ヨガ、座禅、瞑想など宗教的な行為は、普段から多くの日本人が行なっている。既存の研究では、日本の風土、迫害の歴史、教会の責任、日本人の土着の宗教と

いう原因が挙げられてきた。一方、この研究をするにあたって、キリスト教の出版社の編集者にお話を伺ったが、長らく言われてきた、日本の風土という原因を否定し、キリスト教会に原因があると話していた。キリスト教会も消極的になっていたり、内向きに閉じている傾向があったりするようである。日本で伝道することは難しいと言われているが、どうして伝道者は伝道ができるのだろうか。どのような動機で何を目指しているのだろうか個人へのインタビューによって彼らのリアリティーを記述する。

1.2　研究の目的

教会の外で活動してきた伝道者は、宗教に関心のない人の多い現代において、なぜ伝道のモチベーションを保つことができるのかを、非キリスト教徒との接点の中で彼らがどのようなリアリティーを持っているのかから明らかにする。本研究はアンケート調査などの、マクロなデータから見えてこなかったミクロな側面を明らかにすることで新たな視点を得ることを目的とする。よって、伝道者全体の傾向を決定づける目的ではない。

1.3　研究対象

キリスト教プロテスタントで、東京周辺で、教会の外で（伝道集会でなく）の伝道活動をしている人（していた人)。

1.4　伝道者の類型・対象地域

今回インタビューをしたのは、路傍伝道、芸術やスポーツを教えることを通しての伝道、一定の形態を取らない伝道方法を取る合計 4 人である。キリスト教の集会などに足を運んだ非キリスト教徒を対象に伝道する伝道者ではなく、教会の外において、伝道活動を行う伝道者を対象とする。集会に足を運ぶ非キリスト教徒は、キリスト教にもともと興味を持っている人の比率が高いと思われるので、宗教に興味を持たれにくい現代社会での伝道者の経験とは異なると考えるからである。

場所は、東京周辺を対象とする。

1.5　先行研究

1.5.1 共同研究「日本ではなぜ福音宣教が実を結ばなかったか」研究会 F グループ July,2012

民族地理学者・文化人類学者の川喜田二郎が発案した KJ 法に基づき、牧師・信徒・未信者を対象にインタビューをしてデータを収集し、分析。

結論は三つの理由にまとめられた。

第一の理由：日本の教会がキリスト教の心を具体化していない教会であったから。

第二の理由：牧師・指導者（長老・役員・執事たち）が未熟であったから。

第三の理由：クリスチャンを含めた日本人が島国的劣等感の束縛から解放されていないから。

『過去 150 年の日本プロテスタント教会の伝道が良い成果を上げることができなかったのは、日本の社会や国に問題があると論じられてきた。しかし、今回の「KJ 法」による研究によれば、日本の社会や国の問題は一部に過ぎないのであって、むしろプロテスタント教会の内側に、より大きな要因があることが明らかにされた。すなわち、プロテスタント教徒の心の問題や信仰の質の問題であったということである。』p.28

1.5.2「ナラティヴ・アプローチ」野口（2009）

ナラティブ・アプローチは「ナラティヴという形式を手がかりにして何らかの現実に接近していく方法」として定義される。ナラティブは、出来事の時間的連鎖を伝えるものである。しかし、その連鎖が必然なのか偶然なのかは一義的に確定できない。「セオリー・モード」の形式では、その連鎖の因果関係を明確に伝える形となる。また、「エビデンス」は、セオリーよりも因果関係を統計的分析に基づいて主張するものである。ナラティヴはエビデンスやセオリーを示すためのデータとして位置づけられる。ナラティヴは、「時間性」「意味性」「社会性」を伝えるという特徴がある。「時間性」とは、ナラティヴが出来事の順序を伝えるということである。ナラティヴはプロットという出来事相互の関係や意味を示すものを得ることで意味を伝えるが、それが「意味性」である。「社会性」は、ナラティヴは通常具体的な誰かに向かって語られるが、その相手が誰であるかによって語り方が変わるということである。我々の生きる現実は様々なナラティヴによって成り立っており、ナラティヴによって組織化されている。ナラティヴ・アプローチはこうした認識から出発するものである。

ナラティヴはどのような形をとって我々の生きる現実を構成するか。

（1）「大きな物語」と「小さな物語」

「大きな物語」とは、様々な物語を背後から正当化する物語という意味で使われており、近代という時代を支えてきた「解放の物語」、「進歩の物語」などがそれに当たる。これに対して「小さな物語」とは、そのような「大きな物語」の支えなしに成り立つ物語で、そうした正当化とは無関係に新しいアイディアを出すことそれ自体を目的とするような知のあり方がその代表例とされる。

（2）「ドミナント・ストーリー」と「オルタナティヴ・ストーリー」

「ドミナント・ストーリー」はある状況を支配している物語という意味で用いられ、ある状況において自明の前提とされ疑うことのできないものである。一旦疑われるとそれは、「ドミナント」でなくなり、代わりに現れるのが「オルタナティヴ・ストーリー」である。「ドミナント・ストーリー」は「大きな物語」とは違い、家庭、職場、学校とい

った様々な状況ごとに定義される。

1.5.3『キリスト教への好意促進とクリスチャン拡大のための調査―報告書―2003 年 3 月 18 日』(株) 日本マーケティングシステムズ　第一回調査　エリヤ会

調査地域：東京から 30km 圏内

調査方法：エリアサンプリング法による質問紙留置法

調査対象者：15~29 歳の一般男女。男性:525 名、女性 525 名、計 1050 名

調査時期：2002 年 12 月中旬~12 月下旬

・キリスト教への関心程度

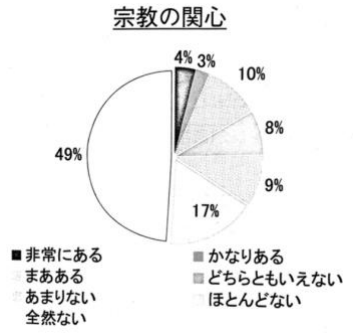
全く関心がない・・・66%

・キリスト教への印象

特にない・・・62%

・宗教に関心がある人は 17%、50 代になると関心が増す傾向がある。

宗教の関心



宗教の関心程度：ライフステージ別

	男性 全体 (1050)	男性 計 (525)	男性 学生 (81)	男性 社会人 ~34歳 (174)	男性 社会人 35~49歳 (160)	男性 社会人 50~59歳 (110)	女性 計 (525)	女性 学生 (77)	女性 社会人 ~34歳 (178)	女性 社会人 35~49歳 (160)	女性 社会人 50~59歳 (110)
ある 計	17	16	19	12	14	26	17	14	14	14	27
非常にある方だ	4	3	3	3	4	4	4	3	4	4	6
かなりある方だ	3	2	5	1	1	4	3	1	2	4	5
まあある方だ	10	11	11	7	9	18	10	10	7	6	17
どちらともいえない	8	8	5	5	12	8	9	9	6	11	10
ない 計	75	76	77	84	74	66	75	77	80	75	63
あまりない方だ	9	8	3	7	9	14	11	9	8	11	15
ほとんどない方だ	17	15	10	12	18	19	18	12	11	29	19
全然ない方だ	49	53	64	66	46	34	46	59	62	35	29

・信じている宗教は、仏教（9%）、創価学会（5%）、キリスト教（2%）、神道（1%）、その他（1%）である。

・キリスト教への印象が特にない 62%、身近なクリスチャンが誰もいない 73%

1.6　仮説

伝道者たちは、伝道の場所で宗教として敬遠されることに困難を感じており、日本で伝道が難しいというドミナントストーリーを共通して持っている。伝道者たちのナラティヴには、「大きな物語」としての聖書が存在しており、その見方から目の前の困難を解釈し、乗り越えることで伝道のモチベーションを保っている。

1.7　方法

インタビューに際しては、質問要項を対象者に渡さずに、自然な会話の中で経験を伺う方法をとり、必要な時にのみ質問要項から質問をする。また、インタビュー内容はトランスクリプトを行い、ディスコースを分析[1]する。分析の際には株式会社ユーザーローカルの提供する AI テキストマイニングツールを用いる。　インタビューのほかに参与観察を行う。

1.8　質問事項

質問事項は初めこのように準備していたが、伝道者が何を感じているのかに焦点を当てて会話を引き出すために臨機応変に対応した。

- 自身の活動について
  - 伝道の方法
- 伝道をしていて感じたこと
  - 非キリスト教徒にキリスト教を伝えた時にどんな反応が見られるか
  - 非キリスト教徒が信仰を持つようになったのはどんな時であったか
  - 伝道する必要は何か
- 伝道をしていないクリスチャンと話した時に、未信者のキリスト教への態度に関する認識の違いを感じたことはあるか
- 日本はキリスト教を受け入れにくい土壌であると言われているが、それについてどう思うか
- なぜキリスト教徒の人口が１%にとどまっていると思うか

2　本論

本章では、伝道者 B 氏、C 氏、D 氏へのインタビューを行った結果をまとめる。

2.1　伝道者 B 氏へのインタビュー（2018 年 1 月 15 日埼玉県内のファミリーレストランにて）

2.1.1 伝道者 B 氏について

伝道者 B 氏は、現在牧師をしているが、伝道をしていた時代は、教会の信徒の立場であった。

2.1.2 伝道の場所・時期・対象

時期：2002 年 3 月から 5 年半（病気療養で中断期間あり）

[1] ノーマン・フェアクラフ(2012)「異なるディスコース群は世界に対する異なる見方である。」

場所：新橋の SL 広場（5 年半のうち初め)、新宿アルタの近くの交差点（最後の一年は、新橋と新宿の二箇所同時並行で行った。）

時間：夜の 7 時か 8 時くらいから始めて、遅い場合夜 11 時くらいまで

頻度：週 1 回木曜日

SL 広場：サラリーマンの待ち合わせのほか、風俗街や銀座に夜に遊びに行く人がいる。ホームレスもいたが、一番多いのはサラリーマンだった。

新宿：お買い物客が多く、信号待ちをしている人たちに向けて話していた。

2.1.3 インタビュー内容

ここからは、今回お話を聞くことができた B 氏へのインタビューを項目ごとにまとめた。できる限り、その時の話し方を残している。動作の補足の場合（(　)）。笑いがあった場合に（笑)。補足が必要な場合に（　)。発言が不明確であったり、聞き取ることができなかったりした場合に××。＜＞の内部は、補うことが必要であると考えたインタビューアーの質問や投げかけである。

2.1.4 伝道のきっかけ

一番最初はカメラマンだった時に、バブルが弾けていて、そしてほんとにその仕事をクビになっているのに、帰れない。家族に何も言えないで帰れないでいる人たちがたくさんいて、その悲惨な姿を見て、そのことがずっと頭にやきついてて。アーサーさんの「親分はイエス様」*1って映画を見たときに、その十字架の前で喋ってる渡瀬 恒彦（わたせ つねひこ）さんのその姿を見て僕もできることがあるかもしれないって思ったのが最初で。それがずっと頭の中を離れなくて、同じことをって。 なんども神様に言って、あるときやっぱりこれしかないって思ってそれで始めた。で、そのときに場所はどこにしようって言ったときに頭の中に、あの時の SL 広場のサラリーマンたちの悲惨な姿がずーっと頭に残っててそこで語ろうって決めたんです。よくサラリーマンがニュースとかでインタビューを受ける場所があるんですよ。その場所がサラリーマンが集まるメッカだと思ったので。そしてその場所に路傍伝道をしよう。この国の働く人々に対して。この国のまず一つの中心で路傍伝道したかったので。

2.1.5 新宿と SL 広場での伝道方法

SL 広場は、おそらく一番多いのがサラリーマンの待ち合わせなんですよ。それ以外に、なんて言ったらいいんだろうな。夜に遊びに行く風俗街とか向こう側にあって、こっち側にサラリーマンが銀座に遊びに行くみたいな感じなので。ちょうどハイソな感じの人とか綺麗な感じの人もいれば、風俗寄りの人とか、いろんな感じの人で混沌としてる。ホームレスもいたし。築地の親父とかもいたし。いろんな感じの人がいましたがたぶんサラリーマンが一番多い。

新宿は、見てわかる通りお買い物客がほとんどだと思うんですけど。場所は、アルタの道路挟んで反対側のところで紀伊国屋に渡るところの交差点があるんですよ。あの交差点でみんな交差点で信号待ちしてる頭に向かって喋ってました（笑)。だから、何万人も通る一日にね。そういうところでずっと伝道してた。散々賛美して、信号待ちの間に何分か一気に喋る。バーって。それで渡っていく。それを何回か繰り返しているうちに何となく立ち止まる人がいるから、その人に招く*2っていう感じの伝道をする。

2.1.6 立ち止まる人々

＜どのくらいの人数の人が立ち止まるのか＞

そのときにもよるけど、10~20 人近くかな。その場所に何メートルか離れて、ストリートのミュージシャン見てるみたいに人がずーっと止まってて、そこでメッセージをするから立ち止まる人が何人かいて。それがだから 10 人から 20 人ぐらいのところでだんだん固まってきたところで。十字架の話を思いっきりしてそして招くんですよ。そして「今イエス様に本当に心を明け渡して受け入れたいと思う人。自分の罪を表して欲しいと思う人。目を閉じましょう。あえて手を挙げたりとかなんかしなくていいです。目を閉じましょう。私今祈るから、皆さんもその心を合わせて一緒に祈りましょう。」というとすごい人数目を閉じるんだよね。でそれで祈って、それで祈り終わるとその全部終わるんですよね。それで終わると中の人たちで本当に切実だったりいろんな思いがある人が話しかけて来る。という感じでした。

＜どんな人が話しかけてくるのか＞

その時々だけど。一般の人が結構たくさんいたけども、なんていうんだろ。順風満帆じゃないのかもしれないね。何か心に思うところ引っかかるところがある人なんだよね。で、僕に声をかけてくれた人たちは圧倒的に、ミッションスクールとか、そういうキリスト教系の関わったことある人ばっかり。そういう人たちは結構声をかけてくれました。カトリックの人が最初ね、ちょっと怖いパンクな兄ちゃんが来て、ここにイヤリングしてて、十字架かなんかだと思うんだけど、すごいなんかピアスしまくりのにいちゃんがいきなりギター持って僕に近寄ってくるんで、ちょい怖（笑）と思ったの。なんかちょっとなんなのこのにいちゃんって思ったらいきなり、「僕はカトリックのクリスチャンなんですが、ずっと祈ってました。ずっと応援してます。祈ってます。頑張ってください。」って。「ありがとう。」（笑）（笑）（笑）

＜若い人ですか＞

若かった。10 代かな 20 代に入るところかな。そんなもんだったと思います。だから、おそらく、その輪の中に、何人か推定できないけど、祈ってくれてた人たちがいただろうっていう感覚はあります。クリスチャンで、祈ってたりとか。あるいはそういうのに関わったことのある人もいるんだろうと思いますけど。

やっぱり人生にいろんなもの持ってる人が圧倒的に多いんじゃないかな。その中から話しかけてくれた人はそういう人が多いんだけど。

あとは、明らかに風俗の人だとか。その、明らかにホームレスもいっぱいいたし。

2.1.7 賛美の歌を歌う際に

＜歌っている人だと思われる？＞

思ってます。だから、上手いねとか言われたり、いろいろするんですけど。そうではないんだけど、ま、いっかと思いながら。そのまま立ち止まって、聴く人もたくさんいるから、そのまま賛美してる。ミュージシャンが歌ってるのと同じだと思って立ち止まる人もいます。（ギターを弾いて歌う友人）と音合わせして一緒に歌ってた時は、ギターにお金入れられちゃったっていう。そういうのはあった。CD ないのとそんなのとかいろんなのあったんだけど。普段はそうやって賛美をしてる時に、たぶん音楽だと思ってる。

＜年齢層は？＞

結構若いこまで。20 代とか多かったんじゃないかな。ゴスペルだと英語だしわかんないからね。それもあって英語で歌ってたんだけど。

＜聴き入ってる中でそこからメッセージ始める？＞

始まる。始まって立ち去る人もいれば、そのまま聞く人も結構いるから、そういう感じでした。

＜主の臨在*3っていうのは、賛美の時？＞

賛美から臨在っていうのは多いですよね。

＜賛美の臨在みたいなのっていうのはクリスチャンじゃなくてもわかるんですか？＞

わかってるのかはわからないけど、そういう時に止まるんだよね。平安なんですよ。居心地が良くなる。その中で傷ついたり弱ったりしてる人が多いんだと思う。なんでかって喋ってると泣くから。だから、新橋で路傍伝道してて、今度はこっちだって神様に言われて、話をしていたら、ずっと喋ってるうちに、その、変なお兄ちゃんに追い飛ばされている女の人たちがいるなと思ったら、風俗の人たちだったんだけど。そのお姉さんたちが来て、聞いてるなと思ったら、泣いてたりするんです。そのメッセージを聞いて涙を流したり、その風俗のお店のにいちゃんに追い立てられたりしながらも、ちょいちょい合間をぬって話を聞いたりする女の人が結構いたんですよ。それで涙を流してっていうのもありました。

2.1.8 新橋での迫害*4　野次をとばすおっちゃん

何を言っても逆らってずーっと文句を言う。なんて言うの、合いの手を打つだけじゃないけど。なにを言ってもいちゃもんつけるおじさんがいて。

＜通りがかりのおじさんですか？＞

酔っ払い。だって上半身裸だもん（笑）。上半身裸の酔っ払いのおっちゃんがずーっと逆らって文句を言うのを。「そんな神いるのか～！」とか。いわゆるいちゃもんですよ。野次。完全に野次です。ずーっと野次入れてたんだけど。

＜定期的にくる酔っ払いなんですか？＞

毎週。毎週路傍伝道してるとそこにくるの。

＜毎週酔っ払ってるんですか？＞

そう。毎週酔っ払ってるおっちゃんが来て、いちゃもんつけるわけ。ある時間が来ると。それでみんなで祈っていた（伝道に協力をしてくれた人たちが、伝道活動が守られるように祈ってくれた）。それで二、三週間後したら大人しくなった。話聞くようになった。メッセージしてそういう活動してるうちに、二、三週してるうちにおとなしくなって。で、そのおっちゃんは話聞いたら、築地の有名な親父でした。築地で働いているおじさん。問屋のちょっと偉い人だったんだと思うよ。でそれが酔っ払ってたんだけど。そのおじちゃんが、街宣カーとかいろんなのが来たり、こう、路傍伝道の邪魔するミュージシャンがくると食ってかかりに言ってくれたおじちゃんです。そのおじちゃんとも仲良くなったんだけど。とか。あと誰かな

＜どんな時にそのおじさんが変わったのか＞

そう。招いていて、その中に居たんだ。で、変わった。だからその毎週同じことしてるんだけど、それで招いてって言うことをやったりとかしているうちにその中に居たよ。確かに。祈ってると思った。そしたら変わった。

＜いつもはいちゃもんつけてるのにその日の招きの時は静かに祈ってた？＞

祈ってた。

＜おじさんは集団で来るんですか？＞

いっぱいいるのよ。酔っ払いが、酔っ払っているので、だからホームレスと中間でどっちだかわからない人がたくさんいるの。いちゃもんつけてくる酔っ払いとそこで飲んじゃう酔っ払いと両方いるので。

2.1.9 新橋での迫害　ウイスキーをかけられる

一人のホームレスが、最後の最後に教会の友だちが来てくれた時に、迫害が起こってしまったんだけど、ある人が、「聖書に祈るときは隠れて祈ると書いてあるのにお前は表で祈るじゃないかー」って、いちゃもんをつけて来たんだ。それは、ホームレスのようだったから。炊き出しをするでしょ。そうするといろんなところで聖書のことを言うじゃない。だからそんなんで知ってる人だと思うんだけど。そのいちゃもんつけてきた人から火がつき始めて、なんかおかしな空気になって。イエス様の裁判の席かな、あのシーン*5と同じなんだけど。なんかこう、変な感じなんですよ。あっちこっちでいちゃもんをつけ始めるんですよ。いろんな人たちが。それで僕が祈り始めると、「祈るのやめろおお」とか「御言葉を語るなあああ」とかって言うのをエコー付きみたいな声で言うんですよ。でおかしなことが起こって、みんなでワーワーワーワー野次を飛ばす人がいっぱいになったところで突然、ツカツカツカと僕のところにきて、頭からウイスキーをぶっかけちゃったんです。それはホームレスじゃない普通の人。笑いながら僕に頭からウイスキーぶっかけて。それでそのままケラケラ笑ってたんですよ。ああこれもう取り憑かれてるような人だった。サラリーマンで、スーツだったか、もう少しカジュアルな服だったか覚えていないけれど、普通の人だったのは覚えている。その瞬間に、頭の上から神様からの思いがぶわぁぁっと。「私の力はこれで終わるものじゃない」とぶわぁぁっと来て、その瞬間から突然なんか力が溢れて「なぜ私がこうやって話をするのか皆さんわからないだろうか！」「私は死んでもイエスキリストのことを語る！」というメッセージをいきなり始めた。内側から、死んでも、血を捧げてもこの福音を語るっていう思い。イエスキリストの勝利が現れるまで語るっていう思いがうわぁぁぁっときて言葉が止まらなくて。それまでに語ったのとは全く違うようなすごい力強いメッセージになったし。でも内容はあんまり覚えてないけれど、一緒にいた兄弟が（教会から応援に来てくれていた年上のクリスチャン）、衝撃を受けてた。で、主が勝ったってわかる。その瞬間にピタッと静かになった。言ってる最中はもう誰もこれない状況で、うわぁ〜っと喋ったんだよね。文句言ってた奴らが固まったみたいだった。

＜ウイスキーをかけた人は？＞

それは、居なくなっちゃった。笑いながらどこかへ行っちゃったから。

2.1.10　新橋での迫害　掴みかかって来られ、傘で刺されそうになる

（ウイスキーの迫害から）二、三ヶ月くらいかな。ある、ホームレスが酔っ払ってて、それが、やっぱりいちゃもんをつけて来て、それで缶ビールの缶投げてきたりとか、そこにある椅子が、なんて言うか、椅子っていうかセメントの塊なんですけどわかりますかね。そういう椅子。それをこう蹴って転がして来たりとか、そういう感じで最初抵抗してて。それで、そのうちそのおじさんが「なんで喋ってくんだよ、うるさい」みたいな感じで、僕に掴みかかって来て。その時に、片方に折れた傘を持ってて僕に刺そうとしてたんだけど。その時も突然なんか火がついたようにうわぁぁっと中に主の思いが降って来て、ここ喉押されてて声が出ないんだけど突然声が出て、「殺してもいい。ただ、あなたに伝えたいことがある。」「イエスキリストがあなたを愛している」「この声を僕は殺してもいい。でも殺したら君は二度とイエスキリストの愛を聞くことがない。だから聞け。」と言ってそういう風に喋ってて。それで最終的に警察に連れられてって、二人で（笑）。警察官が（間に）入って、それで警察に行って、その人は保護されたんだけど。翌週に謝ってきた。全然おとなしくて、いい人になってて、変わってて。それで、謝って毎回路傍伝道するたびにその人たちが来るようになって、もう何時って知ってるからみんな。

＜ホームレスがその時間になると集まってくる？＞

ホームレスはグループでいるから、紹介でくる。ホームレスの友達を連れてくる。で、教えてくれるんだよ。いろんなホームレス仲間がいて、ホームレス仲間が、「上野に行ったら炊き出しがある。どこどこに行ったら何をくれる。でもあなたは何もくれない。でもあなたは祈ってくれる。」って言って。だから一番聞きたいって。で、話を聞きにきて、祈ってもらいにくる。「あんたは何もくれない」っていうから（笑）。「うん。あげられるものはない。」って（笑）。そりゃそうだよね。だって全部捨てて、伝道しちゃったからなんかあげられるような状態ではないからね。で、「金銀は我にないが。」*6っていう言葉のまんまに祈り続けたから。

2.1.11　サラリーマンの反応

意外と冷めてるよね。タバコ吸ってる人だとか、立ち止まってる人に話しかけても、意外と冷めてる人がたくさんいて。トラクト*7配るからね、その後。でも実際に、こういう（(手で追い払う仕草)）。とか、そのまま話しかけても（無視して）立ち去るとかそういう感じの人がたくさんいる。

ただその中では、応じるって人は何かあった人なんだろうなって。すごい多かったのは、リタイヤした人。だから引退したおじいちゃんたち。60いくつだよね。引退したけど、人生の生き場所がわからない。「僕もそういう風に人生やり直せるかな。」とかって、言ってくる人が何人もいた。それか、ホームレス。

2.1.1 受け入れるホームレスの人々

ホームレスは、挨拶に来るから。お酒くれたりするのよ（笑）「お疲れさん！」って。でも考えてみて、その人たち

は、わかりやすくいうとね、自動販売機とかに手を突っ込んだりして、一生懸命集めたお金を、なけなしのお金で僕に、ビール買ってくれたり、カップ酒を買ってきてくれたりして「お疲れさん！」と言ってくれる。そういう感じね。最初っからじゃないよ。輪ができてきて、「俺まだちょっとイエス様は信じらんないけどさぁ、でもなんかいいことあんのかなあ」とか、言う。「誰々は今日はこないけれど何曜日に来るぞ～。言っとくよ、何々には。」という感じで、何人かいるの。そのグループに。ホームレスの中には、キックボクシングの世界チャンピオンだった人もいました。「イエス様ちょっと信じたいんだけど～。炊き出しとかいってんだけど。」とかいう人もいて。

＜炊き出しはキリスト教の団体が多いんですか＞

多いかなあ。でも、他の人たちもいるんだろうけど。結構キリスト教の関係のところが多いと思いますね。山谷と、上野かな。

＜イエス様信じたいといった人たちはどれくらいいましたか＞

話しかけてきて、単純に受け入れるっていうんじゃないけど、それをすごく知りたいとか、そういう親しく話しかけてくれる人たちっていうのは、何人くらいいたかな。ホームレスの入れ替わり立ち代わりあるもからな。トータルで 20 人くらいなのかな。いろんな人がいるからなんとも言えないけれど。

一人、信じるって言っていた、女性のホームレスがいて、その女性のホームレスは、一緒にビラを配ってくれましたね。腎臓病で体が動かないからホームレスになってしまったていう人で。名古屋に子どもがいるんだけれど、おじいちゃんね、つまり、お父さんが、生活保護で暮らしていて、子どもの面倒を見ているから、自分は一緒に暮らせないんだ。一緒に暮らしちゃうと、若いのに働けるじゃないかと言われてしまう。だけど私自身は腎臓が悪くて働けなくてホームレスだって言ってる人で。30 代か 40 代くらいの人。それで、その人は、ずっときてて、イエス様信じたいって言ってたんだけど。その人は、なんども祈りましたね、腎臓病のことも祈って。その後倒れて救急車で運ばれて、僕に連絡が来たら、腎臓は全く正常な人で、数値も全部正常だと言われ、むしろその状態だったら生活保護が必要でしょうとお医者さんに言われ、生活保護の手続きもお医者さんが全部してくれて、施設に入ることになりました。という連絡が僕に来た。でも、出てきちゃったのよ。問題は、神様がしてくれたのに出てきちゃって、そこにいられないって。それで、イエス様なんか信じないって言っていなくなっちゃったんだ。どっかに住んでてくれればなって思うんだけど。そういう、信じてるけど取り合いっていうのがあるんですよね。悪魔と。でも、そういうのはありましたね。でもずっと手伝ってくれてました。路傍伝道ね。その人は。

2.1.2 キリスト教界の現状

行けばわかることなんだけど、（B 氏の活動は）色々の人の祈りがある氷山の一角なんですよ。主の言葉を伝えたいとか、魂が救われるようにとかそういう祈りがわーっと山のようにあって、その表現として僕は使われてるだけなんですよ。だからその祈りがなかったら、何もできないんです。だからトラブルがあっても、僕を教えてくれた先生が、祈るチームを作ってやってねと言ったから。メーリングリストがあって、何かトラブルがあるとすぐメールを送って、一気に 70 人くらいに送られて、それが一斉に祈るから、ほんとに一緒に協力してやってるような感じです。それがないとできない。

＜日本のキリスト教徒はなぜ 1%のままなのか、困っていない人が少ないのか＞

クリスチャン側にクリスチャン以外の人に関わることへの恐怖がすごくあります。クリスチャンはクリスチャンでまとまっていたい。社会に出てもクリスチャンとまとまっていたい。クリスチャンの話をするのはキリスト教とだけで、社会では社会の顔をしてる。だからあえてクリスチャンと言わないし、伝道もしない。迫害されたり、そういう目に会いたくないという話が多い。会社で自分はクリスチャンだっていうこと自体が一つの壁で。っていうのは、そのいうことで、それによって左遷されちゃうとか、それによって、辞めさせられちゃうとかいう人とかももいるとかっていうし。日曜日休みたいっていうだけで、結構色々怒ったりする人がいますね。降格になった人もいたからね。だからやっぱり言いづらいっていうのもありますし。教会の中でそういう人が一人でもいると恐怖になるでしょ。すぐ噂になっちゃうから。なかなかクリスチャンと言えない。伝道できない。それが頭にあるから怖くて伝道自体ができない。まずそれがたぶん一つ。彼らの中では、頭の中でキリスト教は、迫害をこの国ではされていたから受け入れられないんだ、という理由が頭の中にあったり、オウム真理教の問題があったから、宗教は嫌がられて怖がられるからね、とかって言ってあまり話したがらない。理由が出来上がっていて、恐怖の理由が。それはあくまで恐怖だから、実際に出てって見ると現実は全然違う。一般の人たちはどうかっていうと、宗教怖い、嫌いっていう人たちは、たぶん「無視」っていう形で、それは圧倒的に多いと思うんですけど。立ち止まるとかアクション起こす以外の人たちっていうのはそういう人たちがたくさんいるんだと思うんですけど。僕が思うには、毎回毎回招いて話ができてるわけですから。そして毎回同じ人ではないと思うんですよ。だからそういう意味でいうと。多いときは３０人とかいるわけですから。そういう意味では、立ち止まった人たちっていう人たちを見ると意外と立ち止まってくれるというか興味を示す。

＜伝道している人とそうではない人の間にギャップがあるのか＞

かなりあると思いますね。これはもうすごいあると思いますね。教会でビラを配るとか、いろんなことやってたん

ですよ。訪問伝道ができた人たちは前の教会で二、三人しかいなかった。百人いる中で。実際いろんな伝道の仕方をしてて、訪問伝道だけじゃなくて公園で話しかけたりとか。そういうのをしました。いきなりね。「ちょっと時間いいですか。」って。で、どうですかって。話して、「もしよかったら、私たち教会から来たんですけど、イエスキリストの話をしたいと思ってきたんですけれど、もしよかったら聞いていただけませんか。」ってそう言って話をする。そういう伝道をやっていました。それはやってたのは、五人いるかな。そんなもんだと思います。

＜私がもし、公園にいて突然話しかけられたら、うわ宗教の人きた、と思ってしまうがどんな反応をされるか＞

それで話に乗ってくれるのは、話し相手がいなくて寂しいおじいちゃんおばあちゃんが多いです。

＜私の世代だったら絶対に引いちゃうんですけど＞

　それで話しかけたら、大体相手にしない。逃げますから話になんないですよね。女の子はナンパだと思われるだろうし、男の人は「いや（(手のひらを向ける仕草)）」が多い。圧倒的に反応としてはそういう、なんていうんだろうね。宗教はいりませんとか、圧倒的に多いのは、僕は弱い人間じゃないから、弱い人間が必要なんだみたいなのは多いし。宗教嫌だわっていう人も多いし。あとは問答をして来る人もいるし、反応はまちまちですよね。

2.1.3 結婚式での伝道

　結婚式場でカウンセリングをやってる限りでは、神の話を思い切り出して、宗教としてちゃんと話をしています。結婚式は聖書の一番終わりにある結婚の奥義になぞらえて結婚式をします。って話を全部します。ここで神様からの祝福を受けましょう。イエスキリストが夫として、花嫁として人が結婚するというエンディングで、そして天国が完成するという。その約束が二人の結婚の中に込められている。新郎はイエスキリストの役割をするんですから凛々しい姿をしてくださいねというんです。笑うんだよね。「待っている時も凛々しい姿をしていてくださいね、プレッシャーをかけているわけではないんですよ」というと笑うじゃない。それで「実はイエスキリストの役割をしているんですよ」というと、「へえ〜〜すげぇ〜〜〜」とかいろんな反応があります。「神様の私たちに対する最高の約束をあなたはちゃんと心の中に持ってるからですよ。」っていうと「えっ」って驚いた時に、（B 氏が）「「ず〜っと一緒にいようね。ず〜っと幸せにするよ。ず〜っと愛してるよ。」ってこれが神の思いです。あなたは持ってるでしょ？」っていうと「うん。」って。で彼女にも「嬉しいでしょ？」っていう。ってこういうことをやるんです。そして、聖書の最後の結婚式の一番美しい移り変わるシーン、過去から未来に繋がる、今までの良いもの全部受け取って、全てが全部新しく生まれ変わって、そして最高の、究極の幸せを受け取るシーンがバージンロードの上に全部あるんですよって言って。その親御さんはこういう思いがあって、そのうちの全部受け取って、この新郎に託して、そして天において神様が宣言するんですよ「見よ。私はすべてのものを新たにする。」って宣言をしてそこから二人に最高の、究極の幸せを用意した道が待ってますよって言って。神の幸せの約束を受け取るところですからそこを歩いてくださいねとか全部言います。

　結婚式も、ゼクシィなどを見てもわかるんだけど、ファッションだし、一つの選択肢出し、綺麗なドレスを着てるからとか。そこに神様というファクターを選ぶ人はいるかもしれないけど最初はそんなにないです。ただし僕が結婚式をするときは、完全に神ばかり語りますから。最終的にはご両親に、メッセージするときは必ず、「今神様は聖書からお二人にこう語りかけています。」っていうのね。それで聖書の箇所で神様から示されているところを読みますから。それからメッセージし始めて、二人に合わせたメッセージを神様からですよっていて、親御さんのことも含めて、語ったりするんですけど。そこで全部式終わって最後の最後に親御さんに、「お二人の幸せを私ずっと祈っていますよ」っていうと、9 割以上は「よろしくお願いします。」という。「本当にいい式をありがとうございます。」と誠意を持って言ってくれて。それで「祈ってますよ。」というと「祈ってください！」という人がたくさんいる。そういう意味でいうと。受け入れないという土壌ではない。質問してくる人もたくさんいますよ。だから、なんて言ったらいいんだろう。疑問に思ってたことをたくさん聞いてくれる人も人がたくさんいて。思うことは、神様のことを散々喋っているのに、「結婚式に込められている意味がわかってよかったです。」と、「全然結婚式どうやって迎えていいかわからなかったから、そういうものだってわかりました。」っていうし。

＜結婚式においては受け入れられるが、普段の伝道の拒否されるのはどう違うのか＞

　一つ要素として考えられるのは、結婚式っていう区切られた中の牧師であるという立場があるから。ある式場では、いろんな人の相談に乗っている。支配人だったり、受付の人だったり。いろんな人の相談に乗ってカウンセリングしてます。それも一般の人でしょ。僕に対して拒絶する人はそこにはいない。みんな好意的で、仲良くて。ちょっと神様の話をしても拒絶するってわけではなく、来てる人が多い。自分なりの神観話してくる人もいるけど（笑）結婚式だからかもしれない。

2.1.4 伝道に関する B 氏の考え

　僕は、踏み込み方だと思っている。一般の人に踏み込んで話しをする時に、一般人でも、突然公園で話しかけられたり、突然（家に）ピンポンをしてきたら嫌でしょ。自然に出会って自然に話をして、多くの人たちは宗教活動とか、どういう宗教活動をしていてどういう教理があるんですかっていうところから話をするのがキリスト教で、どんなお作法があるんですか。とそういう感じで、献金や奉仕だとかなんだろうけどそういう義務みたいなものが

あるんですかみたいなことを思ってるのかもしれない。最初ね。ほぼ全部取り払って話すことはできる。受け入れか受け入れないかのところでも自然には受け入れます。最終的にイエス様を受け入れるかどうかっていうところが難しいんで意外と話もできます。それが現状です。だから僕がすごく思うのが、クリスチャンの中にある恐怖心がまず。日本には多いかな。日本の国民性なのか。歴史がそうさせるのか。ただ、他の国と比べたらこの国は伝道しやすいと思います。イスラム教徒の中で、伝道したら殺されちゃうとかないでしょ。北朝鮮とかも絶対に無理でしょ。そういう国が現在少ないのかと言ったらすごい多いですよ。そういう国の迫害とかと比べたら明らかに少ないじゃないですか。中国もいまだに伝道禁止ですから。聖書を持ってたら逮捕とかですから。中国の人で友達いますけど、中国人同士で中華屋さんに入ったらいきなり伝道してますから。だから、その思いが違う。ほんとにもういきなり店員さんに話して、「来週うちの教会来るよ」って言ってた。他の国の人たちを見ていると決して困難ではないと思う。（多くのクリスチャンは）安全な白い教会という壁の中に、自分の安全なコミュニティーを、自分の居場所を作っていたい平安な人たちに見えちゃう。これが僕の最初の印象です。それは、僕が路傍伝道したいと言った時に却下したのもあるんだけど。僕が出て行くって言って、それに対して応援してくれたクリスチャンたちは、どちらかというとそこに突っ込んでいく人。教会とか教派とか全部を超えて、命に触れるために魂を救うために行く人。教会がどう反対しようが。牧師は伝道集会をやって、教会に来てねとしか言わないから、信徒のくせにと嫌がられるんですよ。でも、一部分の先生たちは、僕が突っ込んでくのを見て、やばいと思って、必死で按手してくれたんです。たぶんこれがキリスト教の僕の中に最初にある歪みだったように感じます。ミツバチみたいだと思う。よく日本の性質でミツバチみたいだっていうんだけど。巣が整えてあって、何か異物が来ると集まって、熱を出す。だけど、出てって攻撃とか単体では実際には、命かけないとできない攻撃はしないみたいな。いい人たちなんだけど、異物に対してはそこを平安に保ちたいみたいな日本の性質みたいなのを感じてはいた。教会自体には。本当にそれに踏み込んで来るようなことが怖い。

僕は、教会の扉を開けましょうと言って、教会の扉を開けて、ギターを弾ける子を連れてきて、その扉の前で路傍伝道をしたんですよ。それを迷惑だのなんだのいう人がいて、結果的にいうと、やっぱり続けらんないんです。でもこの扉を一個開けると。いろんな人たちがこっちを見たり、その人たちが注目をするけども、こちら側の世界の人たちは、外がどんな風になるか実は知らないんですよ。僕は外の扉を開けた習慣にその人たちがどんな顔をしてどんなふうに通って行くか見えるし、この教会をどんなふうに見てるかわかるから。多くの人たちは病院だと思っていたんですよ。白くて綺麗で。だけど、教会だったってわかった。教会の人たちはそのことを知らないし、外の人たちも、僕たちのことを知らないという状態の壁ができてた。

2.1.5 使われた言語に関する解説

アーサーさんの「親分はイエス様」＊1・・・2000 年製作の映画。型破りな牧師アーサー・ホーランドが主宰し、元ヤクザの牧師や神学生やキリスト教信徒が集い、十字架行進などの伝道活動をするキリスト教団体のメンバーの体験談を記したノンフィクション「刺青クリスチャン」を元にした映画。

招く＊2・・・・・・イエス・キリストを自分の罪のために十字架にかかり、自分の罪を贖った救い主として受け入れるように促すこと。

主の臨在＊3・・・神がそこにいるということ。

迫害*4・・・キリスト教においては、宗教に対して、集団的に差別されるといった意味合いのほか、キリスト教徒に対しての、反感、反発全体を大きなものから小さなものまで、広義に迫害と呼ぶ。

聖書には『キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、皆、迫害を受ける「テモテへの第二の手紙 3:2」』『「あなた方を迫害する者を祝福しなさい。祝福して、のろってはならない。」ローマ人への手紙 12:14』とある。聖書には「迫害」という言葉が多く（46 箇所ほど）出てくる。

あのシーン*5・・・『パッション』（原題：The Passion of the Christ ）は、2004 年のアメリカ映画。イエス・キリストが処刑されるまでの 12 時間を描く。その映画のワンシーン。

「金銀は我にないが。」*6・・・新約聖書使徒の働き 3 章 6 節（新改訳第 3 版）「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい」

トラクト*7・・・伝道用のパンフレット。インタビュー中の「ビラ」と同じ。

2.1.6 考察

2.1.7 B 氏が感じる伝道の障壁

B 氏は日本で伝道がしにくいという事をドミナント・ストーリーとしていたが、実際の伝道の中でそれは書き換えられることになった。

伝道者 B 氏は、野次を飛ばされたり、暴力を振るわれたり、露骨に反感を示されていて、それらは伝道への障壁であるとも考えられる。しかし野次を飛ばしていた人や暴力を振るった人と和解し、伝道を続けていることから、B 氏は攻撃してくる人が伝道の障壁とは考えていないようである。また、インタビュー内容からは、攻撃した原因が、宗教を嫌っているからといった理由であるとは断定できない。攻撃してきた相手が何かしら困難を抱えてい

て、その怒りをB氏にぶつけたのではないかと考える。その理由は人それぞれであり、おそらく日本の風土や文化との衝突と一つにまとめられるものではなく、とても個人的なものであると考える。B氏は、トラクト配布や公園での伝道の際に無視される経験をしているが、それは宗教に対する日本人の悪いイメージに起因しているとは考えられる。路傍伝道の際に無視をされたり、無関心を感じたりすることはあったようだが、その理由はわからない。しかし、公園での伝道に関しては、「キリスト教は」ではなく、「宗教が嫌だ」と言う反応を受けていることから、宗教を敬遠する傾向は一部存在するようである。B氏は、一般人でも、突然公園で話しかけられたり、突然家に訪ねてきたら嫌だと言う話をしていたように、「宗教だから」と言うよりもコミュニケーションの取り方を不審に思われた面もあるようである。日本においては、公共の場で出会った見知らぬ人と会話を始める習慣は一般的ではない。日本に来た宣教師が伝道の難しさを感じると言う話をよく聞くが、このことが日本の風土を原因としたキリスト教伝道の障壁と受け止められている可能性もある。また、このようなコミュニケーションのギャップは、海外での伝道方法をそのまま輸入していたため度々起こり、それが日本宣教の障壁が風土的要因と言われるようになったという可能性もある。その一方、B氏は、非キリスト教徒に対して、伝道の機会を路傍伝道と結婚式において多く持つことができていることから、B氏が「踏み込み方の問題」と言っているように、B氏は日本で伝道することの障壁をそれほど感じていない。むしろB氏の足枷となっていたのは、快く思わないキリスト教徒の一部の人々であった。B氏が日本でキリスト教徒が1%にとどまっている原因としてキリスト教徒の恐怖をあげたのは、B氏が伝道をすることをよく思われなかった経験があり、100人規模の教会で熱心なキリスト教徒ばかりではないということを感じていたからだと思われる。B氏は、このように、キリスト教徒であるために社会で不利益を被った人の話を聞いたり、伝道の場で激しい迫害を受けたり、教会でも歓迎されない経験をしている。一部のキリスト教徒にとっては、B氏のような経験は伝道しない要因と十分になりうると考える。それでもB氏が伝道を続けた動機は、カメラマンだった時に失業者を見た経験、「親分はイエス様」の映画を見た経験、多くの魂が救われるようにと言う切実な思いがあったのだとインタビューからは伺える。周囲人々からの冷たい扱いの類は、それによって乗り越えうるかもしれないが、B氏は身体の安全を脅かされるほどの激しい経験をしている。それを乗り越えるほどのものは、この三つの要因にあるだろうか。B氏は勇気がある性格であったからという要因も考えられるが、他の要因もあるのではないだろうか。B氏は迫害の際に「私は死んでもイエスキリストのことを語る！」と言っている。このような信仰は何に起因するのであろうか。

2.1.8 B氏のモチベーションへの考察

B氏の路傍伝道の目的は当初、サラリーマンに伝道することであった。しかし、実際に伝道を始めると、その対象はホームレスが中心になっていった。イエスキリストは、マタイの福音書5章3節で「心の貧しいものは幸いです。天の御国はその人たちのものだから。」また9章10節から12節では、「イエスが家で食事の席についておられる時、見よ、取税人や罪人が大勢来て、イエスやその弟子たちと一緒に食卓についていた。するとこれを見たパリサイ人たちが、イエスの弟子たちに言った。『なぜ、あなた方の先生は、酒税人や罪人といっしょに食事をするのですか』イエスはこれを聞いて言われた。『医者を必要とするのは丈夫なものではなく、病人です。』」とある。他にもイエスは病人や貧しい人と親しく語らうが、パリサイ人や律法学者などの高い地位にある人々は、彼に耳を傾けずに、イエスを最終的に十字架にかけてしまった。誰に福音は語られるべきなのかということをB氏は聖書と実際の活動を通して確信していったのだと考える。B氏のエピソードの中に出てくるのは、B氏に強く敵意を抱いた人々や弱さを表す人々が多い。「すごい多かった」というリタイヤした人々や、ミッション系の学校を出た人などは、積極的な態度でB氏に話しかけたと予想されるのだが、エピソードとしてはインタビューに強く現れなかった。それは、やはりB氏がそのような人たちよりも、ホームレスのような立場の人々とのやり取りの中に伝道の目的を見出すようになったからであると考える。また、「迫害」というストーリーに対するB氏の評価はネガティブなものではないのも注目すべき点である。迫害のエピソードでB氏が重点をおいているのは、迫害がどんなに大変だったかではなく、それを通して神が何をしたかである。B氏はむしろ迫害の経験をとても大切にしている。マタイの福音書5章10節でイエスは「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。私のために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜び踊りなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。」また、使徒の働き40章40節から41節では「使徒たちを呼んで、彼らをむちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと言い渡した上で釈放した。そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出て行った。」また、コリント人への手紙第II4章9節から11節ではパウロが「迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスの命が私たちの身において明らかに示されるためです。私たち生きている者は、イエスのために絶えずしに渡されていますが、それは、イエスの命が私たちの死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。」と語っている。B氏が聖書における迫害の意味を自分の経験に照らしつつ、迫害の深刻さよりも、大変な状況で神様が自分に、そして周りに何をしたのかを見て、迫害の経験に感

謝することさえできたのではないかと考える。

B 氏の伝道の障壁の１つとなっていた教会の人々に関しては、B 氏は明らかに否定的な心理的態度をとっている。その具体的な対象は、伝道を未だ経験していないのにも関わらずに、恐れてやろうとしない人々である。B 氏はそれを、命をかける攻撃はしないミツバチと表現している。それは、B 氏はイエス・キリストが自分のために十字架で苦しんで先に犠牲になって自分を救ったというイエスの愛を強く受け止めているため、イエス・キリストが苦しんで苦しんで救いたいと思う人々を放っておいて、自分だけ安全なところにいて自分のためにイエスが十字架にかかった愛に報いようとしない憤りなのであると考える。B 氏はすでに救われているので、自分の命の危険を今更恐れることはしない。B 氏にとって、伝道をしないクリスチャンとは、義務や使命の話以前に、神への信頼や愛の問題なのである。後半のキリスト教会への批判は、現在の B 氏の牧師という立場から正当化した、伝道することが偉くて、伝道しないことは悪いという単純な対立構造ではない。B 氏のモチベーションは、自分が救われた喜びを隣人に伝えたいと思う以上に、イエス・キリストが命をかけたその思いを切実に自分と重ねているのである。インタビューの後半でクリスチャンの問題についての語り口は切実であって、単なる対立から批判しているのではない。インタビューにおける当時の B 氏のメッセージは、「喜びを伝えたい」という柔らかいものではない。「死んでもイエス・キリストのことを語る」である。B 氏自身が自分の役割について、色々の人の祈りがある氷山の一角であり、その表現として自分が使われているだけだと言っていたが、B 氏の伝道は自分が何をしたいか、伝えたいかではなく、イエス・キリストは何を伝えたいのかという位置で揺るがないのである。

B 氏は、新約聖書に書かれている厳しい迫害などの一般的には受け入れにくいようなことに関しても、大きな物語として自身の伝道の前提においている。B 氏にとって現代においても「大きな物語」の聖書の例外は存在しない。

2.2　伝道者 C 氏へのインタビュー（2018 年 10 月 25 日後楽園のカフェで実施）

2.2.1 伝道者 C 氏について

C 氏は教会の信徒として伝道を行っており、職業は画家である。教師として、アートスクールと空手教室を通して伝道を行っている。

2.2.2 伝道の時期・場所・対象

時期：2005 年から 2018 年 10 月現在

空手教室：横浜で支部を持ち、主任指導者として 2005 年から。教会の一室を借りた空手教室は 2012 年から週二回。小学生と幼稚園児対象クラス、小学生から大人対象クラスを持っている。

アートスクール：2010 年から練馬区にある教会の一室を借りて教えている。幼児対象クラスを１クラス、小学生と中学生対象クラスを１クラス、大人対象クラスを２クラス、大人と子供の混合のクラスを１クラス持っている。そのほか伝道の結果信仰を受け入れた人のためのフォローアップのために聖書の学びを加えたクラスを無料で不定期で行っている。最近は、統合失調症のケアグループでも月に一回アートクラスを担当している。

2.2.3 インタビュー

2.2.3.1　アートスクールでの伝道方法と信仰告白*1まで

アートスクールは、最初の数年間は直接伝道というよりも、教会に足を踏み入れてもらう。地域の人たちが、宗教を警戒しないで、あ、教会ってこんなことやっているんだ、と「ここに来たことがある」と、まずは一歩踏み入れてもらうって言う働きっていうことで立ち上げて始めたんですけどね。（体操教室や英語教室など、教会全体が色々な敷居を下げる取り組みをしている。）地域の絵描きさんが教会に場所をお借りしているというかたちにしてみたんですよね。本当は教会のミニストリーだと私たちは思っているんですけれど。外向けには地域の絵描きさんが教会の厚意で場所をお借りしているというかたちにしている。だから生徒さんたちは、教会に感謝してくださいと、教会でこんなに安く場所を貸してくださるので、こんなに安い月謝で、教室がこんなに広く使わせてもらえるんですよ。ある意味意味では聖なる下心というか（笑）。一つ壁を取り除くって言うか。そう言う中で自分の賜物は個人伝道なので、おしゃべりなのもありますけれど、結構その、絵を描いていると、自然にそういう、クリスチャンだとは知っているので、聖書の話になる。あ、宗教の話とかキリスト教の話だとみんな「あ～ちょっと・・・」となるんですけれど、「イエス様はね、」とイエス様の話をすると大体の人が聞いてくれるんですよ。「ああ、イエス様は素晴らしい方ですよね」。で、イエス様はどういう方なのかというと、聖書開いたらはっきり「神だ」と書いてありますからね。ヨハネの福音書の一章読むだけでもう、「言葉は神であった」それがイエスであったと聖書が言っていることですよ。結局イエスを紹介していくと、イエスが神であり、その神なる方がご自分で命を、身代わりの死を遂げるほどに私たちを愛してくださったというメッセージに自然になるわけですよね。そうすると、宗教じゃなくてもう関係・・・・私たちを作った方が、こんなに愛してくれてるっていうのを誤解している人間と、その誤解を解くために、来られて一つの道を作ってくださったイエス様を知っちゃう。「おお素晴らしいじゃない。そんな神様なら信じたい」ってなる

わけですよね。で、結局いつもそういう時にあの、さっと描く表があって、創世記から黙示録までさーっと一本のタイムラインにして書いて、中心に十字架があると。歴史は全部ここを中心に動いているんですよっていうと、学生でも大学生の男の子でもね、「すげぇ〜〜聖書ってこんなにすげぇんだ。」っていうんですよ。話をしたら、ちょっと、それをね、信仰告白。「イエスは私の主です。私はすべての的外れのために、イエス様が十字架にかかって死んでくださったことを信じます。私の心の王座に来てください。イエス様来てください。」っていう祈りをじゃあ一緒にしましょうかって言って、一緒に信仰告白するんですね。すんなり。あとはもう、成長させてくださるのは神様なのでね。私たちの仕事じゃないので、これからは、その人が変えられることを信じて、私たちは接するだけなので。いいところはアートクラスの中で、今、今年・・・今年もちょうどね、信仰告白者がこないだ、つい、先々週一人、信仰告白したんですけど。その告白した人を連れてきたのは、三年前に信仰告白した男性なんですよ。社会人の男性が一人、友達を連れてきて、その子が信仰告白したんですよね。

2.2.3.2　空手教室での伝道方法と信仰告白まで

例えば、空手のミニストリーも今、教会で、この数年やっているんですけど。空手教室でも、信仰告白、まだ 3 人ですけれどね。どういう形で信仰告白してくかっていうと。今教会でやるのは、教会で場所をお借りしているので、やっぱりこれはちょっと教会との取り決めで、教会でやるからにはちょっと、「神前に礼」とかはできないので、お祈りで初めてくださいっていうことになっているのでっていうと、生徒さんたちも、「あ、それでこんなに安くさせてもらえるのね、ああ××祈ってください！」ってなるんですね。で、結局祈りで初めて祈りで終わると。祈りの中で福音語れるので、だいたい質問してくるんですよ。こないだも、子どもたちが、最初の 30 分ずーっと質問タイムですよね。そこで、子どもたちが持った疑問とかそういうものをクラス中に、会話できてしまう。そうするとクラスが終わってから、本当に興味のある子は質問してくるんで、ある高校生の男の子は、クラスが終わってから一時間、聖書の創世記から黙示録までのさっきの話をざーっとしたら「すげえ〜〜〜！すげえ」って言って信仰告白してみる？というと、「するする」とその場で信仰告白して、うん。これが本当に不思議と、一回聖霊を受け入れて、その、口で告白した人たちは、内側から聖霊が変えてくださっているんですよね。

2.2.3.3　聖霊に変えられた男性

で一つの例としては、あの、小学校の時に、両親が離婚して、そこから精神を病んじゃって、本当に素晴らしい方なんですよ。４０代の男性で、でも今でもすぐに怒りが湧いてきてもうあちこち、行く施設行く施設トラブル起こして、喧嘩騒ぎみたいな、で、どこも行き着けなくて、〇〇っている団体につながって、その〇〇っていう統合失調症のケアグループなんですけど、ケアハウスの中でやっているアートクラス。今そこでアートクラスを月に一回やっているんですけど、そこを通して、本当に絵が好きだから、じゃあ普通のアートクラスにも是非きてくださいと、くるようになった男性なんですよね。で、最初はもう本当に人を寄せ付けないような雰囲気だったのが、聖書のメッセージするうちにだんだんね、変わってね、信仰告白してから本当に変わって、まだありますけどね。ぐちぐち怒ったり落ち込んだりっていうのあるんですけど。あったんですけどね、そういう中で、お父さんとコンタクトを取りたいって数十年ぶりに、お父さんに連絡とって、お父さんの仕事の展覧会に一緒に行ったんです。一緒に行ってそこでお父さんが、もう、顔を合わせた途端に、「おお（本人の名前）かぁ〜！」ってその笑顔を見た途端に、多分彼だいぶ癒されたと思うんですよね。また、その、イエス様の福音っていうのは、和解の福音なので、天の父との関係が回復してくことで、この地上の人間関係も回復して行くっていう一つの証を見せていただいた。そのあと彼は自分のお父さんの肖像画を描いたんですよ。大きい肖像画を描いて、この間お父さんに渡しに行ったんですけど。でそこが、解決し始めてからやっぱり、すごくね、彼、変わってきて、この間も先月はもう本当に。もう一人〇〇に行っている団体の代表と 3 人でお話ししてた時に、「じゃあちょっと最後に祈りましょうか」って祈り始めたら、ボロボロ泣き始めて、一時間ず〜っと嗚咽して、「神様！俺は寂しかったんだよ〜。」って、「神なんか本当にいるのか！って叫んだのあなた聞いてましたよね。」ってボロボロ泣いて、「でも、今こうやってイエス様を知ってイエス様と出会って本当に救われました。」って告白して。で彼もそのあとに、人前で初めて泣きましたって言って。うん。やっぱりね、イエス様の福音というのは本当に人を救う、でもまず救いがあってやっぱり聖霊が内側から変えてくださるっていうのを今見せていただいているのかな。と。だから本当に、イエスと、イエスを人に紹介するってことが日本宣教の鍵なんじゃないかなって。その個人的な出会いっていうのは今活動している中で感じている。

2.2.3.4　小学生の女の子の信仰告白

＜信仰告白をする人々は普通の人ですか＞

普通ですよ。それこそ、小学生から大人まで。小学生の女の子は教室に来て、たまたまその時十字架の絵描いたものをポンと置いてたら、「これだれー？」とかって言って（笑）、

C 氏：「イエス様って聞いたことある？」

女の子：「聞いたことない～」
C 氏：「クリスマスお祝いするでしょ？」
女の子：「うん」
C 氏：「クリスマスの意味知ってる？」
女の子：「知らな～い。サンタさんでしょ。」とかいうから（笑）（笑）
C 氏：「実はね、この人はイエス・キリストって Christ mas でクリスマス。この人の誕生日をみんな、実は世界中で祝ってるんだよ。」っていうと、
女の子：「へぇ知らなかった～。」
とかって言って、イエス様ってどういう方かって持ち歩いているイエス様の DVD ですよね（笑）流して、××ジーザス××。まあその前にまず、福音語ったりするんですけれどね。××イエス様の話すると・・・
I 氏：「こんな神様素晴らしいでしょ？・・・じゃあ今からね、一緒にお祈りしてみる？」って
女の子：「してみるしてみる～！」
って言って、××で、信仰告白して、「じゃあ、すいません。よろしくお願いします。」とかって言って。
お母さん：「でも、先生。そういえばお墓の問題どうなるんでしょう？」
とかって質問に繋がるので、すると次はある意味証になりますよね。それはこうなんですよって。ある意味。なんか“宗教に入信するとこう”って誤解を持ってるので、それを解くチャンスになるんで、疑問を引き出すっていうのは、一つこっちにとってチャンスなんですよね。こっちは真理持ってますから。要するに、疑問っていうのは全部答え持ってるんですよね。だから、疑問さえ引き出せば、こちらも、本当のこと伝えるだけなんで、そこに、なにか、オブラートに包んで、なんかこうおそるおそる語る必要ないわけですよね。「あ、もう、聖書はこうですよ」
＜お墓をどうするんですかって聞かれたらどう答えるんですか？＞（以下省略する）
　いくつか事例を出すんですけど、例えば、〇〇先生って〇〇の教会なんかは、田舎なんですけどね。田舎なんで、檀家が強いと。だからクリスチャンになったけれども、檀家から抜けられないと。そういう場合どうしたらいいですかっていう時に、代替で、漢文聖書から、あの、戒名とって来て、「此の者はイエスを信じて死す」って。で、お墓は、要するに私たちは、あの、形じゃないです、と。お墓に、その、霊的な何もありませんと。だから私たちの肉体は、霊的に救われたら、あとは、××主の再臨の時に肉体も新しくされますから、ということを証の場にして、ですから、檀家の皆さんは、私にとって大事な友人たちですから、これからも付き合いよろしくお願いします、と言って、檀家とも付き合いながら、クリスチャンとして証をしていくんですね。でも、お焼香はしませんと、それも、私たちには、そういう××？行為は、本当の神を知ってしまったんで必要なくなったんです。しちゃいけないんじゃなくて、必要ないからしないんです。という証にしていくんですよね。「はあ～すごいなぁクリスチャンってそうなんだ。」って、その…だって自由ですからって（笑）。全てが自由にされましたから。要するに、して、バチが当たるとかじゃなくて、する必要がなくなったんですよ。で、「酒、飲まなくなったね。」って言ったら、「あ、酒飲んじゃいけないわけじゃなくて、飲みたくないんですよ。聖霊に酔ってるんで（笑）（笑）、酒なんかに酔わなくても。酔っちゃうのもったいなくて～」って「そんなすごいもんがあるのか、僕もそれに酔わせてくれ。」（笑）（笑）ってなっちゃうわけですよね。すごく積極的ですよね。だから本当に命があるっていうか。その、それはやっぱりイエス様だと思うんですよ。本当の命ですから（笑）。偽物いらなくなるわけですよね。それは、うん…うん…。

2.2.3.5　伝道の際にどんな話をするのか

　まず、愛である神様が、自分の愛する対象として人間を創ったということですよね。創造主がいるっていうことですよね。で、私たちを創った方がいて、その方が、愛するために人間を創ったと。で、その人間をロボットには創らなかったってことですよね。自由な意思を与えてくださった。だからそのさっきの話ですよね。その、その、「お父さんあなたを愛します」ってインプットされて愛したりする愛じゃないと。自由な意思を持った状態で愛せるようにしてくださったと。でもその与えられた自由な意思を、的外れな方向に使ってしまうと。でその「的外れ」っていう言葉を日本語の訳では「罪」と訳しているんだと。でも本来その教義上で、「的を外す」っていう「ハマルティア」っていう言葉は、「的外れ」っていう言葉が原語なので。人間は、本来的外れなものだと。その、的外れの結果は死であるって書いてあるんですけれども（聖書に）。でも、私たち人間を愛して創られた方は、その、大好きな、自分の子どもである人間に、その、死んでほしくないわけですよね。だから、創った者として、その的外れの結果である死に向かう人間たちの代わりに、私が、代わりにあなたたちの代わりに死んであげるからね。人類の中で、宇宙至上の中でたった一回だけそのことをするから。待っていなさいね。という預言をアダムからずーっと延々としてるわけですよね。旧約聖書の中で。それが古い約束ですよね。その、この時に、私はそれを成すよって言った預言の通りに生まれて、その通りに生きて、その通りに死んで、蘇られたのがイエスだと。だからその約束、神ご自身が人間の形をとって私たち人間に愛を示し

て、本来私たちが受けるべき的外れの報酬である死を受けて死んでくださったのがイエス様ですよっていうところをまず紹介するっていうところですよね。ここは外せないことですよね（笑）。で、死んで終わりじゃなくて神様ですからね。死を滅ぼして、蘇ることで、ま、その一回私たちの負債というか、的外れを帳消しにしたので、新しく命を与えてくださったってことですよね。で、そのまず、ここでイエス様がどうして来たのかっていう話がここまでできるということですよね。で、そのイエス様が今どうされているかっていうと、結局よみがえった後に天に一回上られたと。でも、その待ってる間に、そのイエス様の霊である聖霊を代わりにあなたたちのところに送るからね。この聖霊が私自身だから、と言って私が再び戻ってくるまで聖霊を内側に持って、花嫁として、私が迎えにくるのを待ってなさいね、っていうのが今の教会時代なんですよね。そのじゃあどうやって聖霊を持てるのかっていうと、「イエス様を私の救い主として信じます。」っていう口の告白を通して、誰でも、あの、聖霊によらなければイエスを主と告白できないって聖書に書いてあるのでその御言葉*2を紹介して。だから何かを行いをしたらクリスチャンじゃなくて口で「イエスが私の主です」と告白できれば、それで聖霊様が住んでますから。天の法廷ではイエス様の血の証人、血でイエス様が花嫁、婚約書にポンと証印が押されてますよとね。で洗礼式はどう意味かっていうと。そういう質問が来ることがあるんですけれども。洗礼は、結婚でもお役所で結婚届を出すと同時に結婚式あげますよねって話をして。結婚式は公への表明をすることによってそのことで守られるというか。私たちは結婚しましたと表明をすることで自分も、周りもこの人は正真正銘この人の花嫁なんだということがわかるっていうその、一つの宣言であり、大事な。もちろん霊的にはもっと深い意味がありますけれども。私たちも一回、イエス様のように死んで蘇る。古いいのちに死んで新しいいのちに蘇るっていう象徴として、ああいうことをするんですよ。とってもあれは素晴らしいことなので是非受けてくださいねっていうお勧めをする。

2.2.3.6　教室に来る人の意識

＜教室に来る人は教会に来るという意識はあるのか＞

ないん…ないですね。ただ教会で場所借りてるし、自分が（C 氏）がクリスチャンだってみんな知っているので、やっぱり流石にそこに抵抗のある人は最初からこないですよね。別の宗教とか。わざわざ教会の中でやっている。だからそこはワンクッション神様が整えて送ってくれるという信仰もあるので、今宣伝もやめちゃったんですよ。もう口コミだけにして、神様はこの人っていう人を必ず送るからっていう信仰で、祈りは必要ですけれど。祈って神が与えたこの・・・！まさにあのペテロの魚を釣って口からコイン出す*3じゃないですけれど、神が送るので、そこには備えがあるので、その信仰で、やってますよね。だからあんまりきてください、どうぞ～と宣伝はしないで。

2.2.3.7　非キリスト教徒のもつキリスト教への誤解

宗教に入るっていう…たとえば、お布施がどうなのかとか。そして、これをしちゃだめあれをしちゃだめっていうもの…ですかね。例えば、社会人の男性であれば、もう、飲み会行けなくなるのかな、とか。ええ。たぶんその、これをやめなきゃいけないのかな。ってみんな嗜癖行動を持っているところで、そういう、あの、自分が今まで逃げ道にしてきたもの、を捨てなきゃいけないのか。「これ、え、捨てなきゃいけないの。」本当は、捨てなきゃいけないんですけど（笑）（笑）（笑）たぶんそれをするとみんなこうしちゃう（敬遠しちゃう）と思うんですよ。でも、そうじゃなくて、代替で、こんないいものがあるんですよっていうもの紹介すると自分でそれ捨てるんですよね（笑）（笑）（笑）だって、こっちが本物なわけですよね。これを欲しくて会いてる空間を自分で違うもので埋めようとしてるわけですから。それを、で、「あなたこんなもの持ってるでしょ」っていうと、「え？知らな～い…」みたいにこうなっちゃうんで（(抱え込んで隠すような仕草で)）（笑）そうじゃなくて、「これ本物、こんなすごいんですよ。」っていうの知ると（笑）みんな「はっ！それじゃあ本物だ..」ってなるわけですよね。今まで、偽のオレンジジュース飲まされてるのが、これ本物ですよっていう、ま、オレンジジュースじゃちょっとあれなんですが（笑）（笑）（笑）

＜捨てないって言ってしまう人もいますよね＞

ただ、一つ言えるのは、イエス様の宣教って、「信じさせなさい」じゃないんですよね。「福音を宣べ伝えなさい」*4なので、まずは、完成したイエス様のその十字架と死と復活、によって「信じる者は救われる」っていう。「イエス様信じます」って、この唯一の、この愚かな方法で人を救うことに神様が決めたんですよ、っていうことですよね。だからその、僕も、なんで、私たちが信じさせることってできないんですよね。だから、あの、そこを、ただ、伝える。伝えることに責任があるので。例えば、その人が、信じなかったとか信じたとかで、たぶん落ち込む必要はないんだと思うんですよね。ただもう仕方ないかもしれないんですけど（笑）（落ち込んでしまうことは)。自分もそう思うようにしているんですけど。でも、精一杯、その時に導かれるままに精一杯伝えると、本当にいいものなんですと。あとは、うん。もう、そこで、やっぱり神様が捉える人は捉えますし。っていうのは自分の中の信仰なんですけどね。その救い、魂、霊の救いっていうもの。神の霊を受けて私たちは救われた。その救いと、例えば十字架の、イエス様を受け入れた方の囚人*5ですよね。も、イエス

様を受け入れて、霊は一緒にパラダイスに行きましたけれども、この地上では一緒に刑罰を受けて、十字架上で、イエス様信じたからそこから十字架降りていいですよ～じゃなくて、やっぱり、刈り取りはあったと。そういう肉における刈り取りっていうのは当然あるので。それをやっぱり、そこからもやっぱり解放されて欲しいっていうわけですよね。だから、悪い習慣を続けているならばそれは当然やめたほうがいいですよね。でもそれは本当に聖霊が示してくださらないと、人間わざじゃないのでっていう感じですかね。

2.2.3.8　クリスマス・イースター・結婚式などの文化とキリスト教

文化人類学というか。人間ってやっぱりそういうセレモニーが必要なものなので、葬式をするとかお祭りをするとか。人間として神を礼拝するように作られているのでそれは不可欠なものだと思うんですよ。それはもう人間の基本的欲求なんだと思うんですよね。どうして私たちはこういうお祭りをしたり、礼拝したい欲求があるのかって。それは神様がそう創ったからですよっていう（笑)。答えを持ってるわけですよね。それが紹介できる。本当の、キリスト教っていうのはそれだけの価値がある。やっぱりそれを一つ象徴として、メモリアルなものとして。あとはそれをある意味では教育の機会にするっていうか。十字架はこういう意味でね、とか、イエス様が生まれたのはこういう意味でねっていうのを紹介する一つの大きなきっかけとして、そういう記念碑的なそういう祭り、クリスマス、イースター、ペンテコステとか。それは必要だと思うんですけどね。本来は毎日がペンテコステ、毎日がクリスマスですよね（笑)。だからクリスチャンはそこをあんまり、クリスマスだから、こうせねばっていうよりは、私たちは毎日クリスマスです（笑）（笑）（笑)。

2.2.3.9　クリスチャンはいつもその素晴らしさをいつも伝えることができるのか

人はうわべを見るが主は心を見られるじゃないですけど。これはもうほんとに見た目じゃわかんないので。

2.2.3.10　キリスト教徒が１％であることについて

1%であることを消極的に捉える方法もあるし、でも本当、聖書で言えば「待つ」ということは恵みなので、ハンナもそうですし、アブラハムの子の妻のサラ*6もそうですよね。約束の子のイサクが与えられるまでのにものすごい待たされたというか。その中で整えられることもあるし、神の時が熟するのを待ち望むというのも一つ、この地上の特権なので。見ていないものを信じるというのもこの地上でしかできないことなので、この時に与えるからね。この時に今楽しみに待っててねっていう待ってる期間の恵みっていうのをやっぱり今のクリスチャンたちは、もう一度、「なんで！私たちが悪いのか！」っていうのではなく、開き直るのでもなく、待ち望むっていう。やっぱり聖書の命令は、絶えず喜びなさい、祈りなさい、賛美しなさい、ですよね。日本宣教の障壁に関して日本宣教が進まないとは実は思ってなくて、とり置かれているだけだと思ってるんですよね。終わりの時*7が近づいてきて、やっぱり、日本で、終わりの時にガッとリバイバル*8が起こるんじゃないかと。自分たちの祈りとしては、患難時代*9がくる前にそれがきて欲しいとそれを祈るのが、今のクリスチャンの役目なんだなと。ただ、本当に、大きな計画としては、本当に終末のギリギリになった時にやっとリバイバルが起こる。爆発的な何かがあるということもあるのかな、と。だからあんまり今までの宣教師たちに力がなかったとか、宣教方策が悪かったとか、そういうことではないような気がするんでうよね。旧約聖書のハンナの祈り*10じゃないですけど。ハンナが預言者サムエルを生む時に。別の妻に子どもが生まれて自分には子どもが生まれないと。そこで泣いて祈るわけですよね。でもサムエルは結局イエス様の家系につながるダビデに油をそそぐためにここで生まれなきゃいけなかったので、神のタイミングはここで（実際に生まれたタイミング）サムエルが生まれることだったけど、ハンナはやっぱりここで（今すぐに）生まれて欲しいって思う。でも待たなきゃいけないわけですよね。タイミングがあるので。全てはイエス様中心で動いているので、イエスの家系に繋がるダビデに油をそそぐためにサムエルはここで、生まれなければいけなかった。だから神は、でもその息子はハンナを通して、生むっていう神の計画があったから。その、「神の時」と、「人間の願い」っていうのは違う時はもちろんあるので、日本宣教、日本にもっとリバイバルが起こって欲しい。今起こって欲しいって今のクリスチャンはもちろん当然思いますけども、でも、神の最善の時にそれが成るっていう信仰を持って、一人でも多くの人を救うために、祈って賛美して、働くっていうのが私たちの役目なんだなと。「なんで早く救ってくださらないんですか」と呟くことじゃなくて、今・・・一つでの多くの御言葉の楔を打って行くっていうか。でも神の時に必ずそれが芽を出すってことを信仰を持ってやって行くっていう、もうそれしかないかなと思いますよね。結論としてはそんな感じ。

2.2.4 使われた言語に関する解説

信仰告白*1・・・新約聖書ローマ人への手紙１０:９～１０「すなわち、自分の口で、イエスは種であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるならあなたは救われる。なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。」この言葉をもとに、クリスチャンの後に続いて、口に出して祈ることがよく行われる。

ペテロの魚を釣って口からコイン出す*2・・・新約聖書マタイによる福音書１７:２７参照

その御言葉*3・・・　新約聖書コリント人への手紙第Ⅰ12 章 3 節「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主

です』ということはできません」

「福音を宣べ伝えなさい」*4・・・『マルコによる福音書』１６：１５「 それから、イエスは彼らにこう言われた。『全世界に出て行き、すべての作られた者に、福音を宣べ伝えなさい。』」

イエス様を受け入れた方の囚人*5・・・新約聖書ルカによる福音書２３:３９~４３参照

アブラハムの子の妻のサラ*6・・・創世記１８章、２１章参照

終わりの時*7・・・新約聖書のヨハネによる黙示録の時代

リバイバル*8・・・国など大きな単位で人々が救われること

患難時代*9・・・新約聖書ヨハネによる黙示録または、ルカによる福音書１２章参照

旧約聖書のハンナの祈り*10・・・旧約聖書サムエル記上１章参照

2.2.5 考察

2.2.5.1 C 氏が感じる伝道の障壁

C 氏は、伝道の障壁をあまり感じていない上に、それをあまり問題としておらず、ドミナント・ストーリーとして捉えられていない。その理由として、教会の施設を使用しているという点がある。C 氏本人も言っているように、抵抗のある人は最初からこない。また、C 氏がキリスト教徒だと知られていることもキリスト教の話をしやすい要因である。B 氏も C 氏も「入信への誤解」については語っていたが、C 氏は特にそれを障壁として受け止めておらず、その時々に誤解を解く術を心得ているようである。特に問題としていなかったことから、誤解の問題自体が通常のことであると C 氏は捉えている。　2010 年からインタビュー時点までにおいて、アートスクールでは信仰告白者が 17 名、もともと教会に通っていてアートスクールにも来て、信仰告白をした人を含むと、23 名、受洗者（洗礼を受けた人）が 2 名出たそうである。また、教会での空手クラスでは、3 名の信仰告白者が出たそうである。この事実からも伝道の障壁は感じにくいと考える。また、C 氏は「待つ」ことは恵みであると考えていて、消極的に捉えていない。C 氏は、「信じさせなさい」ではなく、「福音を述べ伝えなさい」というイエス・キリストの命令に従い、伝道を行い、一人でも多くの人が救われるように祈っている。日本人に何か問題があるから信じないとは考えていない。この点に関しては B 氏と同様である。B 氏と異なる点は、彼はキリスト教界全体が反省することが求められているとは考えてはおらず、待ち望むことを提案している点である。「クリスチャンはいつもその素晴らしさをいつも伝えることができるのか」という質問においては、クリスチャンに問題があることは疑うことは全くせず、そもそもその問題が存在しないかのような回答であった。これは、C 氏は、教会の施設を借りて全面的にサポートを受けた上で伝道しているという要因があると考える。B 氏が教会の牧師には応援されていたものの役員たちに反対されて教会のバックアップがないという経験をしたこととは対照的である。仮に、C 氏が伝道をしないで外に出ることに恐怖を持っているクリスチャンに出会っていたとしても、それらは関心の外であるということも考えられる。C 氏は現在も過去も信徒であるが、B 氏については現在は牧師である。よって、マクロな視点で教会を見て、一人一人の信徒の信仰についても関心のうちにある B 氏は一般のキリスト教徒よりも特に問題を強く意識していたのかもしれない。そして、「やっぱり聖書の命令は、絶えず喜びなさい、祈りなさい、賛美しなさい、ですよね」という C 氏の発言の元となる聖書箇所を引用すると、テサロニケ人への手紙第Ⅰ 5 章 11 節から 21 節に命令が続いている。その命令一覧は以下のようである。

・互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。
・あなた方の間で労苦し、主にあってあなたがたを指導し、訓戒している人々を認めなさい。
・その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。お互いの間に平和を保ちなさい。
・気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。
・誰も悪を持って悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行うよう務めなさい。
・いつも喜んでいなさい。
・絶えず祈りなさい。
・すべてのことについて、感謝しなさい。
・御霊を消してはなりません。
・預言をないがしろにしてはいけません。
・しかし、すべてのことを見分けて、本当に良いものを堅く守りなさい。
・悪はどんな悪でも避けなさい。

である。「喜びなさい」という命令は、他に８箇所出てくるため、聖書においても強調されている。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて、感謝しなさい。」は抜き取られて引用されるケース

も多い。しかし、数多くある命令の中でこの３つを選んだということは、最もC氏が共感するものであったからであると考える。C氏のインタビューは、終始にこやかで楽しそうで、この御言葉と言動が強い結びつきを持っていると思われた。B氏と違って、変革という役割を自分に持っているとは感じていない。同じ聖書を読んでいても自分が重荷を感じる部分、つまり使命感が一人一人の個性によって違ってるのだとわかる。

C氏の伝道の対象は、すべての人が大きな悩みや困難を抱えている人ではない。その点切迫感のようなものを感じて、聖書の話をしているというよりは、単に良いものを紹介せずにいられないという気持ちが強いように思われる。伝道の時にどのような話をするかについて、一通り語ってくださった際もとても楽しそうであった。C 氏もまた、聖書を大きな物語として持っているが、自分を重ね合わせるポイントはB氏とは異なっていて、B氏が聖書において、イエス・キリストやパウロの視点で現実を解釈していたのに対して、C氏はハンナやサラという女性の視点で現実を解釈していた。

大衆に語り、もう二度と会うことがないかもしれない人々に語る路傍伝道の方法とは違い、C氏の方法は個人個人に時間をかけることができる。その分、話の内容もより詳しい。関わった個人一人ひとりに向けて話すことが多いため、個人個人の関心に合わせて話を発展させるため聞き手にとってもさらに興味をそそるものである。C氏も伝道聖書の話をストレートに話している。宗教の話をすることに引かれるのではないかという不安は一切感じていない。また、教師としての立場から定期的に関わり続けられることが保証されている点がB氏との相違点である。C氏は聖書には書かれていない、空手やアートを教えているが、一見関係がなさそうなところに聖書の文脈を馴染ませているのかと思いきや、空手やアートとは意外と関係なく唐突に「イエス様」の話をする。継続的に関わり続けられることは、伝道のしやすさにもつながっていると考えられる。

2.2.5.2 C氏のモチベーションへの考察

B氏は伝えたら最後、聞き手が人生のどこかで神に出会い、救われることを祈るのみで、常に信仰告白という結果が見えるわけではない。旧約聖書の伝道者の書 11 章 1 節には、「あなたのパンを水の上に投げよ、多くの日の後、あなたはそれを得るからである。」とあるが、B 氏が行なっていたのは、水の上にパンを撒く(意味がないように見える)ようなことである。続けるには相当の強い動機が必要であっただろうと考える。それに比べてC氏は伝道の結果が見える位置にいる。それがC氏のやりがいとなっている面もあるのではないかと推測する。さらに、C氏は伝道した人が救われた後についても継続的なサポートが行える立場にある。そのため救われた後の成長についても語っていた。統合失調症の男性のエピソードでは、救いの後に、「聖霊が内側から変えてくださるっていうのを今見せていただいている」とC氏は述べている。救われた後の聖霊の働きについては、B氏もD 氏も述べていない。コリント人への手紙第Ⅰ3 章 6 節から 7 節には、「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。」コリント人への手紙第Ⅱ3 章 18 節では「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと主と同じ形に姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」とある。救われた後も継続して関わり続けられるC氏であるからこのように「聖霊」　について言及されたのだと考える。また、この男性のエピソードのような経験は、聖書によって裏付けされる者であり、C氏の伝道のモチベーションとなっていると考えられる。

2.3 伝道者D氏へのインタビュー

2.3.1 伝道者D氏の背景

伝道者D氏は聖書配布協力会のメンバーである。宮城県丸森町を拠点とするグループである。活動内容はHPには以下のように書かれている。

・全国の小中学校、高等学校の児童生徒の希望者に、聖書の分冊を無料で配布。
・人が多く集まる路傍において、聖書の言葉を放送
・キリスト者による個人伝道活動
・プラカードや看板による聖書のことばの伝達

会員の募集や勧誘は一切行っておらず、彼らが運営する会社で働くことなどを通して伝道資金を支えている。彼らで運営する幼稚園の会計処理システム開発をきっかけとして、1980 年代にIT系会社の文化オリエント株式会社（現グレープシティ）を創設し、現在は国内外で高い評価を得ている。インタビューに答えていただいたD氏は、その会社の副社長である。伝道活動は 1950 年代にアメリカ人宣教師と日本人のキリスト者数名から始まり、現在は全世界に活動を広げている。

年末年始にかけてなど、彼らが所有するキャンピングカーで丸森町から東京に訪れて、しばらく滞在しながら毎日路上に立って伝道活動を行なっていて、今回のインタビューは 2019 年 1 月 4 日に新宿アルタ付近の交差点での活動の際に行った。D氏はその日の活動のリーダーであった。

2.3.2 伝道の場所・時期・対象（HP より）

時期：1950 年から

場所：岩手県と青森県が中心であったが、1950 年代後半から東パキスタン（現バングラデシュ）やラオスに活動を広げ、現在は 18 カ国。インタビュー時は新宿アルタ近く

時間：昼間から夕方まで路傍伝道

2.3.3 S さんについて

D 氏との橋渡しをしてくださった S さんは、ともにインタビューアーとして、またインタビュイーとしての両方で加わった。伝道活動に参加しており、丸森町にも、2018 年の夏に滞在経験がある。

2.3.4 参与観察

今回は伝道の現場に直接足を運ぶことができた。私が訪れたのは午後 5 時過ぎくらいで、三箇所で看板を持った人がいた。一箇所は、交差点の信号の隣で、小さな女の子が二人。どちらも小学校低学年くらいの年齢に見え、姉妹のようであった。顔立ちはアングロサクソン系の血が入っているようだった。二人とも頬を赤くして、かなりの厚着をしていた。二箇所目はその後ろの広場に立っていた 20 代前半くらいの男性で、少し話をすると、彼は中国出身で 10 才の時に家族とともに丸森町に来たそうだ。グレープ・シティで働いているそうだ。三箇所目は、同じ広場の少し離れた場所に立っていた。彼は通信制の東京の大学生であった。彼からは、その日に伝道に来ていたのは合計８人であり、彼自身は 6 時間外に立っていると聞いた。彼は、無神教であった親がクリスチャンになり、一歳の時に丸森町に引っ越してきたそうだ。小学校は私立であり、中学校は公立学校に在籍しつつインターナショナルの私立の学校で学んだそうだ。彼は日本人であった。私は全くのアポイントなしで突然立っているところに話しかけたのにも関わらず、皆快く対応してくださった。私は、多少恥ずかしがったりするそぶりがあると予想していたのであるが、全く裏切られた。全くそのような素振りはなく、人の視線を全く気にも留めずに当たり前のように伝道活動をしていた。6 時間もずっと年始の寒い外に立っているのにも関わらず疲れた様子や嫌な様子も全くなかった。私が彼らと話しているのを見ると、ちらりと珍しそうにこちらを見る通行人もいた。看板の見た目や、地獄を強調するメッセージから、大々的な伝道をやっているという先入観があるが、実際は彼らの活動はとてもさりげないものである。

2.3.5 インタビュー

で、まあ、こういった布教活動っていうのは、肉的にはあまり好ましくない、楽ではない、お仕事なんですよね。ただ我々がやるその、正月とか、フルタイムでやってる人もいれば、私のように、お仕事をしてこれをフルタイムでやってる方々の生活費を補ってるんですね。でそれはやはりその、マルコ伝マタイ伝でイエス様が言われたように、全世界に行って福音を伝えること、それが、全世界に行き渡らなければ神様が戻って来られない。っていうのがまあやはり、そこですね。使命ですね。 我々が行く使命。生きて生きていくための使命なんですね。ま、これをやるから天国に行くっていうのではなくて、本当に神様を愛して、そして隣人を愛すれば、その喜びで周りの人に伝えたいっていうのが、まあ二世代目が受け継いだっていうか、そういう感じですね。まあ、この中でもうしてもがっかりするときもあると思うんですよね。あの全然こう誰も反応しないとか、日本っていうのは世界でも知られてる、宣教師の、まあ墓場ってみんないうんですよね、誰も信じる・・・２％３％ぐらいのクリスチャン人口なんですけど、ただそのかわりに多くの人が聞いてる、で、イエス様の御名も伝えられてる。ま、私は逆に救われた人よりも、どのぐらいの種まきができたかによって我々が励まされるべきだと思うんですよね。最終的にはその救われる人は神様に委ねるしかない。我々のお仕事、この世の中で生きていくための仕事っていうのはもう種まきなんですよね。なので、まあ、私的にはそのモチベーションていうのは神様が、まず私たちを許してくれたこと、でその愛を知った時にさらに、他の人に伝えたい、じゃあ私最初っからクリスチャンホームで育ってそれ持ってたかっていうと持ってないんですよね。それ一人一人が選ばなくちゃいけない。そして、一人一人が神様の、あの、こう・・・プロセス。ようは試練のプロセスを通って覚え、一人一人が覚えてそれを選ばなくちゃいけないんですよね。で、今度三世代目は、私も五月に子ども来年産まれるんですが、じゃあこれを選んでもらいたい。ただ、子どもが選ばなくちゃいけない。私が無理やり教えることはできない。で、じゃあそれをどう教えるかっていうと、自分の生きていくその模範、そして神様の言葉を小さい頃から教える。それしかできない。そして祈ることですよね。で後は神様が彼の心を捉えて、それで、最終的に献身、そして布教活動のために神様の福音伝道のために全てこう捧げるっていうためには祈るしかないんですよね。私の兄弟の中で、神様に反逆してね、世の中に出て行った兄弟がかなりいるんですね、ただ一人一人が最終的には悔い改めて戻ってきてるんですよね。で、クリスチャンの家庭に育ったから自然的に救われるっていうのは、これは、あってはならない過ちだと思うんですよ。見方が間違ってると思うんですよね。クリスチャンの家族で育ったから、まあ、かなり祝福されてる。ただ、それは一人一人が選ばなくちゃいけない。私でさえ 23 歳の時も、色々仕事の中でね、どうしてもその世の中の仕事があるんでね。どうしても選びたいやりたいってその中で、一人１つ１つを乗り越えて選ばなければいけないっていうのがあってね。ここまでこう１日１日神様に祈りながらここまできたんですよね。なので、まあ、その布教活動っていうのは毎日十字架を負って、それを神様に忠実に従っていくのが多分一番大事なのかな。で神様のみ言葉を本当に毎日読んで、祈って、で本当に神様からこう救われた、愛された

その愛を忘れないっていうことが一番大事なのかな。でその我々がやる伝道っていうのは、本当にただその神様が我々を許した。そしてそれをただ隣人に伝えたい、愛するために伝えたいっていう現れだけですね。ね、これもね、ある程度かっこになれば意味ないと思うんですね。本当に今の若い方もね、彼も本当にやりたいっていう心がなければ意味ないと思うんですよね、でうちの親たちがそれをやりたくてそれを一生捧げた。で私たちも一人一人それを選ばなくちゃいけないんですよね。でどうしてもこう、枠にはまっちゃうとそれが、こうなんていうのかな、自然的にあの、こう・・・まあ、やり始めるっていうのはあるんですけど、最終的にはこれ一生やるっていうのは一生神様に献身する、そして伝道に命を捧げるっていうのは一人一人が決めなくちゃいけないことだと思うんですよね。なのでじゃあ今日あの、もう、いつからこれがあったのかっていうと、まあ私的には私はやはり 24 歳ぐらいかな。本当にこう、世を選ぶか、神様を選ぶか。この自分の仕事キャリアパスを選ぶのか。伝道のために、そして福音伝のために、あのフルタイムで身体を捧げてる方々のために仕えるっていうのを 24 歳で決めたのかな。
＜それまでに違うお仕事をされていたのですか？＞
中国で色々と仕事・・・グレープシティの中で、グループ会社でね、仕事をしてたんですけどね。あの
＜路上伝道を何年まえから始められたんですか？＞
私はもう、生まれてから、小学校の時から親に連れられて。うちの親たちは戦後間も無く宣教師として日本にきたんですね。その時アメリカの駐軍がかなりいて、それで、あのその時のマッカーサー大将がアメリカのあの、クリスチャンにぜひ宣教師を送ってくださいっていうことで、うちの親たちが来始めたんですね。もともと南米に行く予定だったのが、彼らが最終的には日本に来たんですね。でアメリカの団体で”New tribe’s mission”と一緒に来たんですね。もともと種族のためのミッション、で南米の種族のためのミッション団体だったんです。だからみんなバラバラできて、最終的にあの、岩手県でみんなが一緒に仕事し始めたんです。福音伝道を一緒にやり始めたんです。その意図としては一緒にやったほうが効率がいいですし、色々と補えるっていう。お互い色々足りない部分を補えるっていうことで一緒にこう集まって福音伝道し始めたんです。で仕事の方は本当にもうアメリカからの援助がなくなったんで、それでお仕事を始めたんですね。それで今のグレープシティそして明泉幼稚園があるっていう。
＜宣教師は何人くらい？＞
7 家族で、独身の人が 8 名くらいかな。で日本の家族が人家族。が加わったんですね。まもなく。
＜S さん：馬場さんですか。その方ご夫婦 80 代で今年夏会いました。（省略）ご兄弟何人ですか？＞
うちの家族は 19 です。私 18 番目です。
＜S さん：ということです。目からうろこ（S さんは、丸森グループは兄弟が養子を含めてとても多いことを知っていた）＞
＜学校ってさっきおっしゃいましたが・・？＞
我々は小学校は啓明小学校、われわわれが経営する私立学校ですね。にいて、中学校は公立学校に行ってました。
で、アメリカの高校、通信大学、通信高校ですね。通信制のアメリカの高等学校受けて、それをしながら明泉幼稚園で我々トイレ掃除とか動物のお世話とか、そこから、全員始めるんですね。
＜仕えることを＞
そうですね。で、それを２年３年くらいやってまた伝道に行ったり、海外に伝道行ってまた戻って、二十歳、22 歳くらいになったらまた戻ってきてお仕事をするっていう感じで。でまあ通信制で多摩川とか、日本とかアメリカの大学。日本の大学受ける人もいればアメリカの大学受ける人もいるし。
＜S さん：明泉幼稚園は何年も？調べれば＞
古いですね。50 周年を迎えたところですね。
＜めいせん？＞
明るい泉ですね。
＜S さん：一般的に言われるのは貴族幼稚園だと言われているそうで＞
そうですね。授業料が１番高い。まあ環境的にいい・・
＜S さん：すごいいい。山あり谷あり、滝もあり、動物もあり、滑り台も何十台あり、すごいものです。＞
まあかなり環境に恵まれた学園ですね。
＜S さん：バイリンガルですよね。中国語はまだそこで教えていない。＞
まだ教えていないですね。
＜えっと、英語と日本語で教育していると＞
そうですね。中国語は啓明小学校だけですね。
＜S さん：いわばそこに教会があって教会学校みたいですよね。そこで３ヶ国語＞
＜けいめい＞
＜S さん：「けい」は啓示の「啓」＞
で明るい。

＜S さん：だから中国語もネイティブに話されるんですよ。＞
＜そこに来るのは伝道している方だけ＞
そうですね。はい。
＜幼稚園も＞
はい。
＜S さん：幼稚園は対外的に募集しているんですよね＞
啓明小学校の幼稚園もあるんですけど、それは教会の方々だけのね。明泉小学校の幼稚園は、もうこれは一般向けの。
＜S さん：仙台市内に二箇所ありますよね＞
はい。
＜S さん：啓明小学校の子は、教会はその丸森町の中にあるんですよね。そこは宣教師、ほとんど宣教師のみのお子さんの学校ですよね。＞
はい。朝の早い時間から夜の、午後まで。朝の 7 時から夜の 5 時くらいまで。それで勉強してます。
＜朝 7 時から 5 時まで。その内容は聖書の？＞
一般科目もあれば、聖書もありますし、言語ですね。英語日本語中国語。で一般科目は日本語で全部教えますけど。えっと中国語が 2 時間くらいかな。で、英語も 2 時間ぐらいですね。
＜S さん：週にですか？＞
いえ毎日。
＜S さん：毎日ですね。＞
＜英語中国語２時間＞
＜S さん：毎日ですね。＞
＜それが明泉小学校＞
啓明
＜啓明小学校。＞
＜子どもたちは伝道のミッションというのはどのくらいから持ち始めるんですか？＞
まあ、我々小さい頃からもう、小学校三年生四年生、親に連れられて伝道を路傍伝道を教えられるんで、そのこれをやらなければいけないっていうそういう時期が、あると思うんですね。ただ大人になってから一人一人が本当に一生これに捧げるのかは決めなくちゃいけない。
＜へえ。それは決める時期っていうのが、＞
みんなまちまち。
＜まちまちですね。仕事する中でだったりとか、大学の・・＞
伝道しながらだったりとか、仕事をしながら決めなくちゃいけない。やはりそれをやりたくない人も。しない人も、まあ一人一人選ばなくちゃいけない。
＜やっぱり、さっきやりたくなくて世に出てしまったていう人もいるけど悔い改めて帰ってくるっていうお話があったんですが、大体はそうなるんですか？＞
あの、全員がね、出て行って反逆したかっていうとそうでもないんですよね。私の兄弟の中では反逆してね、あの、で、出て行って悔い改めて戻ってきたんですけど。あのそういうのも、ようは、その、ただこれはやりたくない。ただ信仰は捨てたわけじゃない人もいますね。まあ、一人一人が選ばなくちゃいけないんです。ただ、どうしても親がやったから子どももやるっていうその、錯覚が強いんですよね。一人一人が選ばなくちゃいけないのは最終的に、あの私個人的にはそう思うんですよね。
＜種は巻くけど収穫は少ないですよね。立ってて聞いてくる人とかっているんですか＞
いるときもあれば全然来ない時もありますよ（笑）。なので、あの私がこう、いつも、伝道としてこういう効果を、こうどうしても見えない時には、我々の仕事は種まき。でその刈り取りっていうのは、我々がやるかもしれない。ただ、ほとんどその結果効果は見えないと思う。アブラハムでさえカナンの地が全部約束されたのに、子どもも海岸の砂のように多くのこる、神様からこう、あの、約束されたのにも関わらず彼も見えてないんですよね。見えなかったんですよね。なのでそういう信仰で、種まきをしなくちゃならないんですよね。さもないとがっかりしてもうやめちゃいますね。なのでそこ、やはり我々の目的っていうのは、種まきであって、数えるんじゃなくてね。ただねそういう意味ではモチベーション的には数える方ではなくて本当に自由に種まきをする。で結果は後は神様に委ねる。っていうそれは私個人的にそういう風に、そうやらないとどうしてもみなさんくじけたりがっかりすると思うんですけれども。
＜若い人たちもそういう風に思っているんですか＞
いや。あのこれは後は経験ですよね。若い時にこれ私やれたかっていうと、まあ、やりたくなかった時もありました

よね。ただ、やっぱりその目的、わからなかったと思うんだよね。まだ、クリスチャンの家族で育った以上、ある程度理屈的には理解してたんですけど、じゃあ今になって振り返ってみるとやはりその、もっともっと神様から教えられてこの、やっぱり、この世の中でね。我々生活していく中での旅ですよね。それを神様、いろんな形でそれを教えてくださったっていうのが、今になって振り返って理解できますけど。じゃ今全部理解できるかっていうと理解できないと思うんですよね。それが一人一人神様が教えなくちゃいけない。
＜どんなことがあったんですか？＞
例えば、その、数ではない。これは、その、周りの教会がいろんなメンバーいて我々が少ない、まあ我々の教会もかなり大きいんですけども、あのじゃあ、今日誰も聖書もらわなかった、取らなかった、聞いてくれなかった、でそれでもうがっかりしちゃうと明日やれないですよね。そういう意味ではもう、本当に神様のみ言葉を読んで、もう結果は神様に委ねる。で百倍身を結ぶ人もいれば、ただ最初にそれ神様に委ねるしかないんですよね。神様が全てを育てる。全てをご存知で、我々があくまでも、本当に種まきっていうことをちゃんと理解した時には、あ、これでいいんだってのは、もう、それである程度平安があったっていうのは私なりのあれなんですよね。
＜S さん：今年はそうですし、10 歳くらいの子どもさんが来られてますよね。上は 80 代ですか。日本語の先生。＞
あーはいはい。
＜S さん：初日にちょっと加わってたんで。あ、７０歳ですか。やっぱり子どもたちは自発的な面で参加しているんですか？＞
そうですね。親たちには子どもは自発的に、もし、来たくなければ来なくていいんですよ。
＜S さん：親からただ勧めるだけ？聞いてるだけで＞
そうですね。親が自分で来てます。ほとんどの親が来てるんで。
＜S さん：私の主人、私中国生まれですね。育ちですね。途中留学に来て、主人は地元新宿なんですね。今年初めて加わらせていただいてちょっと今日は早く来れなかったんですね。主人も歴史を聞かせていただいて、自分小さい頃ずっと新宿で見ていたんだ。＞
＜路傍伝道する人たちが少ないので、結構恥ずかしがったりとか、色々、物投げられたりとか＞
確かに、怖い、恥ずかしい、我々みんな通りますね。ただ我々小さい頃からやってるんで結構慣れてしまって、もうあんまり考えないっていうのがあるんですよね。逆に多分初めて加わる人は一番大変だと思います。我々もう、小さい頃からやってますし、親がやってますのでね。ある程度鈍くなってる部分がありますよね。ただ私、公立学校、中学校に行った時、親が、じゃあ学校の門の前で、あの、持ちなさいって言ったらやっぱり、しょすがるっていうか、恥ずかしいですよね。ただそれでも持ちましたよ。で、持つと、だんだん慣れてきて。
＜S さん：乗り越えられたっていうことですね。＞
ただ、路傍伝道も１つの方法で。もう１つは、我々の親が、一番いい方法は、一対一で話すこと。自分の口を使って、福音を他の人に伝えることがあなたの信仰にとって一番いいことだよ。ただ今はこういう形でやってるのは、人に誰も話さない、立ち止まらない、聞いてくれないっていう意味でこういう風にやってるだけです。
＜じゃあもし聞いてきたら結構話すんですか？＞
ああ、話しますよ。今日も誰かがきて僕と話しましたよ。2 時間ぐらい話しましたね。
＜本当ですか。へええ。＞
＜S さん：先日渋谷で手伝っていた時に。一人、若者。男の人が聞きに来た。やっぱり、世の終わりの裁きが来ますかって聞きに来て、結構、3,40 分くらい話しました。＞
＜どういう人ですか？＞
＜S さん：やっぱり若者で、いっぱい悪いことした。そして青少年なんとかの所にも入れられて、すっごいひどい目にあって、壁に頭をボンボン、こうやられて、そんときに死んだ方ましだと思ってたんで。今でてきて、仕事もした時期もあるんですけども、まだ周りにいろんな、いじめられたり、また、変な、あの、ことされたりして、まだやっぱり自分すんごく苦しいんですよ。と向こうから話してきたんですね。で、私は、まあ、ちょっと、それは、やっぱり神様知らない方は、人はみんなそれは普通ですよって。ですから私たちは神様と出会えて一人一人尊い存在であることを知ったときには、もう神様は、中にいれば、この世のどんな、状況でも怖く無くなるし、むしろその人々を愛し、祈ることができるように変えられるよ。と、そう。で教会にも入ったことがあって。カウンセリングの看板見て牧師先生と話したことがあって、でも自分すごく非常識で、すっごく失礼なことをしていたので、牧師先生に怒られていたとか。あのその後、自分も反省して、牧師先生に悪かったとか言ったとか言って、理解してくれたみたいで、その後は教会離れてしまったんで。でこの頃になると、このグループ、また来るかなと知っているから通ってて聞いているんですね。＞
結構教会に行かれる方で、我々の看板とか、聖書のメッセージ聞いて救われたという方が多いですよ。私も渋谷のハチ公前で立ったときに、五年前に誰かがここで、同じことやっててそれで救われて今牧師やっていますっていう人もいましたし。後、自殺でね、こう自殺未遂で、その自殺に行く予定だったのが、それを聞いてやめたっていう、私じ

ゃなくて他の人が聞いた。なので、その効果は、我々で、全部わからないです。ただあとは本当に、伝えて、結果は神様に任せる。でその確信を毎日毎日持たなくちゃいけないっていうのが一番、我々にとって大事なことだと思うんです。

＜S さん：また聞いて、心とても静まると言いに来る人もいる。＞

我々一世代目が常にいうことは、神様のあの、御言葉、を毎日読みなさい。で毎日祈りなさい。で、この２つをやってれば神様は導いてくれますし助けてくれるから。どんなに辛いときを通っても、どんなに失敗しても神様は全て守ってくれますし、そこは絶対に、あの、間違わないからってことは。それも本当にそうです。あの若い時はあまり聖書はね、真剣に読まなかった時期もあったんですよね。今になって毎朝、読む時間、そして祈る時間を私なりに設けていますし。伝道っていうのは本当にその、最終的に自分が罪人であって、救われた。で本当に恵まれたっていう愛からくる心だと思うんですよね。で、本当に、それを悟ったときに伝道ができると思うんですね。こういう路傍伝道ではなくて。本当に・・・もうみんな終わった？（他のメンバーに活動の状況を聞いた）

福音伝道っていうのは本当に、自分がどのぐらいの罪人で、救われて、本当に、神様から恵まれて、そしてそれを他の人に伝えたいってことが、私は福音伝道につながると思うんですが。

2.3.6 D 氏の考える伝道への障壁

D 氏は日本を「宣教師の墓場」と表現していたが、日本でクリスチャンが少ないことと、宣教が難しいということはドミナント・ストーリーとして持っている。看板を持ってメッセージを放送するという伝道のスタイルも、伝道の障壁からきているようであった。D 氏は路傍伝道を１つの方法として行なっているのであり、親には「一対一で話すこと」が良いことであると伝えられている。聖書においても、イエス・キリストは、伝道の際は大衆に向かって話すよりも一対一で、または一緒に食事をしながら直接話すことが多い。D 氏は「聞いてくれない」ということが理由であったと言っていいたが、これには歴史的な背景がある可能性がある。丸森町に以前滞在していた方の話では、戦後、聖書配布教会の前身となった宣教師たちがテント生活をしながら伝道をする際に、神の愛についてのメッセージは「聞いてくれなかった」という。しかしその中で人々の興味を引き付けたのが「地獄」と「裁き」であったそうである。どうして、恐怖を煽るようなメッセージをし続けるのか、インタビューの際に直接尋ねることは出来なかったが、看板のスタイルを変えていないことからも、当時の伝え方を変えずにいると思われるし、アメリカの宣教師たちが、キリスト教に全く馴染んでいない東北の人々に最も伝わる方法を試行錯誤して考えたというのは納得できることである。

伝道活動については、「好ましくない」というよう負担を肯定している。実際に、私がインタビューに行った当日も相当厚着をしないと寒い気温で、外に 6 時間立ち続けるという肉体的に大変なものであった。D 氏が子どもの頃活動をやりたくない時もあったと述べていた通り、キリスト教団体の活動が少ない日本では、看板を持って立っているのは目立つし、恥ずかしいと思ったり、怖いと思ったりする場合もあるだろう。その方法では、B 氏のようにコミュニケーションを持つことが少ないので、さらに結果が見えにくくてモチベーションを維持するのが難しそうである。

2.3.7 D 氏のモチベーションへの考察

D 氏は、まず第一にマルコ伝を根拠としてモチベーションを維持している。新約聖書マルコの福音書 16 章 15 節の「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」は、1950 年に来日したアメリカ人宣教師と日本人家族の活動のきっかけであり、聖書配布協会の原点の御言葉である。D 氏も同じ御言葉を前提としており、伝道を使命として捉えている。また、それは「神様が戻ってこられない」というように、再臨の信仰に基づいている。

そして、もう１つ動機となっているのが、神様から与えられた恵、救い、に基づく隣人への愛である。これはかなり意外性を伴うものであった。というのも、彼らのグループの放送するメッセージ、看板、トラクトで強調されるのは「地獄」や「裁き」であるからである。トラクトの絵も怖い地獄の絵が描かれている。私も小学生の頃に帰り道で配られて、読んだ時にどきりとした覚えがある。このように恐怖を煽るようなものが多い点は、他のキリスト教会と異なっている。実際に渋谷で S さんに話しかけてきた男性も、「裁き」について聞いてきていた。しかし、インタビューでは「神の愛」が強調される一方、「地獄」や「裁き」については一度も触れられなかった。話を聞いた方々も皆とても穏やかで、発信するメッセージとのギャップを強く感じた。D 氏は伝道の意味として「種まき」ということを強調していた。マルコの福音書 3 章 14 節には「種蒔く人は、御言葉を蒔くのです。」と描かれているが、D 氏の意味する「種まき」も伝道を意味している。これは C 氏が「神の時に必ずそれが芽を出す」と言っていたことと共通している。結果が見えなくても、それをすることで自分に何か利益があるわけでもなくても伝道を行なっているというのは三者に共通している紛れもなく信仰に基づくモチベーションである。D 氏は結果が見えなかった時の落ち込みがあると言っている。そして、「聞いてくれない」というのは D 氏の中のドミナント・ストーリーとなっている。一方 B 氏はドミナント・ストーリーがあることを認めつつも、自分の伝道経験で、意外と聞いてくれるというオルタナティヴ・ストーリーを作り出している。D 氏は「種まき」の結果を見ているにも関わらず、ドミナント・ストーリーは修正されない。それはなぜなのかわからないが、団体で行動をする彼らは、伝道の形も決まっていて、一対一の伝

道の機会を積極的に持つやり方ではないので、非キリスト教徒の反応に気づきにくいまま、ストーリーが制度化されてしまっているのだと考える。それか、ほとんど聞いてくれない中で、たまに聞いてくれる人がいて、恐怖を煽るメッセージは人々の目に刻まれているということは十分な実を結んでいて変える必要がないのかもしれない。自殺を考えたりするような死と直面した人には、死んだ後どうなるのかというのは普通に生きている人たちよりもかなり深刻な問題であるため、彼らのメッセージは強く心を動かすものになるはずである。戦後の日本も、貧しさと戦争の記憶から「死」が今よりも身近にあったため、みなが興味を示したのかもしれない。B 氏、C 氏、D 氏はそれぞれ伝道の対象が違っているのかもしれない。路傍伝道の場合は、誰の心に響いているのかはわからないが、B 氏はこれからどうやって生きていこうか悩んでいる人、D 氏は死の間近にいる人に語りかけているのかもしれない。D 氏のグループの伝道方法は、50 年代から変わっていない古い方法で、現代の人々に合わないと考えてしまいそうだが、もしかしたら、自殺者の多い現代社会において、必要な方法の 1 つなのかもしれない。第 I コリント 12 章 27 節に「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとりは各器官なのです。」と書かれているように、必要な人に届くように役割が分かれているのかもしれない。

もう 1 つ D 氏が強調していたのは「一人一人選ぶ」ということである。これは、B 氏と C 氏のインタビューにはない視点である。丸森町の環境において特徴的なことである。その環境で育った D 氏があえて「選ぶ」と強調しているのは、親がやるから、自分もやるということは「錯覚」であると評価しているからである。「錯覚」をするのは誰なのかは明確に語られていない。兄弟の反逆の話と関連づけられてかたられている上に、D 氏が「私個人的にはそう思う」と言っていることから、「錯覚」をするのは、子どもであると考えられる。また、その文脈で D 氏は、教育者の視点から子どもにどのように選ばせるかを語っていた。自分で選ばないことが、その後なんらかの問題を引き起こしていると考えられる。自分で選ばないとその後、反逆などのよくない結果を生むというのがグループ内でのドミナント・ストーリーとなっていることも考えられる。D 氏自身は、23 歳の時に世を選ぶのか神様に仕えることを選ぶのかというターニングポイントを迎えていて、D 氏の現在の伝道は正真正銘自分の選択であることがわかる。D 氏は、自分でモチベーションを保つことが必要だと考えている。自分の信仰で神様に仕えるのか、親の信仰によるのかという違いは、旧約聖書におけるダビデとソロモンの関係がそうである。旧約聖書第 I 列王記 11 章には、ダビデの息子のソロモンの信仰がダビデと比較され、ダビデの信仰ゆえにソロモンが祝福される様子が書かれている。しかしソロモンの反逆はその後のイスラエルの分裂を招いてしまう。このことは、D 氏がクリスチャンの家族で育つことは祝福されるが、「一人一人選ばなくちゃいけない」と言っていたことと重なる。しかしインタビューという形式においては、インタビューアーとの関係性で、あえて強調するということもありうる。丸森町を中心とした特殊なコミュニティーの活動ということで、誤解されやすいため、強制ではなく一人一人が自分の意思で伝道活動を行なっているということを強調したということも考えられる。当日の参与観察の限りでは、他のメンバーも自分の意志で伝道活動をしていると思われた。

2.4 伝道者 E 氏へのインタビュー

2.4.1 伝道者 E 氏について

伝道者 E 氏は、70 代の女性で教会の信徒である。横浜で信仰を持つようになり、日常生活と教会の伝道集会で伝道を行う。その後、名古屋に転勤し、日常生活で伝道しながら、家庭集会や病院、学校、学研の仕事を通して伝道を行う。横浜に戻ってきた後は、日常生活での伝道と、家庭集会や伝道集会での伝道を行う。

2.4.2 伝道の場所・時期・対象

時期：1971 年（クリスチャンになった時点）から

場所：横浜、東京、名古屋。

対象：出会った人全て

2.4.3 インタビュー

2.4.3.1 E 氏がクリスチャンになるまでの経験

＜教会に行き始めたきっかけは何でしたか？＞

人生に希望もなくなり真っ暗な日々を送っていたその時に、トラクトくださる方がいて、そのトラクトを見た瞬間に、行きたーいと思ったんですよ。

＜何が書いてあったんですか？＞

イエスキリストの救いについて書いてあったんですけど。ただ、内容をはっきりは覚えていないけれど、内側から、その時、ほんっとに救われたっていうような、引き上げられたっていうようになったんですよ。そしてもう矢も盾もたまらなく行きたくなって、その方について行ったんですけど、普通は家族が反対するんですけど、その家族が何にも反対しないでそのまま一緒にその方に付いて、伝道集会に行くことができたんですよ。

でそこで、「イエスキリストを救い主として受け入れる者は手をあげてください」っていうまねきがあってそれに応えた。

＜トラクトですぐにイメージが湧いたんですか？＞
その前から色々苦しみがあったから。
その前から啓示によって神がおられると知っていたんですよ。それを逃げに逃げていた感じで。それでそのトラクトをいただいた方が。
＜いつ神様がイエス様だとわかったんですか？＞
それはね、長女を出産してちょうど一年目のクリスマスの時に、キャロリングってありますよね。キャロリングで来てた方が、歌っていた、クリスマスのキャロルのその声を聞いた時に、このかたが、このかたが、救い主なんだと知ったんです。神様っているのはその前に刑事で知っていたけど、それがイエスキリストで、その神様っていうのが一つにならなかったんですよね。そのキャロリングによって、その成果によってイエスキリストが救い主であることを知ったんですよ。
＜啓示っていうのはどういうものだったんですか？＞
啓示っていうのは、神がおられること。それが幻とか・・・幻ですね。それで知った。幻を見たのは、命が危ない時に、神が生きておられるっていうことを啓示によって知った。だけどその方がイエスキリストであることを知ったのは、
＜暗闇の中とは？＞
幻をいただいた時っていうのはね、私が臨死状態に、一回死んでしまったんですよ。病院で。で、その時に見せられたものなんですよ。意識があったかどうかわかんないですけど。麻酔がかかっているのかどうかわからないけれど。体は自由にならないんだけど、この深〜くで、神は生きているっていう、はっきりと聞いてしまったんですよ。
＜病院のベッドの上で＞
その時ベッドだったと思います。それからもう天国にまで入れられて、天の世界を見て来たりして、そして。その啓示のあった時に、啓示が先か、天に引き上げられたのが先かわからないけれど、忘れちゃったのですけれど、ず〜っと綺麗な道を上っていった時に、あの、御殿みたいなところがあって、白い衣、、御座があって、白い衣を着た人がこう、何人も、こういるんですよ、そして一番手前の方が、すぅーっと私のところに来たんですよ。でその時来て、((右手を左右に振って断るような仕草)) こうして手を振っただけなんですけど、私の中では、本当にそれが同時通訳のようになって、あの、「あなたは、ここにはまだ入れない、なすべきことを全て成し終えてここにまた来なさい。」ってそういう風に言われたと同時に、今度はすぅーっと上がっていくんじゃなくて、一気にベッドに戻ってしまった。そしてまたその苦しい状態が元に戻ってしまったっていうような。そんな中での啓示があったんですよ。
＜それまではイエス様って聞いたことがなかったんですか？＞
聞いたことはなくはないんですけれども、教会にも一回、学生時代に、友達と、行ったことがあって、なあんて素敵なところなんだろう。もう自分のうちみたい、と私は思ったことがあったんですね。
＜学生の友達もクリスチャンだったんですか？＞
友達も全然未信者よ。未信者だけど、ただそこに教会があったから、寮に入ってたから、寮のお友達とみんなで行ったんですよ。
＜ミッションスクール？＞
ミッションスクールじゃないんだけど、教会に遊びに行ったわけ。そしたらその時に、私はその礼拝に出たんだけど、本当に自分のうちに帰ったみたく思って、賛美歌も初めてなんだけど、みんな歌えるんですよね。
＜え〜＞
歌えたんですよ。そして教会の人が、あの、私に、あの「どちらに行ってらっしゃるんですか？」って聞いたくらい。あの、でもそれは、一回きりで終わってしまって。そのあともう自分は仏教だからそういう世界にはいけないものともう固く決めてた人だから。キリスト教とは全然遠い世界の。別な宗教なものと思ってたんですけども。
＜仏教は結構信仰してたんですか？＞
信仰も何にもしてないんだけど、うちがそうだから、先祖伝来の神々に仕えていたような、それがいいことだと思ってましたからね。でもそういう出産を機にそういう出来事があって、神様が生きているということを知って、それからその一年後にその聖歌隊の歌によってイエスキリストとその生きている神様っていうのが一体となって、それから近くの教会に行くようになってたんですけれど、転勤やらなんかでね。子どもはキリスト教の幼稚園に入れることはしたけれど、私は教会に結びついてはいなかったんですけれども、そんなでも５年くらいしてから、そのトラクトに、トラクトを持った人に出会ったわけね。それで教会と結びついたっていうこと。
＜ご出産の時に臨死状態になったんですね＞
そうそう。

＜それはおいくつくらいの時ですか？＞
それが 21、２。
＜私くらいの時ですね＞
そうですね。
＜礼拝には行ったことがなかったんですね。＞
行ったことはあります。子どもがその幼稚園に所属して、幼稚園が所属、そこの教会に礼拝に行ったりしましたけれど、本当に自分のあの教会としては結びつかなかった。
＜礼拝になぜ行き始めたのですか？＞
その時から今まで休むことなく行っています。それはね。もうその時、イエス様が救い主であることを知ってしまったでしょ。で、決心したでしょ。それからず〜〜〜っと主はね、離さないの。主の方が。私、もう、とてもとても無理っと思ったんですよ。毎週礼拝に行ったり、あの、間にも集会があるなんてとんでもないと思ったんですけども、それは主の方が一方的にわたしを導き続けてくださって、で、その時、子どもはまだ、おんぶしていってたんですけど、そのおんぶしてる子どもが、私を見るとね。行き始まってすぐの時よ。こう覗き込んで（(おんぶされている子どもが E さんを覗きこむような仕草)）。「贖い？」「贖い？」ってね。こう（息子さんの名前：以下 J）が言うんですよ。でそのことがすっごくうちへ帰っても、そのことばっかり、口が遅い子どもだったんだけど、そのことばっかり言うもんだから、「先生、贖いってなんなんでしょう？」何にも知らないでそんなこと聞いてしまって笑われたことあるんですけれど。そんなことからねえ。もうほんっとうに贖われて、その贖いがもう本物で（笑）（笑）（笑）（笑）。もう・・・イエス様のものになってしまったんですよ。そうして、あらゆる集会で、もう本当に、それから休むことなくですよ。休むことなくイエス様イエス様イエス様（笑）（笑）（笑）ってもう夢中になりまして、180 度変えられました。
＜その暗黒状態から＞
暗闇から光へ。暗闇から光へ！もうほんっとにどん底の生活から喜び一色ですよ。一気に変わりました。
＜どん底というのは体調のことですか？＞
もちろん体調も普通じゃないし、家庭の中の愛も冷え切って。そのくらいに冷え切った愛も冷え切った家庭生活。そんな状況の中から、一変して、光の世界へと移されたんです。でも本当にそういう苦しみがあって、イエス様に一方的に引きつけてもらえた。
＜突然変わったんですか？＞
もう突然。一週間くらいで変わりました。あのね、行き始まって一週間っていうものは、もう重荷で、この背中から、首から背中、ずーっと鉛を流したみたいに、首も動けなくなって身動き出来ない苦しみだったの。もうっ雁字搦めに（強い口調で）されたんです。でも、その子どもを通しての、その贖いっていう言葉で、意味が少しわかったでしょ。それで一変したんです。すっとぉーんとなくなりましたよ。かるぅ〜〜〜くなりましたよ。
＜贖いって聞いたときは？＞
それは後で教えますよくらいで終わってしまったんですよ。先生も、贖いとはねって言えなかったんじゃない？あんまり図星だったから。本当にこの人は贖わなければならない人と、もう、もう、見え見えに分かるような状態だったから、言えなかったんだと思うんですけどね。はっきりは贖いの意味は、あの、、、あんまり教えてもらわなかった。その時は。でもすぐにわかりました。
＜どうやってわかったんですか？＞
わぁ身体でわかりましたよ。(嬉しそうにしばらく笑う)。
＜子どもが「贖い？贖い？」と行っていうちに？＞
もうず〜っと贖い。だって贖いしかないんだもん。そして私が分かるまで言ってるじゃないですか。
＜分かるまでずっと言ってたんですか？＞
ず〜っと、顔見れば「贖い？」ってニコッと笑うんですよ（笑）（笑）（笑）
うちにいるときも、教会でもそうです。
もう本当に幼子を通して私は教えられました。
それでそんな子どもが教会の行く日にち、時間覚えてるんですよ。玄関でも、カバンしょって待ってるんですから。そして、それから休むことなくですよ。
＜行きたくないなとか思ったことないんですか？＞
ないです。何回かあるんですけど、それはやむなく。病気でも行きましたね。病気の時も振り切って行きましたね。これ以上最高の病院はないと思ってるから、行けば、癒されると思ってるから行きました。
＜それくらい礼拝が＞
楽しかったし。
＜礼拝の楽しさはどういう風に感じたんですか？＞

世界が違うんですよ。もう、光の世界で美しくって、もう気絶してしまう。私がいなくなっちゃうんですよ。その礼拝は。ほん〜とに。なんなんだろう、、、これがず〜っと続けばいいっていうくらいに。あの、賛美歌も中からこう、声がこう出ていくしね。もうその世界が普通に思ってたから。こう終わるとこの世に戻される。すごくがっかりする。そういうことだったのね。行かずにいられない。

2.4.3.2　家族との葛藤と伝道の始まり

＜ご家族の方はそれをどう見てたんですか？＞

はじめ何でもない。反対もしないし。夫だけでしょ。あの、全然反対もしないし。私が喜んでるのを共に喜んでいたし。娘も、息子も一緒に行ってたからこれまた一緒に喜んでいるし、パパが反対するようになったのは。伝道集会があって、その時に、私が誘ったそのことがきっかけ。伝道集会でやっぱり招きの言葉がかかった時に、心開かれない者っていうのはいうのは本当に苦しいんですね。それはそれはものすごい苦しみなんだと思う。私は有頂天になってるじゃないですか。信仰が浅いから。相手のこと気遣う訳でもなく。ゆとりがない。何で信じないのかとうちへ帰ってきてね。「パパ何がわからないのよ」って「救いっていうことがわかんないんだ」って言ったら、もう私はさ、それをちゃんと説明するんじゃなくて、「やだそんなことがわかんないの」ってそういう反応の仕方する。それにもうすっごく頭にきて、それを何回か続けた時に、爆発して、それはそれは、すごく今までになく反対今までになく、別な人になってしまったのね。あちら側の、スタンスを取るようになってしまったんですよ。

＜伝道集会の時はやはり旦那さんを連れていきたいと思ったんですね＞

もちろん。その時は喜んで行きましたけれど。矢継ぎ早に、両側に信仰が深い人が座って、パパパっと言うじゃないですか。それがすごく嫌だったのね。

＜それは普通なんですか？＞

普通ですよ。それしなかったらダメでしょ？

それに私も今反省すると私のやり方が行けないのよ。夢中になってしまって、とにっかく夢中になってしまって。夜の集会にも出るでしょ。徹夜祈祷なんてあって、夜中までやってるんですよ。そう言うのにももちろん出たいよね。行く時は生かしてもらったんですけれど。帰ってくるまで起きてるんですよ。それで、もう、罪を犯しましたよね。神様を罵るような行動をとったからね。教会は深夜営業するのかって、嫉妬してね。私を教会に取られちゃったみたいの思った。それは余分なことよ。何にも関係ない。

＜伝道したいと思ったのはご主人からですか＞

伝道集会には当たり前のように言っただけ。当然誘っただけ。

ただ、私の中で、ほんっとに救いの喜びっていうのがあったから、会う人ごとにもう、「イエスキリストはあなたを救ってくださる方なんですよ↗」と、「この方を信じませんか？」っというのは口癖だった。

＜どうやって伝道を始めていったのですか？＞

日常生活の中で、会う人には必ず、「イエス様はあなたを愛してますよ」っていうのが挨拶みたい。

＜お友達とか？＞

友達にも、会う人会う人、電車なら両方、こっちとこっちに座ったら、両方の人に言わずには居られなかった。顔と顔があったら言わなくちゃいられなかった。そのくらい。

＜伝道しましょうとか教えられた訳ではないんですか？＞

伝道しましょうなんて考えない。

＜言いたかったらいう？＞

言いたかったから言う。言ってしまう。言わないでははいられない。すん〜ごく嬉しいことがあったんだからさ。私をこれだけ変えてくださったんだから。あなたも変えられるよって。そう言うことで、言ってたのよね。だからどこからでも人がついてきちゃう。

＜電車の中で隣の人に言ったらびっくりされないんですか？＞

う〜ん、たまたまいい人がいて、その人が教会に結びついたりして。そう言うのがいっぱいあるんだけど。

＜いっぱいあるんですか？＞

もちろん。乗るたんびだから。ですけど、一人の人は、珍しい人はね。私がそうやっておんなじように誘ったその人はね、次から来てるんですよ。教会に。

＜何で！？＞

そしたらその人は、ずっと昔はその教会にいた人なんだって。それで電車でほら、降りちゃったから、その先の話はできなかったけど、もう私が、「この教会にいらっしゃいね。」ってほら、いつも書いたものを持ってるから、それを渡したから、そこに来てたの。そしたら、たまたまその方は、そこの教会に、いた人だったのよ。で、それからブランクがあって、また、それをきっかけに、教会に戻って奉仕活動してましたよ。そう言う人もいるしね。全然結びつかない人もいるし。遠くから、来る人もいたしね。

＜電車には毎日乗るのですか？＞
乗らないですよ。滅多に乗らないから、だけど、そう言う出来事が必ずあるから覚えてるだけで。
＜話したら必ずそう言うことが起こるのですか？＞
そうね、必ず起こるね。話すきっかけできるじゃない。どんなことしたってできるんだから。できないはずないんだから。
で、伝道集会があるでしょ。伝道集会があります。これは違う教会ね。さあ、皆さん大勢の人を誘いましょうと言った時に、「主よ～、私は何人誘えたらいいな～～イエス様～」ってそう言う祈りであっても、主は聞いてくださるの。そしてねえ、あの、トラクト配りに行く前に、何人の人に会いたいって、この人もこの人もこの人も知ってる人がいるじゃない、その中には。そしてそのうちへ行こうとする。してる。計画する。行く必要がないの。みんな行くまでに会わしてくれる。会わしてくれる。行かなくても。行くときももちろんあるよ。うちまで。でも行かなくてもそれまでにどっかで会っちゃったり、そう言う機会があるんですよ。
＜それでみんな来られたんですか？＞
来る。来る。教会に結びついた人も何人もいるよ。ほんっとに聖霊に満たされてやった時っていうのはそういうことなんですよ。そうじゃなければ、人っ子一人誘うことができないじゃないですか。いくら思いがあっても。本当に、あの、そういうもんだと思うんです。

2.4.3.3　名古屋での伝道

＜それってちなみにいつぐらいですか？＞
一番活躍していたのは名古屋時代。名古屋行ったのは、娘が小学校五年の時。（昭和 43 年生まれ、11 歳、1978 年）
名古屋の地に入って、もう、何にもできない。名古屋って排他的で、行っても全然受け入れられないから、とにかく祈り、祈りから入ったんですよ。来る日も来る日も来る日も祈りばっかりして、でもある時パッと開けて、それから伝道ができたの。
＜パッと開けたというのはなんですか？＞
突然。突然あの、学校を通して、役員をやってみようかなと思ったりして、小学校、で、そんなことから PTA で色々行事がありますよね。そういう中でも伝道できたし、今でも教会にちゃんと根付いているのは、なんか、パレードがあったんですよね。交通安全パレードとかなんか。その時に大勢の人がさ、ずっと行列してあるって行く。そのとこで。救われた人がいてね。それはね。すごく、すごくね、一番暗い人に目が行ったんですよ。もう本当にこの人地獄背負っているって思うような。本当にこう俯き加減で、こうで、もう、大勢の中で、とぼとぼとぼとぼ、どこへ引いていかれるかのように、歩いてる人に、パッと！パッと主は、思いが行ったんですよね。マークするんですよ。主はマークするんですよね。主はマークするんですよ。そして、パレード終わった瞬間、さあみんなお茶にしようって、あっそこは、もう、ほんっとに、二人集まればすぐ喫茶店なんですよ。名古屋は。名古屋はなんでも喫茶店なんですよ。それで大勢で喫茶店、行って、その人に、あの、話しかけたのがきっかけ。そしたら、その真っ暗闇の人がね。なんて主よ、この人に、話しかけたら、なんて話しかけたらと、喜びのことを言ってもだめだから、なんて話しかけたらと思って、ああ、本読むのはこの人好きそうだから。あの、「私ねえ。クリスチャンなんだけどねえ。私と一緒に聖書を読みましょうと言って、私のうちで、聖書を読む会をしません？」と言って、「いらっしゃいよ」と言ったのがきっかけでね。その方、救われたんですよ。それでね、イエスキリスト知って、もうその人は一週間、聖霊のバプテスマあっという間に受けて。受けて、一週間は笑いが止まんなかった人。今まで笑ったことないんですから、思うことっていうのは、死にたい、逃げたい、死にたい、逃げたいそればっっかりの、人が、もう、腹の、底から、笑って笑って笑って笑って笑って、今までの分全部笑っちゃって、本当に変えられたんですよ。
＜おいくつくらいの人なんですか？＞
私より若い。私より、いくつくらい若いかな。10 歳くらい若いかな。そうでもないか。5 歳くらいかな。若いかな。
＜20 代＞
うん。それでお姑さんのいるところに嫁いだ方なんですけれどもう本当に、その仲も悪くて、年中いびられてて、そしてさあ、二人子どもがいて、舎監屋さんだったんですけど。すん～ごく大変でねえ。お姉さん達もいっぱいいて、いびられっぱなしにいびられてた人。その人がクリスチャンになって、それでねえ。本当に生活が変わりました。180 度変わりました。そしてそのお母さんも、本当に最後は、しげちゃんっていうんですけれど、しげちゃんなくては 1 日もいられないくらいに、自分の娘じゃなくて、もう、しげちゃん、しげちゃん、しげちゃん、しげちゃんってしげちゃんなしではいられないような状態でお世話になって、お父さんもお母さんも亡くなって、今は、夫婦だけでいる人なんですけどね。本当にあれは（笑）教会に初めて言った時、E さん、教会って聖書だけ読ませてくれたらいいのにね、なんで祈りがあるんですかね。私祈りがなかったら大好きなんだけど。あの祈

りだけはもうだめだわ〜と言ってた人が今祈りの人ですからね。今祈りの人ですよ。
＜今も何十年と親交を持っているんですね＞
もうず〜っと信仰持ってて、すごいです。
だから私は、伝道しようと思って伝道したことは一回もないですね。当然私の喜びの方を紹介するだけ。向こうが聞いてくるから。
＜向こうが聞いてくる？＞
向こうが不思議に思って、なんかを聞いてくる。だから話せる。こっちからいきなり捕まえて話すわけじゃないんですよ。相手に変化があるから相手が、引きつけてくるんですよ。引き寄せられてくるんですよ。それで、なんでもいいから普通の言葉から向こうが掛けてきてそしてそれに答えてゆき、いつの間にかイエス様を紹介していて、伝わっていくっていうことだから。
＜何に気になって聞いてくるんですか？＞
喜んでることじゃないですかね。阿呆なんです。はっはっはは（笑）。
＜どんなことを言われます？＞
すごい、その笑顔はどこから出るんですか〜とかそういうことですよ。
＜知らない方とかにはどうしているんですか＞
知らない方には、どうするんだろうね。意識したことないな。どうするんだろうね。
＜なんでそういう話になっちゃうんですか？＞
なっちゃうんですよ。なっちゃいますよ。だってまず、祈りがあるんですよ。「今日もあなたを必要としている人に会わせてください」って朝祈るじゃないですか。だからそういう人に会ったら、その人なんですよ。だから話せるんですよ。それがなかったら何にもなかったら、会ってもただの人でしょ？だけど、「主よ、今日はどういう方に会わせてくださいますか」ってそういう祈りがあっての出会いだから、当然話せるんですよね。そういうことかな。
＜伝道するために外に出ていたんですか？＞
そういう意識もない。あの名古屋の時は、人と会うために人と会うために、仕事を通して、学研の仕事、学研の本を配る仕事だったら、あの、そのうちに、行けると思って、そういう仕事をして、そして、初めは動機はそういうことでね、やりましたけれど、それはあんまり役に立たないんですよ。立たないんですよ。自分でそうやって決めて、会おうとも、下心が悪いじゃないですか。ね？そうじゃないんですよ。それでも実を結ぶこともありますよもちろん。だけどね、それはね、あんまり。
＜伝道しようっていう下心？（笑）＞
それも邪魔だもの。「あなたはどなたに会わ、あなたを必要としてくださる方に会わせてくださるんですね〜↗」ってそういう思い。毎日自然にそう思う。そのために、今日の一日がそういうためにあると思っていたから。そう思ってる。
＜毎日そうでしたか？＞
毎日そう思っている。
＜意図せずに伝道になってしまうんですか？＞
意図せずに。
＜毎日毎日？＞
毎日でもないでしょうけど。心に大半を占めるくらいにねそういうことなんですね。毎日って言ったら嘘でしょうけど。
＜毎日祈るんですね＞
それは思いだからね。祈りって思いだから、そういう思いでね。目覚めた時は既にそういう思いだからね。
＜伝道を週に一回しようとか月に一回しようとかそういうのじゃないんですね＞
（笑）（笑）（笑）
そういうことはないね。ははは（笑）
うちで家庭集会しようと思うのはあるんですけど。パレードであった人をきっかけに。それは、牧師夫人も来てくれて、その働きもすごく多かったんです。だから名古屋は多くの人が救われてきたっていうのはその方の働きなんですけどね。私は場所を提供しただけなんですけどね。
＜それが伝道の場になってたんですね。きた人は聖書すぐに読めるんですか？＞
読めますよ。その人はすぐに聖書も買って読む態勢に入りましたね。
＜どれくらいの頻度でやっていたんですか？＞
週に一回。
＜どれくらい人が集まっていましたか？＞

一人、二人、三人、常時三人。常時三人であとはゲストがいましたね。
＜その三人の方はクリスチャン？＞
二人クリスチャンになりましたね。あっ三人とも洗礼は受けましたね。だけど一人は、落伍しちゃって途中からやめちゃったんですよね。洗礼はその二人一緒に受けたんですけどね。あそれからまだいたな。ちょっと遠くから来てる人でした。
＜その方達は、聖書一緒に読みましょうと言って誘った人たちですか？＞
聖書一緒に読みましょうかと誘ったのは一人だけ（交通安全パレードの時の人）です。他の人は、「一緒に賛美しましょう」とか、「イエスキリストのことをもっと知りたくないですか」とかね。もうそういう風に。
＜そのように誘って、来て、そしたら救われて、洗礼を受けた。＞
救われて、洗礼受けました。でも落伍しちゃった一人はいまだに。あの、この世のことがいっぱい。豊かで、もう、そっちが大切だったから、あの。そして片方が、同時に（洗礼を）やった一人の人が、ほら、もう飢え渇いて、求めて求めてどんどん聖霊のバプテスマ受けてりすると妬みが入ったりね。違っちゃうじゃない。同時に入った人っていうのは、そういう差ができる。そうすると来にくくなる。そういう可能性もあるよね。一人はね。だから、それを拾えなかった。越してきちゃったからね（転勤から戻ってきてしまった）。
＜きた人はもともと教会に行っていた人ですか？＞
行ってない。行ってた人は一人、四人とすると二人は教会行ってた。そのうちの教会行ってた人も。面白いんですよ。私は名古屋の他の教会で知り合った人なんですけど。そこの教会に行くと、その人が一番私の敵だったんですよね。私もなんか虫が好かなかったけれど、その人も、私のこと大っ嫌い。そして、いっつも、いっつも霊的火花を散らしてたの。ほんとに。片方がふぁっと、「アーメン！」というと片方がどうもあれだしね、凹むし、なんかねえぶつかり合いをしてたんですよ。でもあるとき主の介入でねえ。主が、そこに入ってくれてさいっこうの友達になっちゃったんですよ。もうそれはそれは本当に親友ですよ。もうあんなに嫌がってた人が一番の親友になったの。そうそうそれはその人が困る出来事があったの、そして、私に頼んできたんですよ。それを主がそのことを助けたんですよ。非常に子どもの問題に悩んだのね。そして、子どもが就職先がなくて、非常に困っていた時に。やっとあった就職先も、あの・・・なんですか、あの、なんだっけ。保証人。保証人が必要で保証人がいなかったんですよね。ご主人が亡くなってからだったのかな。保証人がいなくって、その時に、あの、教会に頼んだんですよ。それで、やってもらえなかったんですよ。それで、私のところにきたんですよ。で私は、あの、おっけー。おっけーだったんですよ。もちろん夫には内緒だよ。夫には内緒で、わたし、それ受けるって行って、その保証人になったのね。で、そういうこともあって、それからかなあ、それから非常に仲良くなってね。今でもです。今でも恩に着るってすごく忘れないよそのことは。和歌山に住んでんだけどね。その方は、本当に、はじめに火花を散らすくらいの人がいちばんの友達になれるっていう。それもすごいなあと思いますよね。主は二つのものを一つにしてくださった。ほんとにそういうことなんだなあと思わされます。で、彼女はすごく、聖書に、御言葉にはすごく、大切にし、すっごく聖書が詳しい方なんですよ。そして私はペンテコステでしょ、だから嫌いなんですよ。何にも知らないのに、喜んでるアーメンって喜んでるの許せないんですよ。わかるでしょ。

2.4.3.4 横浜へ帰ってきてからの教会放浪

＜その後帰ってきたんですか？＞
横浜に帰ってきましたね。
＜救われたのは２１でしたね。＞
1971 年だった。上のお嬢さん（1967 年生まれ）が 4 歳半。息子さんが 1 歳半。
名古屋：上のお嬢さん小学校５年。
横浜に帰ってきたのが：中学２年か１年のときかな。
＜教会は同じ教会でしたか？＞
教会はどうだったのか。教会忘れちゃった。どこへ戻ってきたんだか。
そうそうそうそう。戻ってきて。いちばん会いたくない人に会っちゃたんですよ。前に私、名古屋に行く前に看板をひっくり返されて、あなたはもうここの教会のメンバーから外されましたっていう教会のある人に道路で出会っちゃったんですよ。それがそのとき両手を広げて、ハレルヤハレルヤでなんの騒ぎかって、なんの騒ぎかとと思うほど道路で二人で、踊り狂っちゃったんですよ。はっはっはっはっは！向こうも強烈だから（笑）（笑）（笑）私も強烈（笑）（笑）
＜どういうことですか？嬉しかったんですか？＞
嬉しかったんですよ。もう忘れちゃうの、ころってお忘れちゃって、名古屋で幸せなときやってきたからさ。昔ひどい目にあったことなどコロリと忘れちゃって。
お互いに。

だけどその後で二人の間ではそうだったけど、教会に加わるとやっぱり私は受け入れられなくて、その教会に戻ることはなかったです。
東京でそれから放浪時代があったんだね。そのことと混同してるかもしれない。教会放浪時代。
I 先生が、神様不思議なことなさいます。と首ひねってました。普通はそういうことしないんですけど。
で、名古屋から帰ってきてから、色々放浪時代があって。やっぱり帰ったんですよ。あの二人で抱き合ってからその教会に。帰ってたんですよ。帰った時期があったんですよ。
＜放浪時代は長いんですか＞
長いね。あんまり喋んない方がいいかもしれない。（息子 J）の事故のことと。19 歳の時。それは確か。その後に、教会放浪時代だね。
（この後どこの教会に行ってたかわからない）
随分その代々木の教会にいたんですね。名古屋から帰ってきてから。あんなにされても。また、看板ひっくり返してもらったんだ。
＜看板の教会がその教会＞
看板の教会が代々木の教会っていうんですけど、じゃ代々木の教会に、随分長いこといたんですね。帰ってきてからね。あんな状態なのに。それが覚えないんですよ。それが時期的には混同ありました。
＜そこでは教会として伝道していたのですか＞
教会として。
＜どんな伝道ですか？＞
どんな伝道って、イエス様をお証しして、教会に連れて行ってましたよ。で、それは、でもね、あの、その連れて行った中の一人が、男性だったんですよね。そしてその人がそこにいられなくて出て行ってしまったのよね。なんでいられなかったか。。気に入らなかったんですよね。気に入らなくて自分で他を探してきて他の教会に移った。
クリスチャンになったんです。自分で他を受けてからそっちで洗礼を受けてクリスチャンになったんです。で、その代々木の教会でやってたことは、伝道よりも、もちろん人も、新しい人がどんどんきてたんですけれど、それよりも、悪霊の追い出し。悪霊の追い出しが、あの、そればっかりやってましたね。あの、そればっかりって、人が変わるわけじゃないんですけど。悪霊に憑かれてる人は一人なんですけども。その一人が、レギオンを宿してて、ものすごい人でものすごい人で大暴れして、もうその両親も命が危ない、状態なんですよ。だから、牧師がそこへ追い出しに行くにも一人で行くんですけども。こっちで祈ってなければ到底いけないような状態で、教会員全部はこに集まって、追い出しの祈りをず～～～～っとしてたんですよ。それで牧師が行ってくるまでそこで祈った。そういう教会。未だに追い出されたか追い出されないかは知らない。もうその親も亡くなっちゃっただろうし。もちろんその代々木の教会の牧師も亡くなっちゃってますからね。
＜レギオン宿すとはどういう状態ですか＞
もうそれは墓に縛り付けておくような状況ですよ。聖書に書いてあるようですよ。

2.4.3.5　　息子さんの大事故と障害の癒し、その後の旦那さんの病の癒し

そうこうしてるうちに、どっちが先だったのかな～。で J の事件もあったわけでしょ。J が交通事故にあって祈らなきゃなんない。でその時も、あの、、、きてくださらなかったんですよすぐにはね。牧師先生。すぐにきてくださらなかったんですよね。その時はもう、きてくれなくてもいい。もうイエス様がいてくだされば牧師が来てくださらなくてもいいって、この命もなくても。イエス様とるならとってもいい。もうそう思って開き直りの信仰だったから。あの、でも、三日くらいしてから（牧師が）来てくれて、そこで、祈ったんですよね。それで、それから、本当に、ぐんぐん良くなって行ったんですけどね。でも、（牧師は）はじめに、あの行きたいと思ったけど準備もなくして行ってもどうしようもないから（神様に）止められたって、そして祈りに祈って今がその時であるっつって病院にきて祈ってくれたんですよね。本当に、本当は、あの、それからですよね。あの、良くなりましたよ。もう、あの、先生は、命があればよしとするしかない。瞬きはできるようになるってそのくらいの程度で、もうあの、肺は破裂しちゃったから肺はとっちゃうけども。脳はそのまま温存して。そして、あの、自然に血やなんか、水とかなんか、吸収されて手術ができるようになったらやりましょうって、それまでは脳のことは考えないで、肺だけを、助けましょうって。こう、前葉と上と下とあるそうですよ、（片肺をとった）そしてその上の方を取っちゃったのね。で下はそのまんま残して、そして、それからぐんぐんぐんぐん良くなってきたんですよね。
＜車の事故でしたっけ＞
車の事故で。
＜瞬きしかできないと＞
本当に瞬きもできなかったし、植物人間で、機械仕掛けで全部動いてたからね。（人工呼吸器を付けていて、意識

はない状態だった。）
＜意識はあったのですか？＞
意識はないよ。機械仕掛けで動いてたから。
脳はひどい脳挫傷だし、脳梁が切れちゃってて、こう繋がんないんですよね。こうなんない。こうだし。全然、記憶もなんにもない。ないって言われてたのに、そして、祈ってもらったでしょ。したら、文字を書いたんですよ～。文字。＜意識戻ったんですか＞
戻ったんですよ。三日目に先生が祈ってくださって。それは、教会の宝だし、勝手な真似するなって言われてたか言われてないか。先生は言ったっていうんだけど。私はあの、証しちゃったんですよ。
＜その段階でしてしまったのですか＞
それから歩けるようになってからだから、三ヶ月は経ってるよ。三ヶ月入院してたんだから。三ヶ月入院して退院する何日か前だもの。歩けるようになったの。
＜脳の手術はしたんですか？＞
しません。脳手術しないんです。脳挫傷で、何にもわからなかった人が文字を書くようになって、はじめはこん～な文字（(指先でほとんど見えないような大きさを示して)）です。こん～な小さな文字。で、そのうちおお～きく書くようになって。((手をゆっくりぐるりと回す仕草)）おお～きく書くようになって。書いてるうちに、ここまでくる。こんなんなっちゃうのね。((大きな文字を手で示し、徐々に、指で小さく見えないくらいの文字の大きさを示す)）続かないんですよ。これが。それが書けるようになったんですよ。そして言葉も話せるようになってきて。私の姉が前に来た時ね。その時はまだ、文字書けたのかな、書けないのかな。「とにかく生きてください。J が、たい～せつな J なんだから。J が命がなくなったら大変なんだから。生きててください～！（(力強い口調で)）そしたら J が好きなものなんっ～でもあげるからね。」っつって。「なんっ～でもあげるからね。」って。そしたら、J が言ったんですよ。言ったんですよ。なんて言ったと思う？違うの。土地。（皆笑）
土地。土地。「へ？」「なに？」
＜冗談が言えるくらいにまで意識がはっきりしたんですね。＞
だって初めから冗談から入ったんだもの。言ったことが。あのねえ。あの、姉のこと。これは冗談。冗談でないけどねえ。あの、文字書けるようになってからだよ。「おうま。」「おうま。」って言うんですよ。「うまさん」って言ってたんだよ。あだ名で（J さんの姉のこと)。うまっていうんですよ。「うま。」「うま。」「きれいだね。」ってそんなこと。文字の書き始め。(笑)「うま」「きれいだね」って。
＜書いたんですか＞
書いたの。どっかにあると思う。
＜それでおばさまが来て。＞
本当に土地くれたんですよ。姉じゃないですよ。イエス様くれたの。
＜何があったんですか？＞
何があったって、本当に土地をくれたんですよ。ほんとに土地をくれたんです。それはねえ。すぐではなかったんですけど。退院して・・・その期間が私あんまりあれなんだけど。(はっきりどれくらい経ったか覚えていない)みんなが動ける状態になった時に、あの、どっか。ここのうちも狭くなったから、どっかマンションでも見に行くかっつってマンションを見に行ったんですよ。家族で。そしてそのマンションの、見せてもらったマンションからちょっとベランダに出て外を見たら、今の土地（今 E さんが住んでいる）があったんですよ。土地があったんですよ。そして、更地だったんですよ。で、どこも売れて、5 件あったんだけどどこも売れてないのね。でねえあの、ああ、どうせ買えないんだけど。土地もいいよねって。その時に、J が土地って書いたなんて誰も覚えてないよ。だ～れも覚えてないよ。だけど、土地もいいよねって、そして見に行ったら、なんと土地が、〇千〇百何万で（高額だが金額は伏せる)、買えないそんなの。絶対買えないじゃないですか。もうぜっっったい買えないわけじゃない。そしたら。そしたら。買えちゃったんですよ。ぴったりのお金で。保険金で。
＜J さんの＞
J の。J の。J の保険金は、任意保険は、私が、事故になる数ヶ月前に解約したんですよ。掛け金も大変だったのもあるんだけど。信仰しててね。保険なんて、、、あの、あれだわ。そんな心配絶対ないんだわ。保険なんてかけてんのは不信仰だって言って、やめましょやめましょっつってやめたんですよ。そしたら、何ヶ月後。それだったんですけど。その、あれは、相手からの、賠償金がちょうど土地の額だったの。何円も狂わないと思う。
＜土地が来たんですね。J さんに。＞
J に来たんですよ。だから書かせたのは J じゃないんですよ。主ですね。
＜それでそのお金が入った時にわかったんですか。この土地のことだと。＞
私わかった。
＜J さんは？＞

J はね。自分で土地って言ったのわかってるみたい。わかってる。だけど、保険金で買った（賠償金）ってことがわかんない。言ってもわかんない。これがダメなんだよね。すぐ忘れちゃう。
＜事故の時の記憶はどうなったんですか？記憶はなくなっちゃったんですよね。＞
記憶なくなっちゃったの。何にもわかんなくなっちゃったの。だから訓練ですよ。あの、何訓練士っていうんだっけ。いるんだよね。あの記憶を取り戻す訓練士が。その、訓練をしてて、どんどんどんどんどんどんどんどんわかるようになっちゃって、昔よりわかってるの。いや、わかってるんだよ昔の。一時、ぜん〜ぶ忘れてたことがあの人に聞くとなんでもわかるっていうくらいわかる部門があるの。全部じゃないよ。そのくらい回復するの。なんの話だったか。
＜証の話でしたね。証をしちゃって教会の看板をひっくり返された。証をした理由は？＞
それは、旅行をしたんですよ。治ってから。退院してから。ほら、うちで色々リハビリさせなきゃなんないじゃない。その一環としてどっか行くのもいいかなって言った時に、あの、私は、あの神戸の、いつもお世話んなってた T 牧師って、もうその先生が大好きなもんだから。もう何につけ、T 牧師は離れないんですよね。どうせ行くならその教会に行きたいって（笑）、そういうところ（笑）。また私の悪い癖（笑）。そういうところへ（笑）連れて行ったの。パパも一緒。パパはその T 牧師からは、肝臓で B 型肝炎で、もう腹水がこんなに溜まって、今日か明日の命だっていう時に、T 牧師がちょうど、名古屋にいた時だから、そこを、通ったんですよ。通ったんですって。でその時に。あの私のこと、（誰か気にする目線）っと思って、すっごい後ろ髪が引かれるような思いだったんだけど。「姉妹何かありましたか〜」つって電話かかってきて、こうこうこうだっつってて、「それは行きます」っつって来てくれて、祈って、そして復帰したんですよ。パパが急に！治ったんですよ！。
＜急に治った？＞
急に治った。急に腹水がなくなって、その、急に！
＜急に！＞
急に！
＜急に！＞
ほんとですよ。急に。治ったんですよ。
＜電話して＞
電話して、来たじゃないですか。来て。もうこうやってねえ。こうやってまたがってね。あの、「ご主人。もう私はこの命あなたにあげます。」って「だけど、私の祈りが終わるまでは身動きしないでください。」って、「今日は、私の祈りが先で、その後。どうぞ。やりたい放題やってください。」って。しがみついたら、拳振り上げて、その牧師に、パパが、「お前かぁ！うちの女房を狂わせたのは！」って（笑）（笑）
＜病室で？＞
病室じゃないよ、普通の時に。普通の教会生活してる時に、その T 牧師に、やったことがある。だから、「今日は、あなたに命をあげますけども、私の祈りが終わってからにしてください」つって、こうやって祈って。
＜一回やられたことがあるから、今日もやられるかもしれないと＞
今日やられるかもしれない。「命もあげますから」つって、祈ったんですよ。そしたら、（笑）やりませんでしたけれど（笑）。だから（笑）。そういう感謝もあるから T 牧師にはパパも会いたいのよね（笑）（笑）あの危ないとこ、癒されてますからね。すごいですからね。あの B 型肝炎のあの腹水が溜まった状態っていうのは、あの大変です、みんな呼んでくださいって言われますから。急性です。桁違いのあの数値が。すごいんですね。万の位が出るんだよね。でその癒された人だから、言って、私が勧めたんじゃなくて、パパ自らが証したの。私したんじゃないんです。
＜なぜ代々木に知られちゃったのですか？＞
私が言ったんじゃない（笑）

2.4.3.6 代々木の教会について

その先生は癒しと、ミニストリーね。いろんな人きて、祈って、アドバイスしてたね。
＜それが代々木でやっていた伝道ですね。外で話すのではなく、中で。＞
中で。
＜信徒がそれぞれ友達とか、出会った人を連れてきて、先生と話して、＞
そうね。
＜力があった先生なんですね。＞
癒しはね。癒しはとっても力がありました。
＜どんな？＞
なんでも癒せないものはないって感じ。
＜J さんの他にも？＞

他にも。
＜すごい先生に会っているんですね。＞
私はすごい先生にばっかり会ってる。
＜結構バンバン人が救われていった感じですか？＞
あの、そこで救われてたのは私が辞めてからだね。私がいるときは、私のうちで、家庭集会やってて、それが教会になって、先生も家庭集会やってて先生のとこに集ってきた人とちょうど半々で、持ち寄りじゃない（笑）それで一緒になってやったんだから。教会になったの。私はそこへ連れていったのは、家庭集会に来てないで連れていったのは、一人だけ。二人だけど、一人はお母さんだから、お母さんとお嬢さんと二人をお連れしただけで他はいないね。さっきの辞めてしまった男の人だけで。後新しい人は、（笑）そうそうそうそうまだいる（笑）
＜放浪時代は他の教会にも行っていたんですよね？＞
放浪してしまう友人が心配で一緒に色々な教会に行った～この時期にはあまり伝道していない。教会での証。
名古屋から帰ってきた頃だね。電車の中でもよくやってたのはね。名古屋の名残があったんだよね。それと救われた間際の頃はも～～～やらずにはいられなかったけど、だんだん落ち着いてきちゃって放浪するようになってからはそんなには、あの、行った集会集会では証はよくやっていたけど、外に行って伝道するってことはあまりありませんね。

2.4.3.7　　病院での伝道

＜病院の中で伝道されてたと以前伺いましたが、それはいつのことですか？＞
病院の中はやっぱり名古屋時代ですね。誰かが入院すると、もうチャンスなんですよね。そこが場になってね
＜何をするんですか？＞
だって、だって、言わずにはいられないじゃない。病気の人のとこ、まず、あれですもん。パパがいるじゃないですか。普段は嫌がるのに、自分が入院してるときは（指を向こう側にさして指図する）行ってやれって言うんですよ。そうすっと、公に行って祈ることができる。（入院している部屋の他の人に）仲間。「祈ってやれ」とは言わない。「行ってやれ。」って。言うんですよ。そうすると祈るじゃない。すると相手が変わるわよね。
＜どんなふうに？＞
どんなふうに。すっごく変わりますよね。いろんな人がいるから。いろんな人がいるからあれだけど。一番。一番。驚いたのは。明日退院しますって言う人がいて、その人は前から何回も祈ってた人なんですけれど、明日退院しますって言う人がいて、「あ、そう～」って言ってる矢先、その人がお手洗い行ったらお手洗いでその人が倒れちゃったんですよ。そして、それから、眠りっきり。眠りっきり。何日眠ってたんでしょ。そして、その人隔離されちゃったんですよ隣の部屋に。そで、こう～（(覗く仕草)）見にいくんですけど、いつも寝てるんですよ。でもその、あるとき、ある日に、あのね。やっぱり寝てるんですよ。（笑）（笑）（笑）誰もいないから（笑）若い男なんだよ（笑）若い男なのに、（笑）（笑）（笑）こうやってまたがって、（笑）私あの聖書もよく知らないから、（笑）「主イエスの御名によって、起きよ！」「タリタ・クミ！」*1 って男なのに（笑）（笑）（笑）起きた！（笑）（笑）はっはっはっはっは！（笑）そんなでも・・・起きたんですよ！起きた。パチッ！！！
＜びっくり！＞
起きろっつったって、目の前で起きたらびっくりしますよ～。すっごいびっくりしますよ。そして看護婦さん呼んじゃった。
＜タリタ・クミ（笑）＞
タリタ・クミっつっちゃったんですわ。であらあらと思ったんだけど、そのことしか頭ん中になかったし、あの本当に覚めるんだと思って疑わないわけですから。
＜で、その後治ったんですか？＞
治った。
＜何で寝ちゃったんですか？＞
知りません。
＜どのくらい寝てたんですか？＞
いやあ何日も寝てたと思いますねえ。何日でしょう。一週間までなったかならないか、ならないかもしれないよね。
喜んでたの。明日退院しますって。若い男よ。何才くらい。だってまだ独身だもの。20 代です。
＜E さんおいくつくらい？＞
私まだ名古屋時代だったから若かったんじゃないですか。
＜30 代くらい？＞
30 代だね。
すごいよね～。なんてすごい主のね。すごいよね～。

それから同じ部屋で変わった人はね、50 過ぎ、もっとかな 60 くらいの人かな、すごく始めは反発してた人がね、こう、話していくでしょ、そうするとどんどんどんどん心開いていくんだよね。そうすと、自分の過去のことを話してくる。そうすと、実はその人信仰者だった。で、信仰復活した人とかいましたよね。

＜信仰戻って＞

戻って。ずっと戻ったかは知らない。私のいるときはね。主の御名を崇めました。一緒にね。

そんなことかな。

名古屋は、病院で多かったね、そう言うのがね。

2.4.3.8　伝道への思い

＜こちらに帰ってきてからは、どういう伝道してましたか？＞

行き当たりばったりで出会った人よね。霊に感じた人ですよね。何もなければ言わないし。〇〇さんだって、この人ほっておけないって思うから、話しかけて、手助け、手助けじゃない、手出ししたくなっちゃう。（笑）ちょっかい出したくなっちゃう。と思うだけで、そう言うことね。

＜霊に感じた人でも反発とかあるんですか？＞

あります。あります。ある。一人あるんですよね。あの、（仕事場）のお客さんですけど、ある時ガンだってなんかね、病院に行ったらね、おかしいんだよ。ガンとかなんとか、言ったんですよ。それから、ひゅっと隙をみて、「私クリスチャンだから、祈ります」っつってそう言ったら、すっごく怒ったの。で、それからねえ。けんもほろろで。近づかなくなったんですよ。でもその人がそれからですねえ。私に色々なものをプレゼントするようになったのね。ず～っとず～っとず～っと、未だにプレゼントしてきますよね。あの、で、今はね、口に出して言わないんですよ、でもいつもその人のために祈るんですよ。いつの日か、イエス様を信じるように、主の救いに預かれるようにと祈っていると通じるんですよ。来るとこうやって（(大きく手を上に上げて振る)）遠くから手～振ったり、あの～するんですよ。だから。やっぱりさ。嫌がってる人には、そのまんま面と向かって言わなくても、こっちで祈る祈りは通じている。でまた時が来たら、それが救いに導かれるんだなって。必ずこの人イエス様を信じるようになれつってね。レジの時も命令する。〇〇さんって言うおじさんですけどね。今いい顔してるんだ。前みたいに反発はしない。そう言う人もいる。

＜霊に感じた時だけ話すんですね＞

感じたときは話しちゃってるね。感じないときは、話してるかどうか、話しても忘れちゃてるんだろうね。話してもここに止まらないから、忘れちゃってるんだと思う。

自分で燃えてなかったら何にもできないよ。ああイエス様助けてください。フフフフフ笑

＜いつも伝道したいという思いはあるんですね＞

あります。

＜伝道したい気持ちはどこから？＞

だって、喜びがあれば、とどめとくのが、苦しいよ。共に喜びたいじゃない（(嬉しそうに)）だったらそのままスワァ～っと出てしまう（笑）

＜何を伝えたいですか？＞

その時その人の状況によって伝えるものって違うと思う。おんなじこと。いつもおんなじこと言ってるわけではないね。まあ本当に思ってるのは、十字架の救いを話すわけなんだけど。でも話し方は、千差万別かな。

＜その人の状況に合わせて＞

そうだね。

＜一番伝えたいのはイエス様の十字架＞

そうですよねえ。イエス様が十字架にかかってくださらなかったら、救われることなんてぜっっったいありえないでしょ。罪のない方の流した血だから絶対に救われる。そして本当にイエス様が十字架にかかり、死んだ時に、全ての病が癒された！って（(強く)）過去形だし、もうそれはもう動かせない事実。それをもう信仰によって持ってきくる。それだけ。それはしたいよね。（(興奮気味に)）それだけだよね。

＜それは常に思っている＞

思っているし、焼き付いているからね。

＜救われてない人がいるからと言うこと？滅びてしまうから。いつも伝えなくてはいけないと言う自分の使命のように思っている？＞

そうも、そう、そこまでも思ってないのかもしれない。私そこまでも思ってない。で滅びてしまうからとも思ってないのかもしれない。とにかく、持ってる喜びを伝えちゃってると言うそれだけ。

＜その時に御言葉とかは？＞

私あんまり知ってないんだけどその時必要なことは出てくるんですよね。

＜伝道に関しても御言葉が書いてあるから？＞

書いてあったの読んだってあんまり力がないかもしれない。そんなの高慢かもしれない。それすらもね。イエス様が書いたのこれ読みなさいっつったら読んだらいいじゃいですか。
＜もう嬉しいから伝えてしまうと＞
ハハハハハハハハハハ（笑）
＜伝えた後は嬉しいですか？＞
ほっとしちゃうね。（笑）（笑）（笑）心配になることもあるし、重荷になっちゃうこともあるけれど、それはねえ、成長の糧であり。そのためにはねえ。ほんっとうに必要があればね、もう聖霊が降ってくるんですよ。降ってく！上から！こう中にいらっしゃるでしょう？けど、伝道のためにはね、もう、プレソー？ですか？ず〜っと上から油かピタ〜〜〜〜〜っと注がれるの。そしてどんな危険なとこへ行っても安全なんです。（（興奮気味に））出ないと行けないような場所に私行くから。

2.4.3.9　危険な伝道

＜どんなところに行くんですか？＞
だって〜もう、普通行っちゃいけないようなところに私行くじゃないですか？
いっぱいいますよそれは、あんな（笑）
それは危険トップワンはね。SS という人ですけどね。SS。名前出しちゃった。もうこの人は天国に行ってますからね↗。もう〜SS さんはすごく危険でした。アル中なんです。アル中。アルコールの凄さ。もう〜あれは悪霊ですよ。あれは、酒を飲ましてしまう。それを助けるには命がけですね。命がけ。命がけですよ。私はそのほかの牧師。SS さんが集っている教会の牧師に止められましたよ。「私が代わりますからあなたはもうこっちで見ててください。」って最後。その牧師が十字架を負ってくれたの私に代わって。ほんっとに、忘れられないですあれは。
＜自宅に行ったんですか？＞
もちろん自宅に、7 年間ですよ！7 年間！家族ぐるみですよ。7 年間みたんですよ。その SS さんを。SS さん一人暮らしですもん。うちもうち（E さんが SS さんの家を借りた）で借りてやったんですもん。SS さんの住むうちも我が家で借りて、SS さんが入院するって行っても病院が受け入れないの。アル中だから。だけど私が付き添いであれば受け入れオーケーで、私が付き添ってねえ。保証人だったら名前だけですよ。そうじゃないですよ。身柄もですよ。見てないと暴れるから。そこの病床にね付いてるんですよ。毎日、家政婦さんがいっぱいいるんですよ。バカにされますよ私は。私何者よ。本当にろくなこと言われませんよ。それにも耐えなきゃなんないんですよ。
＜家政婦？＞
家政婦さんたち。いっぱいいるじゃないですか。病院に住み込みでいるんですよ。
そんな人にね。「あんたこの人の何？」っていう目で見られる。だけど何を恐れましょうか。何にも怖くないそんなのなんて何にも怖くない。そういう世話をしました。そして最終的に。アル中がいよいよひどくなった時に。またねえお酒を始まったんですね。お酒始まると、タクシーを頼むの。で、タクシーにお金渡して、タクシーにお金を渡して、何本買ってこいとか。それで、お前に小遣い 1 万円あげるからとか言って、渡してそうすっと中には買ってきちゃうタクシーがいるんですよ。乗らないでそれだけ買ってくるだけで、お金になるじゃない、そしてそれどんどん飲んじゃうじゃない。で、その場に私が行ったわけ。で、こうなら並んでる。で、これ飲まれたらこの人命がないっつってその、あの、お酒の瓶を二本持って、二本持って、敵に、背中を見せたらいけないって、言われてんのに、逃げたんですよ。逃げたらぜっっっっったい駄目なのに。向かっていかなきゃいけないのに。逃げたんですよ。そしたら階段 2 階外階段で鉄の階段なのね。そこから、足滑らして、上から下まで、バチャバチャバチャバチャーーーーっと、焼酎じゃないお酒の瓶割れながら私おっこちゃったの。そして、バタ〜〜んとおっこって。
＜追いかけてこられたのですか？＞追いかけてきても、足がほんじゃもんじゃ、あの、だから、階段は降りてこれないから、ドアまで来たんですよ。ドアまで来た時に、ああこう階段降り始まっちゃんだ。ば〜んと。それで、私の足、こう付いた時に。もう本当にねえ、もう、こうグニャ〜っとこんなっちゃって（（肘が反対に折れる様子で膝の状態を表現））、こんなん、こんなんなっちゃって、こっちの右端が、（おそらく右膝）こんな、変なつき方したの。なっちゃって、「イエスの御名によって正常に治れー！！！」っつっ t◯×じゃー△ンっとやったんだよ。そしたら真っ直ぐになったんだよ。ほんっとだよ。真っ直ぐになっ。歩けたの〜〜〜。やったんだよ。それで、それで〜目の前大家さんだから。「大家さ〜〜ん！教会に電話して〜〜〜！」って、「ええ？教会？な゛ん？教会？？」「K 教会だよ！！！」って「K 教会電話して〜」っつって。そしたら掛けてくれて、牧師が飛んできて。それで私は大家さんのうちに寝せられて。それでそれから、牧師が泊まって。落ち着くまで泊まって。それから、もう「私が見ますから」っつってね。私がしょっちゅういかなくていいようになって。それから何回か行ったと思いますけども。ずっと今までのようにはいかないことになってね。そんなこともある。そういうのが危ないっ

ていうのよ。危ないでしょ。
もっと危ない人もいるよ。
＜もっと危ない！？トップワンじゃ？＞
トップツー。トップツーもあるよ。頻繁的にこっちが一番。
これまた素晴らしかった〜救いが素晴らしかった〜。どこであったのか忘れちゃったのよ。横浜。鶴見。親子 4 人の家族なんですけど。私の家庭集会に連れてきたの。どこであったんだろうね〜。それでその奥さんは、救われて、救われて。自分でもイエス様を伝えたりするようになったんだけど、その旦那は凶暴で、あの、子どもにも、何？今の、あのニュースになってる。
＜虐待＞
虐待したり。奥さんにも。
＜DV ですか＞
DV。そうそうそういうところに。そこへ伝道に行ったんですよ。旦那に話しに。で、1 人でいけないから、ピカイチの伝道師を連れて行ったんですよ。へっへっへっへへへ（笑）ピカイチの伝道師がもう、どうにも、なんの役にもしないの〜。玄関に行っただけで、うんもすんも、言葉も出ないの唖然としちゃって、あまりのすごさに。うちのすごさ。その凶暴性を持った旦那の様子のすごさ。ほんとは優しい人なんだよ。だけど見るからに、恐ろしくてさ。も、硬直しちゃって。硬直しちゃって。
＜家のすごさっていうのは？＞
言ってもわかんないでしょ。屋根は星が見えます。
＜屋根がないんですか？＞
まあね。雨ザーザーですよ。うちん中で傘さすんですよ。それで、下までなんで、二階があるのに、なんでしてるかっていうと、2 階が・・・・2 階が床抜けてんですよぉ〜。
＜バラック小屋みたいなところですか？＞
ううん。ちゃんとしたうちなんですけど。古くなって崩れて・・・ほで一回の床はこんなんなって、斜めんなって・・・・床がないのよ。それで橋渡してその上に・・・テーブル・・テーブルがあって、こう座るんだけど座れったってどこに座るのって・・縁の下に座るようになっちゃうじゃないですか。そんなよ。そんなところ。それが鶴見。私何回も行きましたよそこへ。
＜ここ２、３０年？＞
そう。そんな生活してる人いるのよ。20 年くらい。
＜それでピカイチの伝道師さんも硬直して＞
硬直して、何にも喋んないで帰りましたよ。私喋って。だってしょうがないじゃない。私喋りました。私怖くないんだもん。もう、ドームに入ってんですよ。聖霊のま〇×△に入るんですよだから手出しできないの。ブワァッとブワァッとね。入るんですよ。だから手出しできないの。誰も。もなんでもないんですよ。
＜このトップツーの方は救われたんですか？＞
奥さんはね。旦那はそのまんま。子どもは救われたと思います。男の子は、洗礼まではいかなかったけどイエス様のことは伝えて、かなりまともになって、働いていた。で奥さんは、グルプホームに入ったの。でグループホームのリーダーで、みんなに、みんなの役に立ってましたよ。で私も呼ばれて何回か行ってましたけど。「この人はね。普通の人じゃないの。イエス様だからね。イエス様の人だからね。みんなイエス様のこと聞くんだよ。」って仲間、4 人、4 人いるんですよ、そしてリーダーの人 1 人で 5 人いるんです。そしてその人たち座らして、イエス様の話してっつってね。（笑）イエス様が救い主であることをね。話したことある。
＜どこで出会ったんでしょう。＞
横浜駅かどこかだと思うよ。どっかでどっかでですよ。でそれからその人横浜駅に仲間がいて、その仲間にイエス様を、あの、今日イエス様のおばさんを連れてくるって約束したから、一緒に来てちょうだいっつってね。あの、横浜駅の、階段にいる乞食さんのところに、あの連れて行かれたこともありました。
＜奥さんの方に？＞
奥さんの方に。お伴して。そしたらそれからきたな〜い髪の毛きたな〜いかっこ、きたな〜いかっこしている人が、話したら、すばら、すごく、すごく、繊細な方で、素敵な方で、なんでもできる方だったの。で、イエス様の話もよくわかる人だった。それで受け入れたかどうか、そのまんまになっちゃったんですけどね。乞食はやってるけど、かなり、教育も受けてる人でした。でもそんなんなっちゃうんですね。
奥さんは、暴力がひどいから隔離されて。子どもは子どもで匿われてたんですね。
＜奥さんが横浜駅のその人たちとどうして知り合いだったのですか？＞
だってうちにいられないでしょ。そんなとこにいられないじゃない。だから、あの、そういうところで、時間すごしてたんじゃないですか。

＜若い方なんですか？＞
若い方ですよ。私よりずっと若い。
＜トップスリーは？＞
私がなぜその男性女性関わらず、できたかっていうと、本当に主の恵みなんですよ。本当に自信を持って大丈夫と思えるようにされたからできるんですよ。誰も彼もこんなことはできません。できないと思います。絶対できないと思います。だけど私はそれができた。これは恵みです。
＜危険を冒してまで＞
危険というのは、人間的に考えて危険なのであって、そういう時にこそ主の守りを。間近に感じられる。感じるじゃない知ることができる。本当に賛美することができますよ。
＜行こうと思うのは＞
それは、初めから思わないんだよ。やっぱり内側に語りかけを聞くから、それに応えてるだけのこと。なんで私は、さっき言ったその、SS さん。酔っ払いの SS の世話を、世話をじゃない関わろうとするかって言ったら、こう言ったんですよ。その、あれが、すごく困るのを目の当たりに見た時に、私はイエス様に「イエス様、しかるべき器がここにいたならばあなたは助けられますよね。あの人を。どうぞ見させてください。その人を遣わして」って言ったら、「お前がやれ」って、命令を受けちゃったんですよ。だからやったんですよ。それがはっきりときたからやった。こなかったら誰もやりませんよそんなもの。手出ししませんよ。だから、いつでもそういうのがあるから出て行く。勝手に出て行ったらもう恥かくだけ。
＜SS さんとの出会いは＞
病院の女中をやっていて、そこに出入りしていたタクシードライバーで、素敵な方だと思ったが、時々お酒を飲んでしまうとどうにもならなくなる。それを偶然目撃した。
あとで、聞くことによると、私の前に SS さんに伝道した人がいたんですよ。その人と出会わせてもらったんですよ。その人はその病院に勤めていたお医者さんで、病院中伝道してた先生なんです。で私行った時はもうその病院を辞めていて、で、私は SS さんと知り合ってからその先生に出会わせていただいて色々話するんですよね、するんだけど。病院の患者さんや看護師さんたちから、あの、「な～んか、あなたってあの先生そっくりよね。」「やることみんなあの先生もそんなこと言ってたね」ってそしたらその先生と話したら、やっぱりそこの病院で伝道してたってその話を聞きました。だからすでに種まかれたんだよね。
＜日本で伝道がなぜできないかを聞くのはナンセンスだと思いました。＞
もう聖霊の満たしにかかってると思います。それ以外何にもない。それ以外ない。神様がどんなふうに思っていたくださるか。何をなさりたいかにかかってる。仕えるか使えないか。邪魔してるかしていないか。私だけについていえばそうかもしれない。邪魔してるかしていないか。

2.4.4 使われた言語に関する解説

1*「タリタ・クミ」・・・マルコによる福音書 5:41「そして子供の手を取って、『タリタ・クミ』と言われた。それは、『少女よ、さあ、起きなさい』という意味である。」イエスが死んだ少女を蘇らせた場面での言葉である。E 氏は少女ではなく男性に対してこの言葉を使ってしまったので笑っていたのである。

2.4.5 考察

2.4.5.1 E 氏が考える伝道への障壁

E 氏は伝道の難しさについて言及することはあまりなく、日本で伝道は難しいというドミナントストーリーを持ち合わせていないと考えられる。E 氏は伝道は聖霊の満たしにかかっていると言っていたように、神と自分との間の関係性が伝道が進むか進まないかに関わっていると考えている。自分の思いが神の思いと一致している場合には伝道ができ、一致していない場合は自分が邪魔をしているので進まないと考えている。マルコによる福音書 3 章 11 節には、「そして、人々があなた方を連れて行って引きわたすとき、何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなた方自身ではなくて、聖霊である。」と書かれている。この箇所はクリスチャンが伝道を語る際にしばしば引用されることがあるが、自分がどのように伝道しようかと考えるのではなく、聖霊が語らせるから伝道ができるのであるという解釈である。また、ヨハネ 8 章 25 節から 28 節には、「『あなたがたについて、わたしの言うべきこと、さばくべきことが、たくさんある。しかし、わたしをつかわされたかたは真実なかたである。わたしは、そのかたから聞いたままを世にむかって語るのである』。彼らは、イエスが父について話しておられたことを悟らなかった。そこでイエスは言われた、『あなたがたが人の子を上げてしまった後はじめて、わたしがそういう者であること、また、わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったままを話していたことが、わかってくるであろう。』」とある。これは、イエスの発言であるが父は、神を示している。つまり、イエス自身も自分で語ることをせず、父なる神から聞くままを語っていたということである。E 氏の「邪魔をしているかしていないか」という発言からは、自分から語ることをよしと

せず、父なる神の思いを実現していたイエスと同じように行動することを目指していると考えられる。また、E氏は、伝道をしようと思ってしていないと語っており、伝道をしようという思いを「下心が悪い」とまで言っている。

しかしながら、E氏は伝道が簡単であるとは決して言っていない。家族への伝道で反発にあい、伝道対象の人に関わることを他人に馬鹿にされることに耐え、伝道対象からの反発に耐え、危険な場所に足を運んでいる。しかし、それを伝道への障壁として結びつける発言はなかった。

2.4.5.2　E氏の伝道へのモチベーションへの考察

E氏の伝道のモチベーションは①自身が信仰生活で経験した喜び②病の癒し③神のことばであると考える。①について、E氏は伝道を義務とは考えていないし、聖書から特定の御言葉を引用して伝道の使命があるとは考えていなかった。義務や使命を否定し、「喜びがあるから伝えてしまっている」と話している。自分の思いのみで、伝道しに行くことは役に立たないことだと否定的に評価している。「あなたを必要としている人に会わせてください」と祈ると、向こうからやって来ると話している。「行き当たりばったり」と表現しているように、伝道はE氏にとって生活の一部であり、特定の活動ではない。E 氏は自身の救いの経験を「暗闇から光」と表現していて、礼拝と、普段の生活の喜びの落差を強調していた。「喜びがあれば、留めておくのは苦しい。」「伝えた後はほっとする。」ということからも、自分の経験してきた喜びを気づけば伝えてしまっているのであり、伝道のモチベーションという概念は必要ないのかもしれない。

②について、伝道の際には、「イエス様が十字架にかかってくださらなかったら、救われることなんて絶対ありえない。罪のない方の流した血だから絶対に救われる。そして本当にイエス様が十字架にかかり、死んだ時に、全ての病が癒された」そのことを伝えたいと強く話していた。E 氏の経験の特徴的なところは、病の癒しである。自分と自分の家族の病や怪我の癒し、病院での癒しなど劇的な経験をしている。病院や、アルコール中毒患者の元へも足を運んでいるのは、伝道のためというよりは、癒しへの大きな期待であると考えられる。その期待がモチベーションになっていると考えられる。癒された個人的な経験は結果信仰へと繋がる。イエスや使徒たちのもとには、多くの病人が集まってきて癒しを求め、癒されたものが信仰をもったことが聖書に書かれている。E氏の経験と伝道はまさに聖書のストーリーと重なるものである。

③について、危険を冒してまで伝道に行くことに対して、E氏は「始めから行こうとは思わない」と話していた。自分以外の誰かがその人のもとに遣わされることを祈っていたら、「お前が行け」と神に言われてしまったから行ったのである。「いつでもそういうのがある。勝手に出て行ったら恥をかくだけ」と話しているように、いつでも、自分でではなく、神の思いを実現するために行っていることがわかる。また、危険を犯すことについては、DVがある家庭への訪問では、「ピカイチの伝道者」が恐れて語れなかったことに対して、自分が代わりに伝道をしたと話し、恐れを乗り越えていたことがうかがえる。また、「恵みによって本当に自信を持って大丈夫と思えるようにされる」から行けると語っているように、恐れを乗り越えることも自分の力ではないと捉えている。神から行くように語られ、さらに恵みによって与えられる自信によって危険な場所に行くモチベーションができているのである。

2.5　伝道者D氏のグループの伝道の参与観察

2.5.1 時期と場所

第一回：2019年12月28日新宿アルタ前午後5時から6時

第二回：2020年1月7日原宿神宮橋前午後4時から5時

2.5.2 第一回

新宿アルタ前の交差点で、聖書の言葉が書かれた看板をもつSさんと共に、立ち、トラクトを配った。

年末で絶え間なく大勢の人が行き来していた。普段看板をもっている人は話すことが少ないようで、私が看板を持つSさんと話すのを珍しそうに見ている人が多かった。無関心で通り過ぎられると思っていたが、通行人と目が合うことが多かった。話しかけてくる人は、道を聞きにきた外国人であった。トラクトはやはり断られてしまうことが多い。しかし、中国系の観光客は興味を示してくれることもあった。隣では、エホバの証人が伝道活動を行なっていたが、教理に明確な違いはあるが、特に干渉し合うことはなかった。

2.5.3 第二回

年始の原宿で若者と観光客であふれる場所で、共に看板を持たせてもらった。看板を持つことはかなり重労働である。風を受けて倒れないように支え、極寒の中で何時間も立っているのである。(私は1時間であったが)。よそ見をするとすぐに看板が曲がってしまうので何度か注意された。看板をもって立っている場合は人々は無関心で通り過ぎていくと思ったが、かなり関心を向けられた。若者の中には、明治神宮前で神社と対立構造の中でキリスト教の看板をもっていることについて通り過ぎる際に友達と話している人もいた。立っていると、シカゴからきたというアメリカ人家族が話しかけてきた。彼らは、日本でキリスト教が伝道活動をしているということに驚いたと話していた。伝道を大々的にすることが許されていると知らなかったそうである。彼らは家族でクリスチャンだそうで、伝道活動を

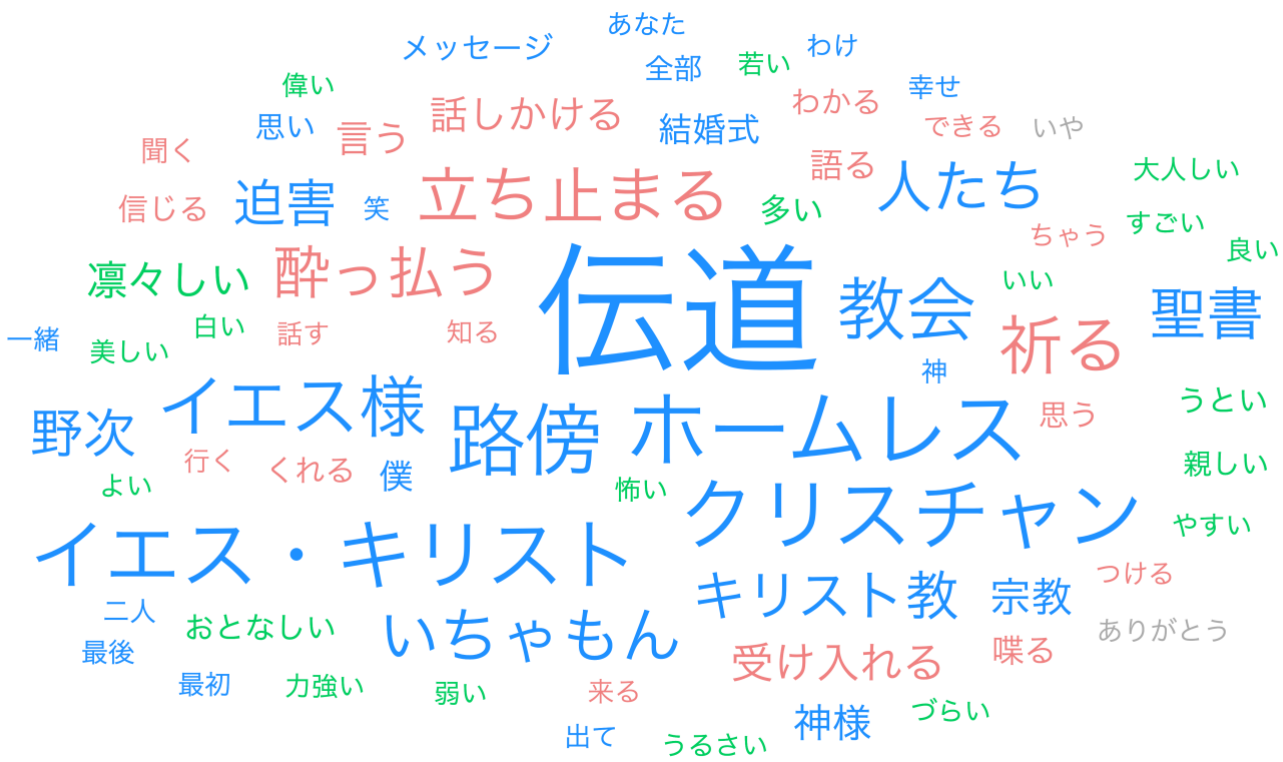
ポジティブに評価していた。やはり話しかけてくるのは、外国人であり、日本人が声をかけてくることはなかった。また、クリスチャンであったため話しかけることができたのであり、外国人であっても、ただキリスト教であるということで興味をもって話しかけてくることは少ないのだろうと感じた。活動の終わりに、隣で募金のボランティアをしていた 24 歳の男性に、S さんと共に話しかけてみたところ嫌悪感などを見せず、話を聞いていた。看板をもっていることだけでは、話す機会はないが、こちらから話しかけた場合、会話が発生する場合もあるのかもしれない。看板の片付けの際に、D 氏のグループの他のメンバーに話を伺ったが、インド人だが養子として D 氏のグループのメンバーに加わり、日本人となった男性が、今は、東京の一般企業で働いているが、自分の教会が伝道活動をあまりしないので、D 氏のグループで活動をしているという話をしていた。

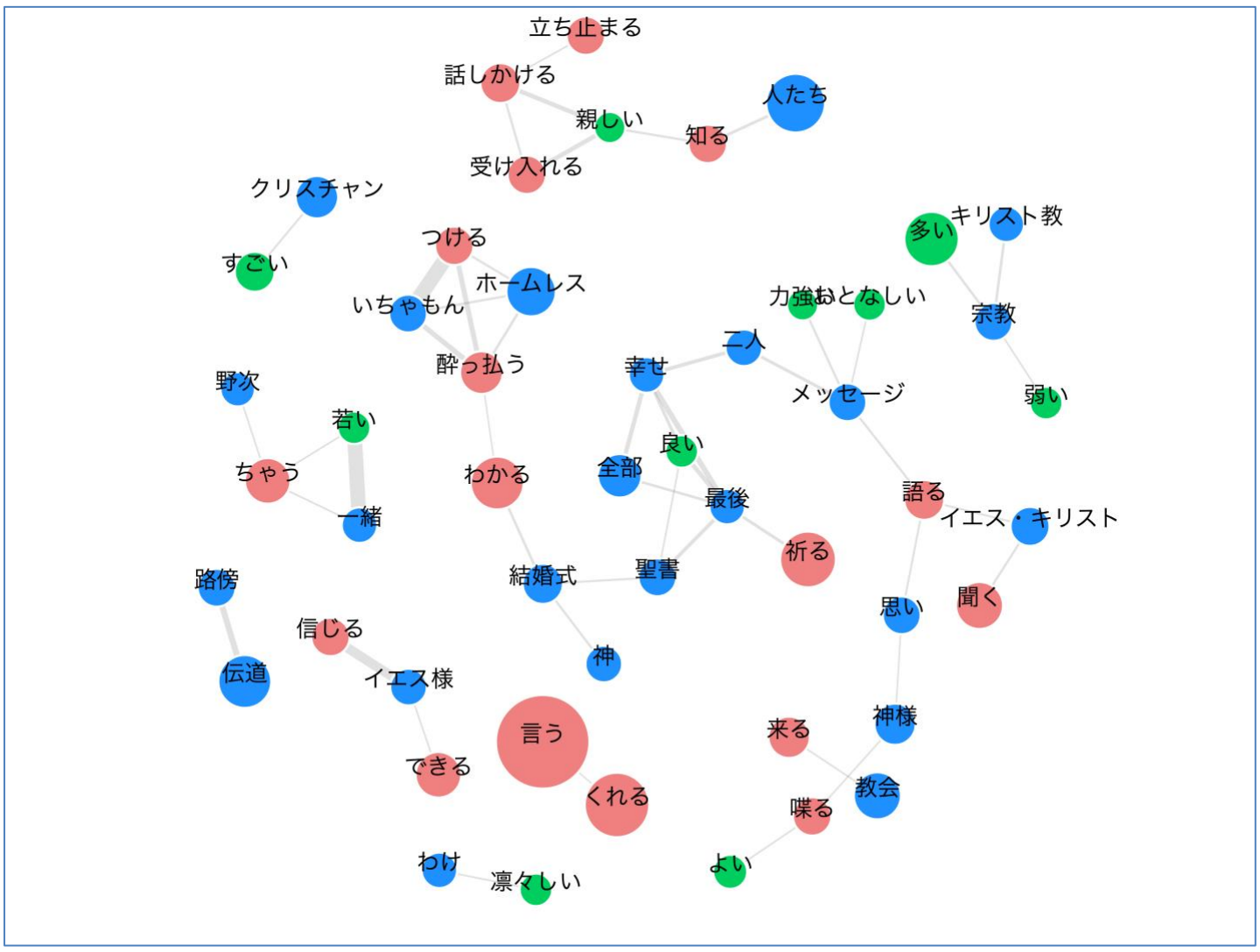
2.5.4 二回の参与観察を通して

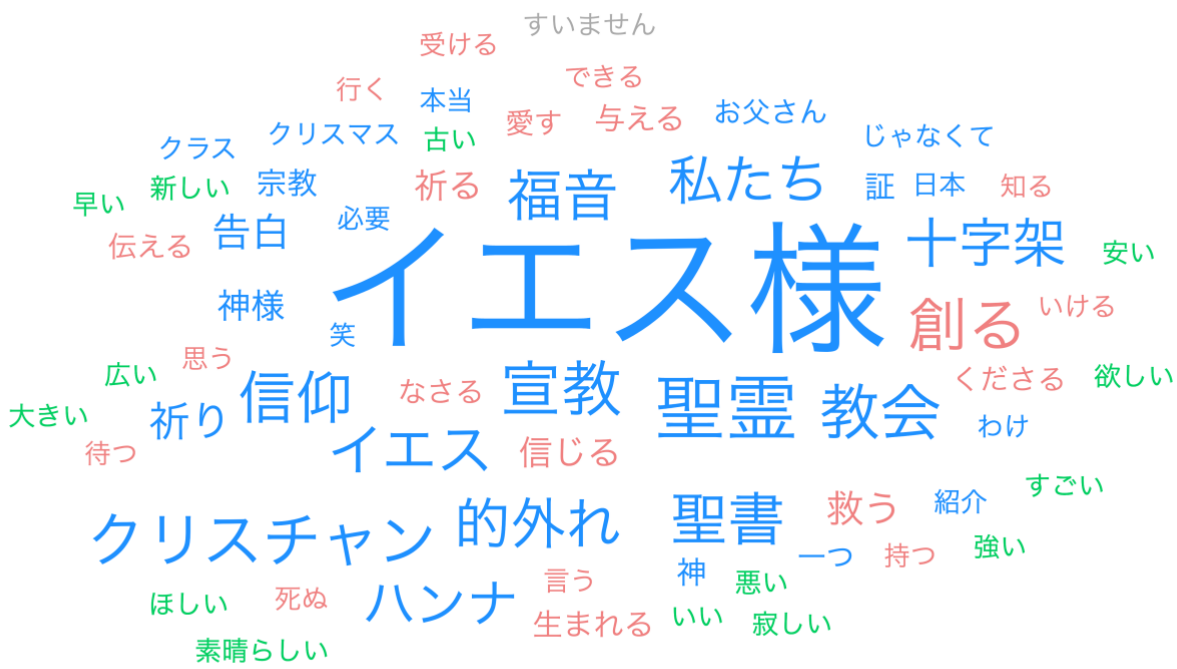
極寒の中で、無言で（私は一緒に立っていた人と話していたが、グループの人たちはほとんど 1 人ずつ立っていて無言である）立っているのは、相当の苦痛である。さらに、キャンピングカーで生活し、連日活動をしている。もし義務であるとしたらとてもできることではないと感じた。伝道対象との直接のやりとりは少ないため、傷付いたりすることは少ないと思うが、伝道方法自体が相当身体的精神的に負担である。目に見える「やりがい」は何もない。D 氏の語ったように、「種まき」をする役割を心から受け入れていなければできない。彼らは、英語、中国語、日本語（外国人もいる）ができるのにも関わらず、積極的にコミュニケーションを取ろうとしないことは疑問が残った。私がしたように伝道対象とコミュニケーションを取ろうと思えば、たった二回の活動でも取れる機会があるのである。グループの人々は実際に関わってみるととてもフレンドリーな人たちで、突然話しかけても、何の戸惑いもなく親切に答えてくれる。トラクトも一応持っているが、ほとんど配っていない。

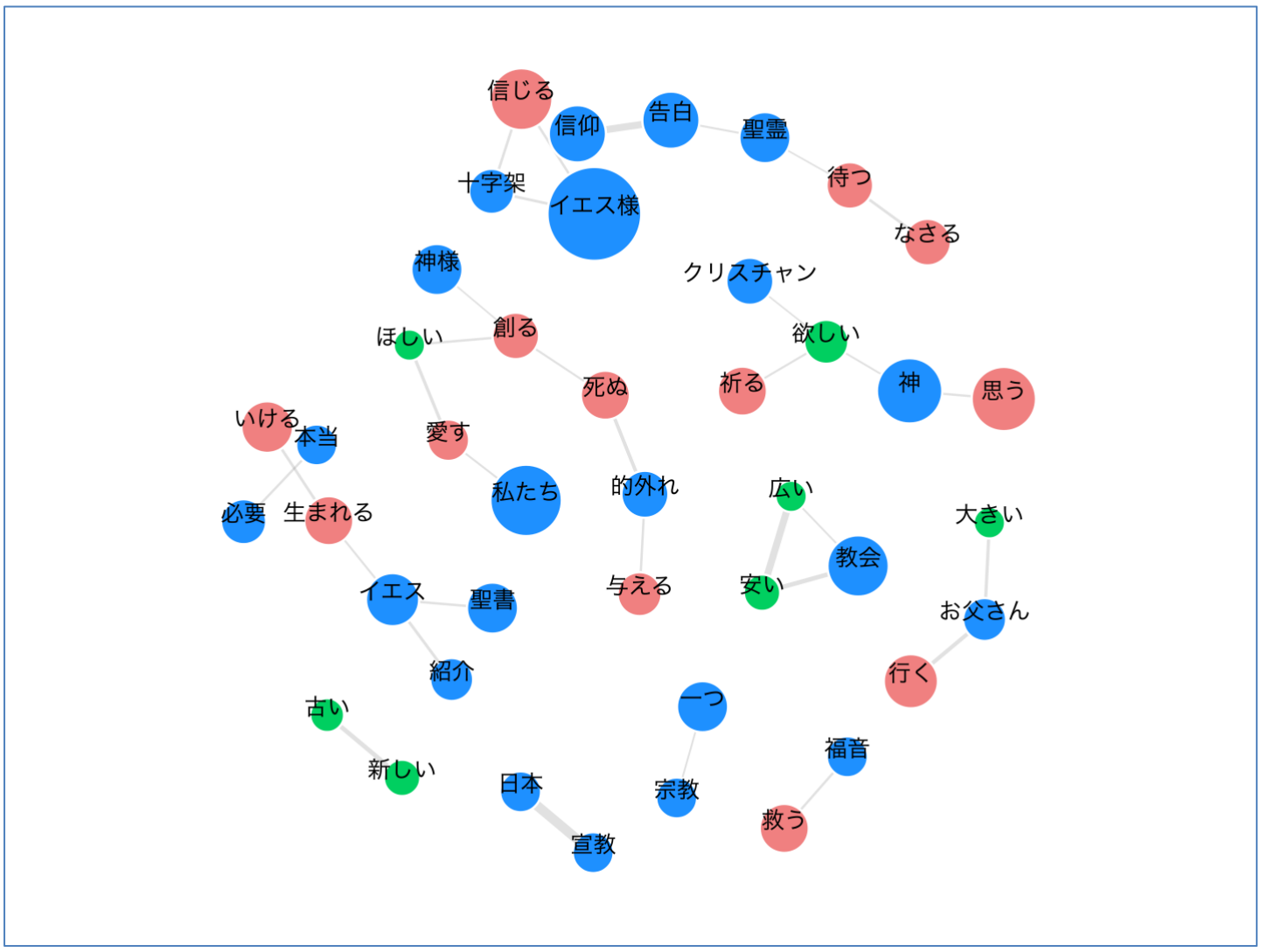
2.6　テキストマイニング による比較

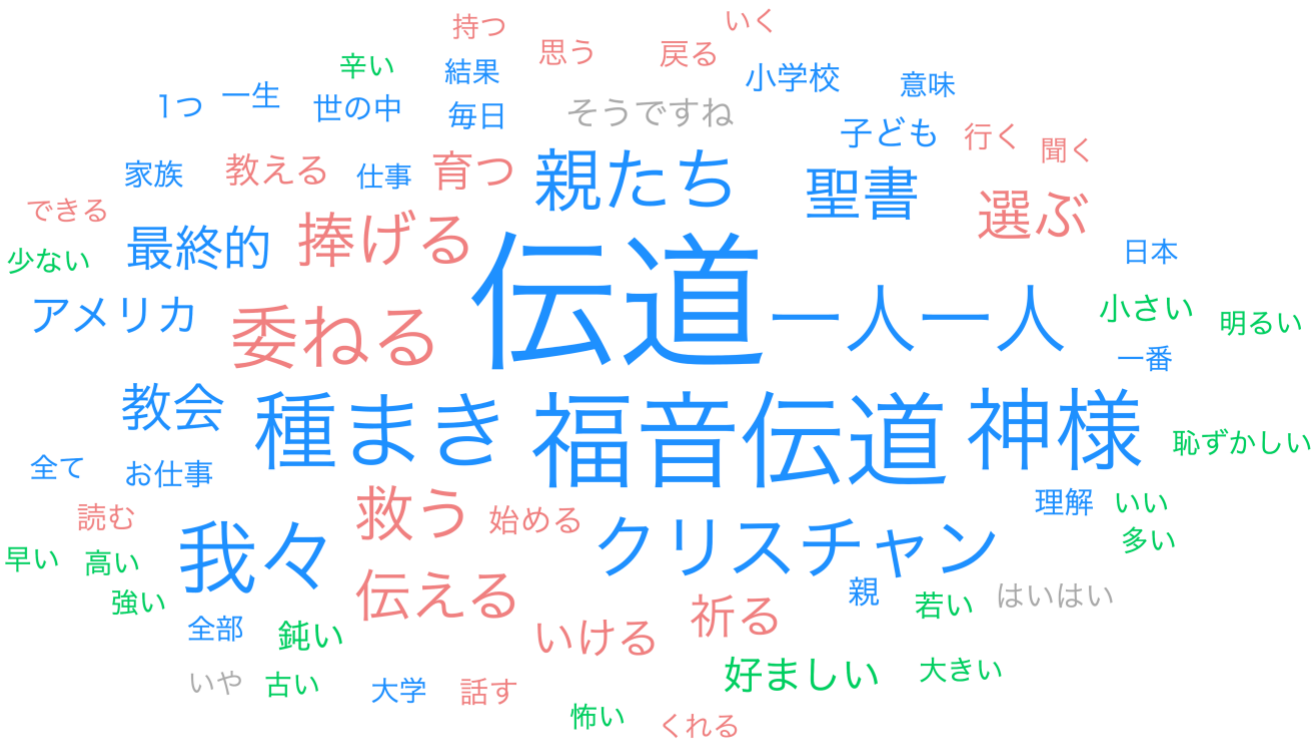
2.6.1 ワードクラウドと共起マップによる比較　上から B 氏（p41）、C 氏(p42)、D 氏(p43)、E 氏(p44)

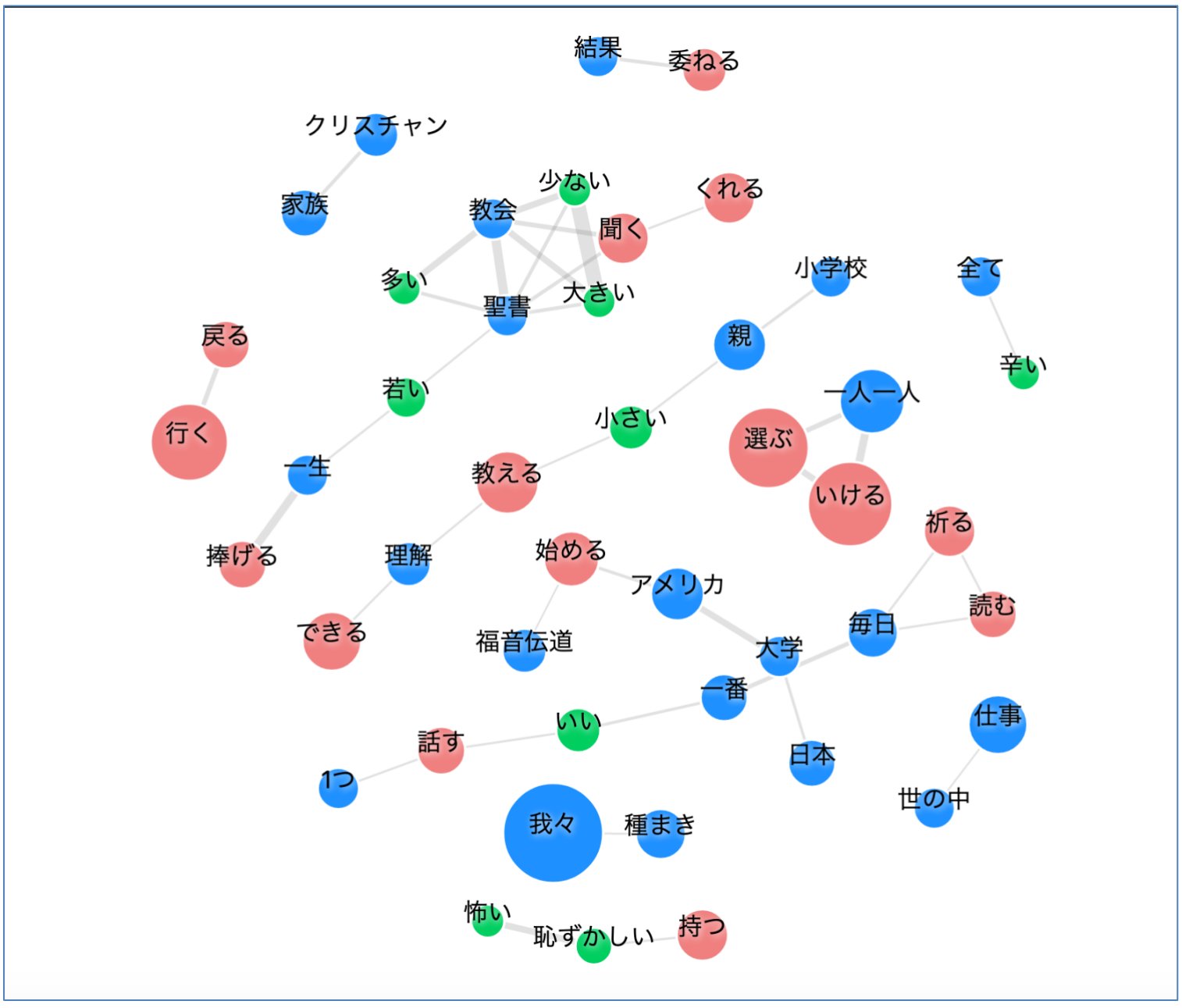

伝道
ホームレス
イエス・キリスト
クリスチャン
イエス様
路傍
野次
いちゃもん
キリスト教
宗教
教会
聖書
祈る
人たち
立ち止まる
迫害
酔っ払う
話しかける
結婚式
メッセージ
全部
若い
わけ
わかる
幸せ
できる
いや
語る
大人しい
すごい
良い
ちゃう
いい
思う
うとい
親しい
やすい
つける
ありがとう
喋る
受け入れる
神様
づらい
うるさい
出て
来る
最初
力強い
弱い
最後
二人
おとなしい
よい
行く
くれる
僕
怖い
神
知る
話す
白い
美しい
一緒
凛々しい
聞く
信じる
思い
言う
偉い

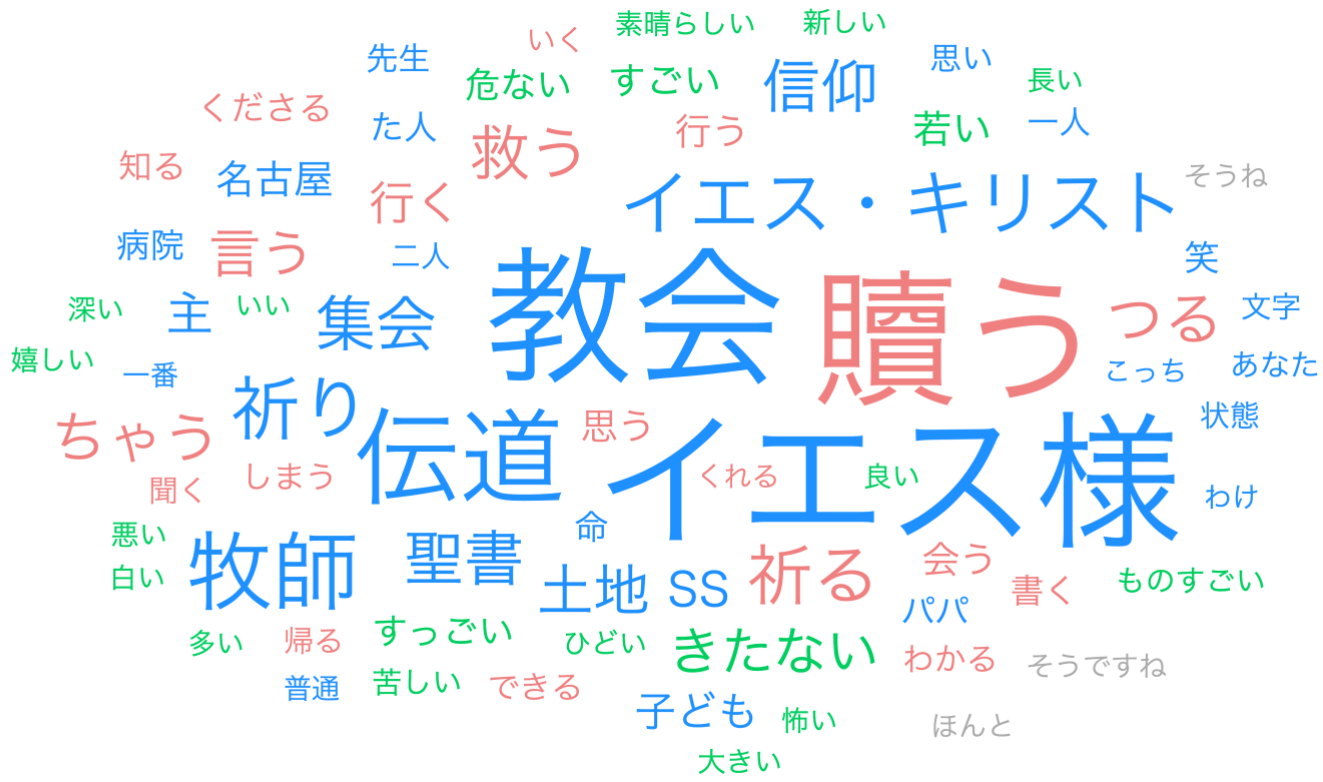

立ち止まる
話しかける
人たち
親しい
知る
受け入れる
クリスチャン
すごい
つける
ホームレス
いちゃもん
酔っ払う
多い
キリスト教
宗教
力強い
おとなしい
二人
幸せ
メッセージ
弱い
野次
若い
ちゃう
一緒
わかる
全部
良い
最後
語る
イエス・キリスト
祈る
聖書
結婚式
路傍
聞く
思い
信じる
伝道
イエス様
神
言う
来る
神様
できる
くれる
教会
喋る
よい
わけ
凛々しい

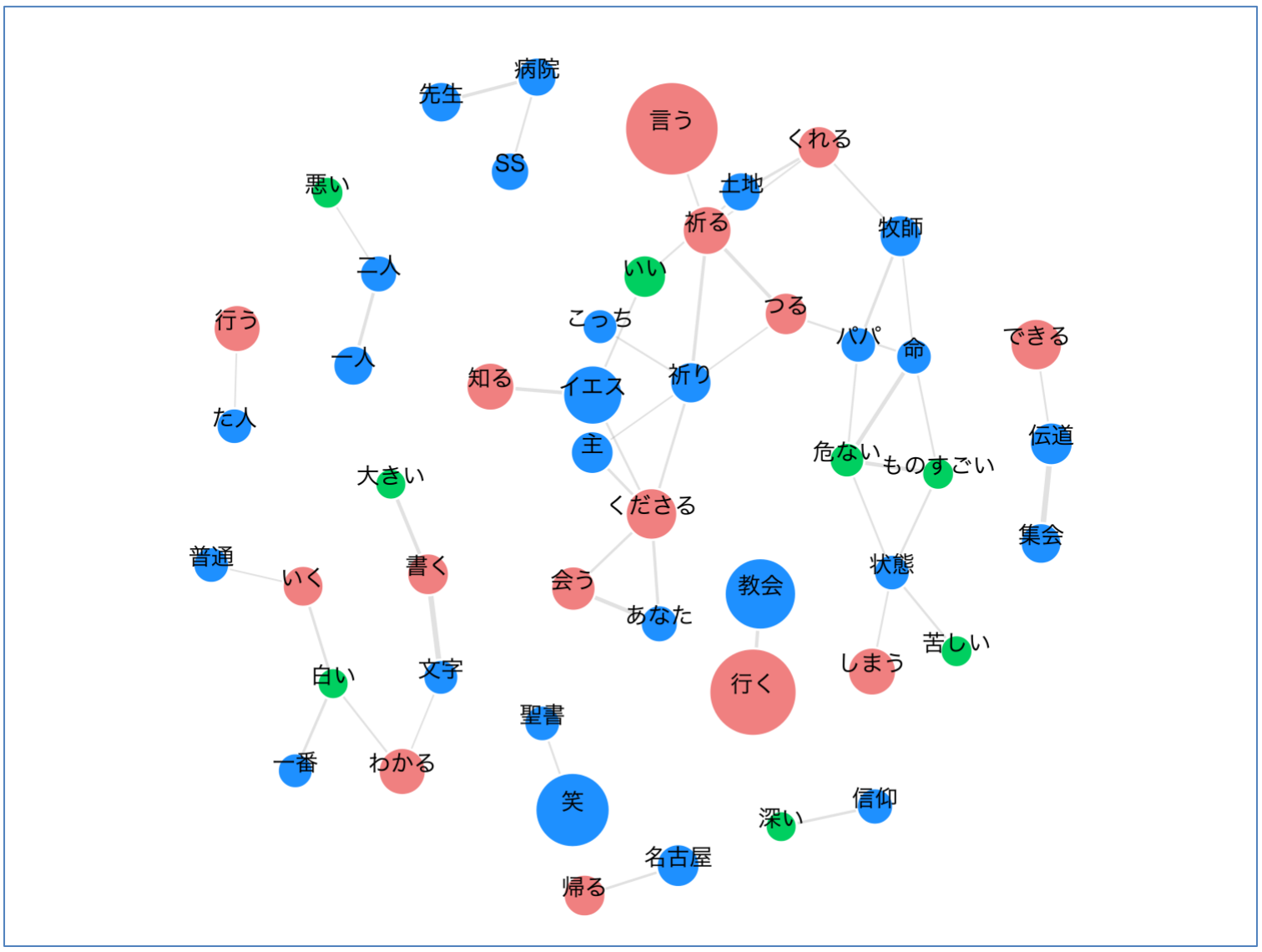

すいません
受ける
できる
行く
本当
愛す
与える
お父さん
クラス
クリスマス
古い
じゃなくて
早い
新しい
宗教
祈る
福音
私たち
証
日本
知る
伝える
告白
必要
十字架
安い
神様
イエス様
創る
いける
笑
広い
思う
信仰
宣教
聖霊
教会
くださる
欲しい
大きい
祈り
なさる
わけ
待つ
イエス
信じる
すごい
紹介
クリスチャン
的外れ
聖書
救う
一つ
持つ
強い
神
悪い
言う
ほしい
死ぬ
ハンナ
生まれる
いい
寂しい
素晴らしい


信じる
信仰
告白
聖霊
十字架
イエス様
待つ
なさる
神様
クリスチャン
ほしい
創る
欲しい
死ぬ
祈る
神
思う
いける
本当
愛す
私たち
的外れ
広い
必要
生まれる
大きい
教会
イエス
聖書
与える
安い
お父さん
紹介
行く
古い
一つ
福音
新しい
日本
宗教
救う
宣教


持つ
思う
戻る
いく
辛い
結果
小学校
意味
1つ
一生
世の中
毎日
そうですね
子ども
行く
聞く
家族
教える
仕事
育つ
親たち
聖書
選ぶ
できる
捧げる
日本
少ない
最終的
伝道
一人一人
小さい
明るい
アメリカ
委ねる
一番
教会
種まき
福音伝道
神様
恥ずかしい
全て
お仕事
理解
いい
読む
救う
始める
クリスチャン
多い
早い
高い
我々
強い
伝える
親
若い
はいはい
全部
鈍い
いける
祈る
好ましい
大きい
いや
古い
大学
話す
怖い
くれる


結果
委ねる
クリスチャン
家族
少ない
教会
くれる
聞く
多い
聖書
大きい
小学校
全て
戻る
親
辛い
若い
一人一人
行く
小さい
選ぶ
一生
教える
いける
祈る
捧げる
理解
始める
アメリカ
読む
できる
福音伝道
毎日
大学
一番
仕事
話す
いい
日本
1つ
世の中
我々
種まき
怖い
恥ずかしい
持つ





四者の相違点としてまず、挙げられるのは、「イエス」や「神様」という言葉についてである。C 氏は「イエス様」「十字架」「信じる」、「イエス」「紹介」の共起は伝道の際に用いられるものであり、C 氏が伝道に慣れ、いつでもスムーズに取り出せるストーリーとしてもっていることがわかる。「イエス様」の形で出てくることが多く、伝道の際の呼び方が一貫していることがわかる。インタビューの際も、伝道の流れはスラスラと話していて、何度も話しているということが伺えた。「神様」に関しても伝道の文脈で使われていた。一方、B 氏はイエス様と共起しているのは「信じる」「できる」であり、「イエスキリスト」の場合は、「語る」「聞く」である。また、「神様」に関しては、「思い」「喋る」である。B 氏は「イエス」を伝道の文脈で使い、「神様」を B 氏と「神様」とのコミュニケーションを語る上で使っていた。「イエス・キリスト」「イエス」「神様」「神」「主」など、バリエーションが最も多かった。　D 氏はインタビュー中「神様」という単語を 33 度用いているのに対して、「イエス様」は２度しか用いていない。聖書配布協会のホームページでは、「イエス・キリスト」という単語が使われている上に、看板や放送の中でも「イエス・キリスト」が多く使われていることから、教理によるものではないと考えられる。日本においては、「神様」というと神道の「神様」を思い浮かべることが多いので、意図的に「イエス様」を使う伝道者もいる。幼い頃からキリスト教コミュニティーの中で育っていることと、放送というスタイルを取り、他の二人の伝道者よりも直接伝道の機会が少ないために、区別の必要性をあまり感じていない

のではないかと思われる。伝道の文脈、個人的な信仰での文脈両方で使用されていた。S 氏は「イエス」を 40 回以上使っているのに対して、「神様」は 7 回と少ない。伝道の文脈で使われるのは、「イエス」である。癒しや伝道の具体的エピソードでは「イエス」が使われることが多い。さらに、他のどの伝道者よりも、S 氏個人と「イエス」の個人的な関わりへの言及が多く、「イエス」との精神的距離が非常に近いことがうかがえた。

二つ目の相違点として「聖霊」という言葉が、B 氏と D 氏は使っておらず、C 氏と E 氏が使っていることがある。C 氏は、信徒の成長の文脈で使い、E 氏は、伝道の重要な要素として使っていた。出現頻度は、C 氏 E 氏共に低いので、普段「聖霊」という言葉を使っているので B 氏は聖霊を意図的に避けたとは考えられないが、D 氏は教派的に使うことが少ない可能性が考えられる。D 氏のグループの看板やトラクトでも「聖霊」が使われているのは見たことが無い。「聖霊」については、教派により、解釈が分かれるところなので、教派によるところがあるのかもしれない。

三つ目の相違点として「教会」があげられる。D 氏のグループは教会を持たないので、「教会」は使われていない。B 氏は「教会」と「来る」が共起し、C 氏は「広い」「安い」が共起し、E 氏は、「行く」が共起している。B 氏は指導的な立場にある B 氏と、長年信徒である E 氏とで、「来る」と「行く」に対照的に教会への立場が現れている。キリスト教プロテスタントにおいては、「教会」は場所や建物を示すものではなく、「キリストのからだ」であると考えられているが、C 氏は教会を場所としての要素を切り出している。B 氏も E 氏も教会の人々との支えあいと葛藤について語っている。しかし、C 氏に関しては、教会の人々との関わりについて言及は少なかった。E 氏は「教会」というワードの出現頻度が最も多く、59 であった（B 氏 16、C 氏 15）。C 氏にとって教会の存在が信仰上非常に大きいことがうかがえる。B 氏は、教会を伝道の支え、障害のどちらの文脈でも語っていた。C 氏は、「教会」を自分自身との関わりの文脈で最も多く使い、客観的に教会を評価していなかった。様々な教会を渡り歩いた C 氏が教会を客観的に見ていないということは興味深い。渡り歩いている間も教会と精神的距離が常に近く、好意的な印象を持ち続けていたのだと考えられる。C 氏にとって教会は生活に密着したものである。B 氏は「クリスチャン」というワードの頻度が 11 であったが、C 氏は 2 であった。B 氏は指導的な立場としてクリスチャン全体を見渡し、またその視点で教会を見ていると考えられる。C 氏は、「個人＝クリスチャン」という文脈で使っているので、クリスチャン全体の視点で教会を見ていないのであると考えられる。

D 氏の語りは、他の三者とは異なる部分が多かった。まず、「我々」という一人称を使っているのが特徴的である。会社の代表的立場であると同時に聖書配布協会においても代表的立場であるためであると考える。クリスチャンとして代表的立場で話しているというよりは、彼らのグループを代表している語り方である。B 氏や C 氏が日本のプロテスタントのクリスチャンの伝道者として自分を位置づけていたのに対して、D 氏の立場は明らかに異なっている。C 氏はの自分の位置づけはクリスチャンであるということのみであった。図３からは、「我々」と最も共起関係が強い単語は、「種まき」である。「種まき」も D 氏が使った特徴的なワードであった。「神様」と共起関係が強かったのは、D 氏が強調していた「一人一人」という単語、そして「伝える」であった。「一人一人」も全体を代表する立場からの言葉であり、団体としての使命を明確に自覚しているのだと考えられる。

3　結論

伝道者が日本で伝道することに困難があると感じているかという点に関しては、B 氏と D 氏は、日本では伝道が難しいということをドミナント・ストーリーとして持っているが、B 氏はそのドミナント・ストーリーを実際の伝道活動によって、書き換え、日本で伝道することは特別に風土的に困難であるというのではなく、日本のクリスチャンの消極性をオルタナティヴ・ストーリーとして捉えている。D 氏は、「宣教師の墓場」という言葉を使ったように日本に風土的な伝道の難しさがあるというドミナントストーリーを持っていて、それは伝道活動によって書き換えられていない。宗教に対する不信感は、伝道の場所によりけりであり、結婚式、教会の教室では、不信感はキリスト教の文脈が存在するのは自明であるため、非キリスト教徒であったとしても特別不信感を抱くことはない。しかし、路上や公園などにおいては、日本ではキリスト教はその場の文脈に普通存在しないため、宗教としての不信感を持たれることも多い。それゆえ、C 氏とは異なって、B 氏と D 氏は路傍伝道で困難を感じている。しかし、その不信感の中でも個人と個人の深い関わりを経験している B 氏は、ストーリーの再定義が行われている。一方 C 氏は放送という伝道方法を使っているため、非キリスト教徒に直接伝道する機会が少ない。それゆえ、伝道の結果が見えにくいため、ストーリーの書き換えがグループとして長年行われていない。E 氏に関しては、最も伝道の期間が長期に渡っているが、日本では伝道が難しいというドミナント・ストーリーをもっていない。E 氏の思いと神の思いの一致の上に伝道があると考えている上、伝道をしようと思ってしていないと言っているので伝道全体を評価して語らないのは当然かもしれない。また、「癒し」などの数々の奇跡を経験している E 氏にとって「困難」というものは、「危険というのは、人間的に考えて危険なのであって、そういう時にこそ主の守りを。間近に感じられる。感じるじゃない知ることができる。本当に賛美することができますよ。」と語っているように、伝道を妨げる障壁ではないのであると考えられる。

いずれにしろ四者に共通することは、困難を感じていようとなかろうと伝道は自己目的的でないことである。伝道をすることで自分に何か利益があるという発言はなかった。むしろ、「迫害」や「恥ずかしさ」などネガティヴな経験をしている場合もある。もちろん「やりがい」という言葉は４人とも一度も使っていない。彼らは、自分が何をしたいか、何を達成したいかではなく、神様が何を望んでいるかを考えている。彼らは、自らを手段として神に捧げており、彼らの目は、手段は違えども

「イエス・キリスト」の一点に向いている。そしてその中で通る苦しみは、聖書の言葉によって乗り越えている。しかし、その御言葉はそれぞれ違っていた。E 氏に関しては、経験に基づく圧倒的な神への信頼と喜びで乗り越えている。四者とも伝道のみならず人生の大きな物語として「聖書」が置かれているが、どのように自らのナラティヴを評価するかはそれぞれである。B 氏は「迫害」の経験をイエス・キリストやパウロが経験したものと重ねて乗り越えて、イエス・キリストが人類のために十字架にかかったその愛の目線を自らも持つことで伝道のモチベーションを持った。C 氏は、宣教命令と喜び、祈り、賛美することを御言葉から深く受け取って、自分が救われた喜び、イエス様の素晴らしさを伝えたいという気持ちをモチベーションとして、まるで友人を紹介するかのように伝道を行っている。そして、結果が見えない困難はハンナやサラが待ち望んだ末に得た希望に自分の現実を重ねて乗り越えている。D 氏は両親の世代から受け継いだマタイ伝の宣教命令を握りしめて、世の栄光を得ることを捨てて、神のために仕える決断をした。そのモチベーションは自分が神様から受けた愛であり、結果が見えないという困難をアブラハムへの神の約束と重ね合わせて乗り越え、結果を完全に神に委ねることで、種まきに徹する伝道をしている。E 氏は全く神に従ったイエス・キリストをあるべき姿とし、神の思いと自分の思いの一致に重点を置いている。癒しの経験の数々は、聖書でイエスや弟子たちが行なったわざそのものであり、「癒し」が起こるという信仰は聖書の一つ一つのエピソードをそのまま現状に重ねていることから来ている。伝道の思いは、聖書の御言葉から来るもではなく、常にあふれて留めることが難しい喜びゆえである。

伝道者と一概に言っても、その方法は様々であり、驚くほど多様な経験をしている。今回全く違うタイプの伝道者 4 人にインタビューして同じ目的を目指しながらも、別な方法を使い、聖書によって構成されたリアリティーを記述できたのは有意義であったと考える。

4　謝辞

本研究を進めるに当たり、卒論メンターの小熊英二教授からは多大な助言を賜りました。厚く感謝を申し上げます。また、インタビューにご協力いただいた、伝道者の 4 人の方、また協力してくださった、聖書配布協会の方々には貴重なお時間を頂戴して丁寧にお答えくださったことを心から感謝いたします。

5　参考文献

・研究会 F グループ.共同研究日本ではなぜ福音宣教が実を結ばなかったか.愛知.いのちのことば社.2012.79p
・野口裕二編.ナラティヴ・アプローチ.第 1 版.東京.勁草書房.2009.279p
・ノーマン・フェアクラフ.ディスコースを分析する.第 1 版.東京.くろしお出版.2012
・「ライフヒストリーの社会学」弘文堂,中野卓・桜井厚編 Feb15,1995
・エリヤ会出版委員会.エリヤのように.埼玉.プレイズ出版.2009
・「質的調査法を学ぶ人のために」世界思想社,北澤毅/古賀正義[編],May20,2008
・文化庁宗教年鑑 http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenjihokokusho/shukyo_nenkan/index.html
・“親分はイエス様の作品情報・感想・評価”. Filmarks 映画. 2018-12-29.https://filmarks.com/movies/34832, (2019-01-19).
・グレープシティ株式会社“創設者 - 会社概要 | グレープシティ株式会社 - Corporate Portal Home”. 2018-6-11.https://www.grapecity.co.jp/about/founder.htm.GrapeCity(2019-01-28)
・聖書配布協会“聖書配布協力会--聖書配布協力会とは”. 2015-7-31. http://www.bdljapan.com/h/p12-06.html.(2019-01-27)
・ユーザーローカル テキストマイニングツール（ https://textmining.userlocal.jp/ ）